

日本映画大学 映画学部

シラバス

(授業内容)

2021年度

「シラバス」は、受講科目を選択する上で必要となる各科目の授業内容を記載したものです。各科目の記載内容をよく読んで、十分に活用してください。

本書のほかに『学生便覧』（入学時のみ）、「授業時間割表」、「科目配分表」を配付します。これらには履修上必要な事柄が記載されていますので、大切に保管し履修に役立ててください。

履修に関する事項、授業に関する事項など、学生支援部からのお知らせは、各校舎の掲示板または日本映画大学メールで行いますので必ず確認してください。

目次

目次	2
学年暦・授業日程一覧	4
教育方針	5
シラバスの見方	6
成績評価	7
欠席時の対応	8

【シラバス(授業内容)】

教養科目(基幹)

スタートアップ演習	9
人間総合研究	10

教養科目/専門科目(選択)

日本映画史Ⅰ[前期]	11
映画史概論[前期]	12
日本映画史Ⅰ[後期]	13
映画史概論[後期]	14
日本映画史Ⅱ	15
ドキュメンタリー映画史	16
映画史基礎(1年生)	17
映画史基礎(2年生)	18
表象文化論Ⅰ	19
テーマ研究Ⅰ<アジア映画入門>	20
サブ・カルチャー論	21
フィルム・アーカイヴ	22
テーマ研究Ⅱ<アジアのフィルム・ノアール>	23
表象文化論Ⅱ	24
テーマ研究Ⅲ<ホラー映画論>(3年)	25
アニメーション・特撮文化論	26
テーマ研究Ⅳ<ヨーロッパ映画論>(3年)	27
テーマ研究Ⅴ<シャレード概論>	28
日本文化論	29
テーマ研究Ⅳ<ヨーロッパ映画論>(4年)	30
テーマ研究Ⅲ<ホラー映画論>(4年)	31
物語論	32
文芸映画論	33
映画と文学	34
芸能概論	35
写真論	36
ファッション文化史	37
美術史Ⅰ<日本美術史>	38
映画と演劇	39
文学	40

美術史Ⅱ<西洋美術史>	41
映画と音楽	42
英米文学	43
演劇史<物語の原型を探る>	44
哲学	45
映像と美術	46
映画で学ぶ歴史と社会Ⅰ	47
心の健康	48
映画で学ぶ歴史と社会Ⅱ<国際情勢>	49
映画流通論Ⅰ	50
社会学	51
映画流通論Ⅱ	52
デジタル映像技術概論	53
映画で学ぶ歴史と社会Ⅲ<ジェンダーとセクシュアリティ>	54
映画と法	55
映画で学ぶ歴史と社会Ⅳ<ネイションとエスニシティ>	56
映画で学ぶ歴史と社会Ⅴ<現代思想>	57
映画で学ぶ歴史と社会Ⅵ	58
異文化コミュニケーション	59
英語Ⅰ	60
日本語Ⅰ	61
中国語	62
文章作法	63
国際合同制作<日韓合同映画制作>	64
日本語Ⅱ(Aクラス)	65
日本語Ⅱ(Bクラス)	66
英語Ⅱ	67
韓国語	68
キャリア・サポート	69
こども映画教育演習	70
インターンシップ	71

専門基礎科目

演劇WS	72
ドキュメンタリーWS	73
デジタル動画WS	74
演出論Ⅰ	75
録音WS	76
動画配信WS	77
映画プロデュースWS	78
映画美術演習Ⅰ	79
映画美術演習Ⅱ	80
脚本WS	81
編集WS	82
特殊撮影・VFX基礎	83
演出論Ⅱ	84
特殊撮影・VFXWS	85

上映企画WS	86	卒業制作〈シナリオ〉(脚本コース)	125
基礎科目		卒業制作〈文芸〉(文芸コース)	126
脚本基礎演習	87	卒業シナリオⅠ(脚本コース)	127
映画制作基礎演習	88	卒業論文Ⅱ(映画・映像文化コース)	128
長編シナリオ演習Ⅰ	89	資格科目	
長編シナリオ演習Ⅱ	90	映画祭プロジェクト	129
長編シナリオ制作(再履修)	91	科目別索引	130
長編シナリオ演習Ⅱ(再履修)	92	授業担当教員	132
専門科目(2年)		実務経験のある教員等による授業科目	134
演出基礎演習Ⅰ〈ドキュメンタリー〉	93		
撮影照明基礎演習	94		
録音基礎演習	95		
編集基礎演習	96		
雑誌制作	97		
演出基礎演習Ⅱ〈ワンシーン〉	98		
撮影照明専門演習	99		
録音専門演習	100		
編集専門演習	101		
インプロビゼーション演習	102		
専門科目(3年)			
演出専門演習〈3分エチュード〉	103		
身体表現専門演習	104		
ドキュメンタリー専門演習Ⅰ	105		
技術合同演習(撮影照明コース)	106		
技術合同演習(録音コース)	107		
技術合同演習(編集コース)	108		
脚本専門演習Ⅰ〈短編映画制作〉	109		
文芸専門演習Ⅰ〈読解・ライティングWS〉	110		
合同制作〈ドラマ〉(演出コース)	111		
合同制作〈身体表現Ⅱ〉(身体表現・俳優コース)	112		
ドキュメンタリー専門演習Ⅱ	113		
合同制作〈ドラマ〉(撮影照明コース)	114		
合同制作〈ドラマ〉(録音コース)	115		
合同制作〈ドラマ〉(編集コース)	116		
脚本専門演習Ⅱ〈脚色〉	117		
文芸専門演習Ⅱ〈批評〉	118		
専門科目(4年)			
卒業制作〈ドラマ〉(演出コース)	119		
卒業制作〈公演〉(身体表現・俳優コース)	120		
卒業制作〈ドキュメンタリー〉	121		
卒業制作〈ドラマ〉(撮影照明コース)	122		
卒業制作〈ドラマ〉(録音コース)	123		
卒業制作〈ドラマ〉(編集コース)	124		

2021年度学年暦・授業日程一覧

 授業実施日

 授業調整日 (ガイダンス・補講・試験等)

【前期】 4月1日～9月30日

	日	月	火	水	木	金	土
4月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

	日	月	火	水	木	金	土
5月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
30	31						

	日	月	火	水	木	金	土
6月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

	日	月	火	水	木	金	土
7月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

	日	月	火	水	木	金	土
8月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

	日	月	火	水	木	金	土
9月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

【後期】 10月1日～3月31日

	日	月	火	水	木	金	土
10月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

	日	月	火	水	木	金	土
11月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

	日	月	火	水	木	金	土
12月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

	日	月	火	水	木	金	土
1月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

	日	月	火	水	木	金	土
2月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28					

	日	月	火	水	木	金	土
3月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

- 4月 2日(金) 前期ガイダンス (2・3・4年)
- 5日(月) 入学式・総合ガイダンス
- 5日(月)～8日(木) 前期履修登録 (2・3・4年)
- 6日(火)～9日(金) 新入生ガイダンス
- 7日(水)～8日(木) 前期履修登録 (1年)
- 12日(月) 授業開始
- 13日(火)～15日(木) 追加履修登録
- 29日(木) 昭和の日 (授業実施日)

- 5月 3日(月) 憲法記念日 (休日)
- 4日(火) みどりの日 (休日)
- 5日(水) こどもの日 (休日)

- 7月 22日(木) 海の日 (授業実施日)
- 23日(金) スポーツの日 (授業実施日)

- 8月 8日(日) 山の日 (休日)
- 9日(月) 山の日振替休日 (授業実施日)
- 9日(月)～10日(火) 授業調整日
- 10日(火) 前期授業終了
- 23日(月) 前期履修結果発表
- 23日(月)～25日(水) 前期再試験手続期間
- 27日(金) 前期再試験期間

- 9月 6日(月)～17日(金) 夏期集中科目授業期間
- 13日(月) 後期ガイダンス (1・2年)
- 13日(月)～16日(木) 後期履修登録
- 14日(火) 後期ガイダンス (3・4年)

- 9月 20日(月) 敬老の日 (授業実施日)
- 後期授業開始
- 20日(月)～22日(水) 追加履修登録
- 23日(木) 秋分の日 (授業実施日)
- 24日(金) 前期末卒業式

- 10月 2日(土) 夏期集中科目履修結果発表
- 15日(金) 創立記念日 (授業実施日)

- 11月 3日(水) 文化の日 (授業実施日)
- 15日(月)～20日(土) 授業調整日
- 23日(火) 勤労感謝の日 (授業実施日)

- 12月 15日(水) 系・コース選択ガイダンス (1年)
- 25日(土) 年内授業終了
- 28日(火)～1月4日(火) 事務局休業

- 1月 6日(木) 授業再開
- 10日(月) 成人の日 (休日)
- 27日(木)～29日(土) 授業調整日
- 31日(月)～2月10日(木) 春期集中科目授業期間

- 2月 11日(金) 建国記念の日 (休日)
- 12日(土)～3月31日(木) 学年末休業
- 18日(金) 後期履修結果発表
- 18日(金)～21日(月) 後期再試験手続期間
- 23日(火) 天皇誕生日 (休日)
- 24日(木)～25日(金) 後期再試験期間

- 3月 5日(土) 卒業生発表
- 18日(金) 卒業式

教育方針

建学の精神

1975年、今村昌平監督は「横浜放送映画専門学院」を開設した。

かつては映画人の育成は撮影所が行っていた。しかし撮影所にもうその余裕はなく、映画を志す若者たちの行き場がなくなっていたのである。

今村が目指したのは映画人による実践的な映画教育だった。「既成のルールを拒否し、曠野に向かう勇気ある若者たちよ、来たれ！」という呼びかけに全国の若者たちが集まった。

その後、横浜から川崎新百合ヶ丘に移り、「日本映画学校」と名を変えても、途切れなく映画界、芸能界に人材を供給してきた。それ以外の卒業生たちも、ここで学んだ映画的思考を武器に、他の分野で活躍している。

映画は伝統芸能ではない。技術革新に対応し社会変化に連動し、時代によってその形を変えていくものだ。白黒からカラー、サイレントからトーキー、フィルムからデジタル——それまでの常識が否定されたとき、映画表現は一気に拡大した。改革を怖れず、新しい技術を駆使し、人種国境文化の壁を軽々と越え、人間の営み、その愚かさと美しさを描いてきた。

社会が変われば映画も変わり、映画に必要とされるものも変化していく。激動の世界に対応できる才能を育てるため、2011年春「日本映画学校」は「日本映画大学」に生まれ変わった。

未来の映画人には、これまで以上に高い技術力と広い教養、世界に通じる見識が求められるだろう。

しかし、最も大切なのは自由な精神、未踏の地に踏み込む勇気である。

これからも我々は、「曠野に向かう勇気ある若者たち」の集まる場所であり続けたい。そう願っている。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

日本映画大学は以下のような学生を求めています。

- 1) 美醜や善悪および人間の欲望全般に強い関心を持っている。
- 2) 映画や小説をはじめ芸術・芸能が好きである。
- 3) 他人と協力することができる。

カリキュラム・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

日本映画大学は、以下の科目構成によって、映画制作の技術を実践的に体得し、映像文化の歴史を理論的に理解し、社会に貢献する教養と人格を身に付けた学生を育成します。

- 1) 教養科目 ……映像文化の歴史を知り、映像を読み解くための基礎的な学力を身につける。同時に、映画にとどまらず広く社会一般を洞察する力を養う。
- 2) 基礎科目 ……演習を通して映画制作の基礎的な知識と技術を学ぶ。
- 3) 専門基礎科目 ……各コースの基礎を学ぶとともに、専門科目で修得する知識や技術をさらに発展させるための力を身につける。
- 4) 専門科目 ……各コースに分かれて専門性を究めるとともに、他のコースと合同で課題に取り組むことでチームワークの重要性を理解し、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 5) 4年間の学びの集大成として、卒業制作に取り組む。社会との関わりを持つため、成果の公表まで学生の手で行う。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

日本映画大学は、以下の要件を満たした学生に、映画学士の学位を授与します。

- 1) 映画制作の技術の実践的な体得。
- 2) 映像文化の歴史の理論的な理解。
- 3) 社会に貢献するための教養と人格。
- 4) 他者とともに問題解決に臨む姿勢。
- 5) 所定の卒業必要単位の修得。

シラバスの見方

科目名	授業科目名のほか、〈 〉には副題が、() [] にはコースまたはクラスの指定がそれぞれ記載されています。
担当者名	当該科目を担当する教員（創作系科目については専任教員のみ）が記載されています。なお、複数の担当者が記載されている場合は、先頭の教員が主担当者となります。
入学年度	入学年度によって履修できる科目が異なります。入学年度と学年の関係は次のとおりです。なお、編入学生や復学した学生の場合は、在籍する学年の入学年度に準じます。 [2021] 1年生 [2020] 2年生 [2019] 3年生 [2018] 4年生
科目区分	専門性の度合に応じて、「教養科目」「基礎科目」「専門基礎科目」「専門科目」の区分があります。
科目分類	履修する上での条件に応じて、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に分類されます。必修科目は必ず全員が履修する科目です。
授業形態・単位数	すべての授業科目は、「講義」「演習」「実習」のいずれかに属します。これら授業の形態に応じて、必要な学修時間と単位数が定められています。
配当年次	当該科目が履修できる学年を表しています。記載のない学年での履修はできません。
学期	授業が行われる時期を表しています。なお、「通年」は前期および後期にまたがって授業が行われます。
講義型	各授業科目には、時間割編成上の「講義型」が設定されています。「講義型」を見ると時間割のパターンがわかります。 A1（1×15） 毎週1コマの授業が15週にわたって行われます。 B1（3×5） 毎週3コマ連続の授業が5週にわたって行われます。 C1（1+2×7） 初回1週目は1コマの授業、翌週から2コマ連続の授業が7週行われます。 C2（2×7+1） 1週目から2コマ連続の授業が7週行われ、最終8週目は1コマの授業となります。 C3（2×6+3） 1週目から2コマ連続の授業が6週行われ、最終7週目は3コマの授業となります。 C4（2×8） 毎週2コマ連続の授業が8週にわたって行われます。 E（集中） 夏期や春期などの休業期間に集中的に行われます。 F（その他） 上記のいずれにもあてはまらない科目です。
校舎	授業が行われる校舎を表しています。白山校舎〔白山〕、新百合ヶ丘校舎〔新百合〕
履修条件	当該科目を受講する上で履修しておかなければならない科目（先修条件）、あるいは履修しておくことが望ましい科目が記載されています。また、【読替科目】に指定されている科目が履修済の場合は、当該科目の履修はできません。
授業概要	授業の全体像が把握できるよう、科目全体の内容、ねらい、授業で扱う学問的テーマ、授業の進め方といった、授業内容の概略が記載されています。
到達目標	当該科目を履修した結果、どのような知識や能力が修得できるようになるのかといった到達目標が記載されています。
授業計画	毎回の授業計画が記載されています。その回においてどのようなことを学ぶか、どのような授業が行われるのかをあらかじめ知ることができます。
授業外学習	授業外での事前・事後の準備学習（予習・復習に必要な時間や学修内容等）についての指示が記載されています。
教科書・主要参考書	使用する教科書、参考書が記載されています。なお、教科書の入手方法は掲示によって行います。
評価方法	当該科目の単位を修得するにあたり、どのような評価方法に基づいて行われるのが記載されています。
教員への連絡方法	授業開講日以外の日、授業内容についての質問を受け付ける場合の連絡方法が記載されています。なお、専任教員についてはオフィスアワー制度も設けられていますので、そちらも活用してください。

成績評価

成績評価は、シラバスに記載されている評価方法に従って行われます。

成績の評価基準

本学における成績の評価基準は次のとおりです。

成績区分	評価	評点	Grade Point	評価内容
合格	S	100～90点	4.0	特に優れた成績
	A	89～80点	3.0	優れた成績
	B	79～70点	2.0	合格が妥当と認められる成績
	C	69～60点	1.0	合格が妥当と認められる最低限の成績
	N	認定	対象外	—
不合格	F	59点以下	0	合格と認められない成績

- ・履修登録した科目について、学期末および学年末に学修状況とその結果を考査した結果、合格した者に対して、授業担当教員がその科目の修了を認定し、所定の単位を与えます。
- ・評価は、平常の学修状況、定期試験、レポート等の結果によります。
- ・単位が認定された科目は、成績が不本意でも科目の評価を取り消したり、再度その科目を履修しなおすことはできません。
- ・入学前の既修得単位として単位認定された科目等の評価は、「N」で表示されます。

GPA制度

科目の履修にあたっては、単に卒業するために必要な単位を修得するだけでなく、学業成績の状況を自分自身で的確に把握し、主体的かつ充実した学修効果が得られるよう努力していく必要があります。そのため本学では、学修成果の評価方法として、GPA（Grade Point Average = 成績平均値）制度を導入しています。この制度は、各科目の成績評価から数値の平均値が算出され、その値をもとに学修到達レベルの的確な把握や履修指導、カリキュラムの見直しなどといった学修支援に用いられます。学期ごとに算出されるGPAを検証し、履修計画に役立ててください。

履修した各授業科目の単位数にGrade Pointを乗じて、その合計を履修単位数の合計で除したものがGPAです。GPAの計算式と算出例は以下のとおりです。

$$\frac{(Sの単位数 \times 4.0) + (Aの単位数 \times 3.0) + (Bの単位数 \times 2.0) + (Cの単位数 \times 1.0)}{\text{総履修登録単位数（不合格Fおよび再履修を含む）}}$$

GPAについての注意点

- ・ GPAには学期GPA、年度GPAと通算GPAがあり、学期GPAは当該学期に評価された科目のGPA、年度GPAは当該年度に評価された科目のGPA、通算GPAはこれまでに評価されたすべての科目のGPAです。
- ・ 前期および後期終了後、成績確認のために学生に配付並びに保証人に送付する「学業成績通知書」には、学期GPA、年度GPAと通算GPAが記載されます。進学や就職などで使用する「成績証明書」には、通算GPAのみが記載されます。
- ・ 対象となる科目は、卒業に必要な単位として開講される授業科目のみで、自由科目など卒業に必要な単位として認められていない科目は計算から除外されます。
- ・ 不合格となり、次年度以降再履修をして合格となった場合は、その科目のGrade Point は合格したGrade Pointに書き換えられます。なお、再履修前の不合格評価については、通算GPAには算入されませんが、学期GPAまたは年度GPAには算入されます。
- ・ 単位認定科目「N」および履修を取り消した科目は、原則としてGPAの算出から除外されます。
- ・ 追試験・再試験による成績評価もGPAの対象となります。

GPAによる履修指導

一度に多くの科目を履修すると予習・復習の学習時間を確保することができず学修効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を46単位と定めています。なお、学生個人の学修状況に応じて、履修単位数の上限は次のように変動します。

ア 前年度のGPAが3.5以上の学生は、履修単位数の上限に6単位が加算されます。

イ 前年度のGPAが3.0以上の学生は、履修単位数の上限に2単位が加算されます。

ウ 前年度のGPAが1.5未満の学生は、学修指導の必要上、履修単位数の上限を減じることがあります。

前学期のGPAが1.5未満となった学生に対しては、学生支援部による助言や担当教員からの指導を行います。また、必要に応じて保証人（保護者）と面談を行うことがあります。

欠席時の対応

授業に出席しない場合はどのような理由であれ欠席となります。事前に欠席することが明らかな場合は、まず授業担当教員に相談してください。欠席をどのように扱うかは、授業担当教員にゆだねられています。事務室に欠席する旨を申し出ても授業担当教員への伝達は行いませんので、シラバスに記載されている「教員への連絡方法」により直接連絡し、指示を仰いでください。

長期にわたって欠席をする場合は、授業担当教員等と緊密な連絡をとり、その科目の履修と単位修得に遺漏のないようにしてください。

学校感染症に感染した場合

学校保健安全法により定められた学校感染症と診断された場合は、感染拡大を防ぐため、主治医から就学可能の判断があるまでは大学に登校することができません。出席停止となる感染症の種類は、学校保健安全法施行規則第18条により次のとおり定められており、感染症の種類に応じて出席停止の期間が決められています。感染症に罹患した場合は病院または自宅で療養するとともに、すみやかに学生支援部に連絡し、必要な手続きを行ってください。

	感染症の種類
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る）、特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症
第二種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

- ・登校可能となった日を含む7日以内に、「欠席（公欠）届」（教学様式第10号）と「罹患・治癒証明書」を学生支援部に提出してください。
- ・学生支援部により押印された「欠席届」をコピーし、授業担当教員に提出してください。
- ・罹患期間内の授業の欠席は、欠席回数には算入されません。ただし授業に出席していないことには変わりはありませんので、この届出により単位が修得できることを保証するものではないことに注意してください。
- ・試験期間に欠席となった場合は、追試験を受験することができますので、所定の期間に手続きを行ってください。

裁判員制度に伴う欠席

裁判員選任手続き期間または裁判員に選任された公判のため、裁判所へ出頭する必要があり、授業を欠席しなければならない場合は、裁判所から送付された書類をよく読み、自身の授業スケジュールを確認したうえで、手続きを行ってください。

裁判員に選任された場合

公判終了日の翌日から7日以内に、裁判所が発行する、裁判員の職務従事期間についての「証明書」を持参し、学生支援部備え付けの「欠席（公欠）届」（教学様式第10号）に必要事項を記入のうえ、学生支援部に提出してください。

裁判員に選任されなかった場合

選任手続き期日の翌日から7日以内に、裁判所出頭日の証明を受けた「選任手続き期日のお知らせ（呼出状）」を持参し、学生支援部備え付けの「欠席（公欠）届」（教学様式第10号）に必要事項を記入のうえ、学生支援部に提出してください。

その他

- ・学生支援部により押印された「欠席届」をコピーし、授業担当教員に提出してください。
- ・授業の欠席は、欠席回数には算入されません。ただし授業に出席していないことには変わりはありませんので、この届出により単位が修得できることを保証するものではないことに注意してください。
- ・試験期間に欠席となった場合は、追試験を受験することができますので、所定の期間に手続きを行ってください。

科目名					担当者名			
スタートアップ演習					ハン・トンヒョン ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(基幹/映画領域)	必修	演習	4	1	前期	F(その他)	白山
履修条件	1年次必修。この科目が不合格になると後期「映画制作基礎演習」の履修資格を失うため留年となる。							
授業概要	<p>大学での学びへの導入となる科目である。本学で映画を学んでいくうえで必要な心構えと基礎的な力を、複数の教員による講義とグループで行うワークショップを通して身につける。</p> <p>具体的には、映画の見方やネットと調査、プレゼンテーション、さらにこの後スタートする「人間総合研究」に備えて企画立案や取材の方法・倫理、現代社会に関する基礎的な教養などについて学ぶ。</p>							
到達目標	<p>①大学での学習に向けた心構えと、映画を学ぶうえで必要な基礎知識、スキルを身につける。</p> <p>②グループで行うワークショップを通して、積極的でスムーズなコミュニケーションに慣れる。</p>							
授業計画	回数	内容						
	1・2	ガイダンス [ハン] ネットと調査ワークショップ [大友、藤田]						
	3・4	ネットと調査ワークショップ [大友、伊津野、藤田]						
	5・6	プロに学ぶ映画の見方① [天願]						
	7・8	ネットと調査ワークショップ [大友、伊津野、藤田]						
	9・10	プロに学ぶ映画の見方② [富山]						
	11・12	映画・映像で学ぶ日本社会① [石坂]						
	13・14	クラス別中間まとめ [ハン、細野、担任教員]						
	15・16	映画・映像で学ぶ日本社会② [石坂]						
	17・18	映画・映像で学ぶ日本社会③ [藤田]						
	19・20	プレゼンテーション・ワークショップ [田辺、大澤]						
	21・22	映画・映像で学ぶ日本社会④ [藤田]						
	23・24	プレゼンテーション・ワークショップ [田辺、大澤]						
	25・26	「人間総合研究」に向けて① [ハン]						
	27・28	「人間総合研究」に向けて② [細野、安岡]						
29・30	「人間総合研究」に向けて③ [ハン、細野、担任教員]							
授業外学習	各授業を担当する教員の指示に従うこと。							
教科書	教科書は使用しない。							
主要参考書	必要な資料は配布する。							
評価方法	出席と授業内課題で100%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
人間総合研究					細野 辰興、ハン・トンヒョン ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(基幹/映画領域)	必修	演習	8	1	前期	F(その他)	白山 新百合
履修条件	1年次必修。この科目が不合格になると後期「映画制作基礎演習」の履修資格を失うため留年となる。							
授業概要	<p>「個々の人間に相對し、人間とはかくも汚濁にまみれているものか、人間とはかくもビュアなるものか、何とさんくさいものか、何と助平なものか、何と優しいものか、何と弱々しいものか、人間とは何と滑稽なものなのかを、真剣に問い、総じて人間とは何と面白いものかを知って欲しい。そしてこれを問う己は一体何なのかと反問して欲しい。個々の人間観察をなし遂げる為にこの学校はある」という本学の理念を象徴する看板授業。</p> <p>魅力的な「人」を探し、その人について掘り下げていくいわば「ドキュメンタリー」を、動画を使わず、写真や音声素材をまとめて30分の作品として構成し、合評会で発表する。1クラスに担任教員を含む2人の担当教員が付き指導とアドバイスをを行うが、企画の立案から取材(撮影、録音)、発表まで、すべて学生たち自身がグループごとに協力しながら行うことになる。</p> <p>人間総合研究は、自分ではない誰かについて調べ、向き合っ、迫り、それを表現する実習だが、その人を表現するためにはその人の内面のみならずそれを支える外面、つまりその人がよって立つ個人的、社会的背景についても掘り下げ、立体的に把握していかななくてはならない。またグループ内でのチームワークも重要で、まさに映画を学ぶうえでの第一歩となる総合的な実習だ。</p>							
到達目標	挑戦と失敗、つまり試行錯誤を繰り返すなかで、対象者と世の中、そして自分と他人について知り(何を知らないのか、何ができないのかも知り)、今後4年間の糧とする。							
授業計画	週数	内容						
	1	1. 企画立案・プレゼンテーション クラス全員が企画を考え、企画書を作成してプレゼンテーションをする。企画の発表では、ひとことという「どのような人物を取り上げたいのか。それはどうしてなのか。そのようにして発表したい作品のテーマと面白さとは何なのか」をアピールする。学生どうして企画に関するディスカッションを行い、調査やブレ取材も行う。						
	2	2. 企画決定・班編成 投票や議論を通じて企画を絞り、最終的に1クラスあたり2つの企画に決定する。企画決定後は、企画別にクラスを2班にわけ、班ごとにプロデューサー、副プロデューサー、インタビュアー、調査班、撮影班、録音班などの分担を決め、決まった企画に丸ごと取り組んでいく(写真撮影と録音に関しては、プロの写真家、録音技師から、機材の基本的な使い方を学ぶ特講が開かれる)						
	3	3. 調査・取材① 文献(書籍、新聞、雑誌その他)などを通じて対象者とその背景にあるものについての調査を深めながら、対象者と周辺人物、関連する現場などを直接訪ね、取材を行う。インタビューをはじめとする取材のための交渉、手配など、あらゆる準備は学生自身が行う。インタビュー音声は全員で手分けして文字に起こす。ミーティングを重ねながら、さまざまなハードルをクリアして調査、取材を進めるなかで、対象者とその背景に対する理解を深め、テーマに迫っていく。						
	4	3. 調査・取材②						
	5	4. 制作・構成① 取材、調査して集めた写真、音声などの多くの素材のなかから何を使い、どう伝えるかを考え、まとめていく。改めて構成台本・演出の担当者を決め、班のメンバーで議論を重ねながら発表用の構成台本を練る。ナレーション、音楽、効果音、場合によってはパフォーマンスなども取り入れ演出も考える。それに合わせて写真や資料を選んでパワーポイントを作成し、音声を編集していく。合評会で発表する際の、ナレーター、パワーポイント、音声、照明などの分担も決める。						
	6	4. 制作・構成②						
	7	5. リハーサル 完成した構成台本にもとづき、全員が役割分担に沿って協力しながらリハーサルを繰り返し、調整を重ねて発表に磨きをかけていく。						
	8	6. 合評会 すべての1年生と教員たちの前で発表したあと、全員がひとことずつコメントしたうえで、学生と教員による合評が行われる。なかには厳しいコメントもあるかもしれないが、映画づくりへの第一歩を踏み出すための貴重な財産となるはずだ。						
授業外学習	授業の進捗状況に応じて、各担当教員から指示する。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	特別な貢献(リーダーシップ、自身の持つ技術・能力を班のために惜しまず発揮するなど)20%、一般的な貢献(コミュニケーション・協同性)30%、基本的な貢献(出席・参加度)50%							
教員への連絡方法	授業内で各担当教員が伝える。							

科目名					担当者名			
日本映画史 I [前期]					石坂 健治			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	教養(映画史科目群/映画領域)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	前期・後期それぞれで開講。前期・後期のいずれかで履修すること。この科目が不合格となっても「日本映画史 I (後期)」を履修することは不可。 「映画史概論」とともに1年生は必ず履修すること。 【読替科目】 日本映画史(～2018年度)							
授業概要	毎週2コマで「上映と講義」をおこなう。上映作品は日本映画史上、重要な4人の監督の4本である。上映後は教科書を使いながら解説をおこなう。							
到達目標	それぞれの時代に日本の映画人たちがどれほど豊かな創造性を発揮して新しい主題や方法を発見していったかを知って、それに感動と誇りをもてるようになってもらいたい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	上映①: 黒澤明監督作品						
	2	解説①: 教科書『日本の映画史』の第6章「時代劇とチャンバラ映画」(93-107頁)を読む。						
	3	上映②: 黒澤明監督作品(続)						
	4	解説②: 解説①の続き						
	5	上映③: 小津安二郎監督作品						
	6	解説③: 教科書『日本の映画史』の第1章「日本映画に描かれる家族」(13-29頁)を読む。						
	7	上映④: 小津安二郎監督作品(続)						
	8	解説④: 解説③の続き						
	9	上映⑤: 溝口健二監督作品						
	10	解説⑤: 教科書『日本の映画史』の第2章「Jホラーと怪談」(31-43頁)を読む。						
	11	上映⑥: 溝口健二監督作品(続)						
	12	解説⑥: 解説⑤の続き						
	13	上映⑦: 成瀬己喜男監督作品						
	14	解説⑦: 教科書の該当箇所を読む。						
15	まとめ							
授業外学習	・このほか、授業で論じた監督の他の作品を、DVDや配信サイトなどで極力多く見て比較研究すること。							
教科書	平野共余子『日本の映画史 10のテーマ』(2014年、くろしお出版)							
主要参考書	佐藤忠男著「日本映画史」(全四巻、岩波書店)。小津安二郎、溝口健二、今村昌平、大島渚などについては多くの研究書がある。極力、多様な観点をそれらの研究書で学ぶことをすすめる。							
評価方法	①授業内や期末に提出するリアクションペーパーやレポートの点数:70% ②授業に取り組む姿勢:30%							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名				担当者名				
映画史概論 [前期]				伊津野 知多				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	教養(映画史科目群/映画)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	前期・後期に同じ科目を開講する。前期・後期のいずれかで履修すること。この科目が不合格となった場合「映画史概論(後期)」を履修することはできない。「日本映画史 I」とともに履修することを強く勧める。「映画ソムリエ」プログラムの履修証明書を得るためにはこの科目を合格することが必須となる。また、知識を補強するためにほかの映画史科目も履修してほしい。							
授業概要	若い芸術である映画にも既に120年を超える歴史がある。社会の変化と技術の革新、そして人間の欲望の変化に伴って映画は常に姿を変えてきた。この歴史の層の一番表面の部分が、今見えている映画なのだ。この授業では、映画の誕生から1970年代まで、時代ごとに重要な社会的出来事や用語、作品について解説しながら映画の姿の変化を追う。授業は講義と参考上映で構成され、毎回最後に小テストを行う。映画史を7週間に凝縮するので、細部に分け入るのではなく、映画史の大まかな見取り図を描くことを目的としている。これから映画を学ぶ上で支えとなる視点と、基本的な知識を修得してほしい。							
到達目標	①映画史の大きな流れが理解できるようになる。 ②映画史上の重要な用語や監督、作品についての知識を身につけることができる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	1895～1900年代：映画の誕生 ① 1890年代：動く映像のもたらした驚き						
	2	② 1900年代：映像で語る物語へ——映画的表現技法の発見						
	3	1900～1910年代：映画産業の始まり、映画的表現技法の発達と洗練 ①映画産業の始まりとハリウッドの誕生						
	4	②映画的表現技法の発達と浸透、物語る映画の洗練						
	5	1920年代：無声(サイレント)映画の時代、アヴァンギャルドの隆盛 ①1920年代という時代：新しい価値観への転換 ②アメリカ：ハリウッド映画産業の成長と「垂直統合」 ③ヨーロッパのアヴァンギャルド(前衛)映画 ④ソヴェートのモンタージュ派 ⑤日本映画のサイレント時代——時代劇、活動弁士						
	6							
	7	1920年代末～1930年代：トーキー映画の時代、古典的ハリウッド映画の確立 ①1930年代という時代：社会不安と戦争の影 ②トーキー映画(発声映画)の到来とカラー映画の技術革新						
	8	③ハリウッド映画の黄金時代 ④フランスの詩的リアリズム						
	9	1930年代末～1940年代：戦争と映画(プロパガンダ映画) ①1940年代という時代：第二次世界大戦とその影響						
	10	②戦時下のプロパガンダ映画 ③占領下の日本映画						
	11	1940年代～1950年代：戦争から戦後へ——古典的ハリウッド映画の変容 ①瓦礫の中からの出発——イタリアのネオリアリズム ②古典的ハリウッド映画の変容(1940年代～)						
	12	③1950年代という時代：東西冷戦と赤狩り ④ハリウッドのスタジオ・システムの弱体化						
	13	1960年代～1970年代：スタジオ・システムの終焉と映画の新しい波 ①1960～70年代という時代：政治の季節：社会と価値観の変革のための闘い ②ハリウッドのスタジオ・システムの終焉(映画産業の構造変化)						
	14	③アメリカ映画の変容 ④各国映画の新しい波						
15	最終テスト(60分) 終了後解説 ※スマートフォン、資料の持ち込み禁止。辞書(電子辞書含む)は持ち込み可。							
授業外学習	・授業内で部分的に上映した作品、名前を挙げた作品をできるだけ多く自分で見ること(「映画史基礎」の準備にもなる)。 ・知識を自分のものにできるよう、配布したプリントや参考文献に示した本を読んで復習すること。							
教科書	使用しない。毎回プリントを配布する。							
主要参考書	初回の授業で参考文献表を配布する。							
評価方法	①受講態度(小テスト):40% 小テストは毎回授業の最後に行う。3問の質問に解答する形式。 ②最終テスト:60% 最終テストは最後の授業内に実施し、授業終了時に提出。 ※すべて出席してもテストの成績が悪いと不合格になる場合があるので注意すること。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
日本映画史 I [後期]					石坂 健治			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	教養(映画史科目群/映画領域)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	前期・後期それぞれで開講。前期・後期のいずれかで履修すること。前期に不合格になった場合、後期に再度履修することはできない。 「映画史概論」とともに1年生は必ず履修すること。 【読替科目】 日本映画史(～2018年度)							
授業概要	毎週2コマで「上映と講義」をおこなう。上映作品は日本映画史上、重要な4人の監督の4本である。上映後は教科書を使いながら解説をおこなう。							
到達目標	それぞれの時代に日本の映画人たちがどれほど豊かな創造性を発揮して新しい主題や方法を発見していったかを知って、それに感動と誇りをもてるようになってもらいたい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	上映①:黒澤明監督作品						
	2	解説①:教科書『日本の映画史』の第6章「時代劇とチャンバラ映画」(93-107頁)を読む。						
	3	上映②:黒澤明監督作品(続)						
	4	解説②:解説①の続き						
	5	上映③:小津安二郎監督作品						
	6	解説③:教科書『日本の映画史』の第1章「日本映画に描かれる家族」(13-29頁)を読む。						
	7	上映④:小津安二郎監督作品(続)						
	8	解説④:解説③の続き						
	9	上映⑤:溝口健二監督作品						
	10	解説⑤:教科書『日本の映画史』の第2章「Jホラーと怪談」(31-43頁)を読む。						
	11	上映⑥:溝口健二監督作品(続)						
	12	解説⑥:解説⑤の続き						
	13	上映⑦:成瀬己喜男監督作品						
	14	解説⑦:教科書の該当箇所を読む。						
15	まとめ							
授業外学習	・このほか、授業で論じた監督の他の作品を、DVDや配信サイトなどで極力多く見て比較研究すること。							
教科書	平野共余子『日本の映画史 10のテーマ』(2014年、くろしお出版)							
主要参考書	佐藤忠男著「日本映画史」(全四巻、岩波書店)。小津安二郎、溝口健二、今村昌平、大島渚などについては多くの研究書がある。極力、多様な観点をそれらの研究書で学ぶことをすすめる。							
評価方法	①授業内や期末に提出するリアクションペーパーやレポートの点数:70% ②授業に取り組む姿勢:30%							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名		担当者名						
映画史概論 [後期]		伊津野 知多						
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	教養(映画史科目群/映画)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	前期・後期に同じ科目を開講する。前期・後期のいずれかで履修すること。前期に不合格になった場合、後期に再度履修することはできない。 「日本映画史 I」とともに履修することを強く勧める。「映画ソムリエ」プログラムの履修証明書を得るためにはこの科目を合格することが必須となる。また、知識を補強するためにはほかの映画史科目も履修してほしい。							
授業概要	若い芸術である映画にも既に120年を超える歴史がある。社会の変化と技術の革新、そして人間の欲望の変化に伴って映画は常に姿を変えてきた。この歴史の層の一番表面の部分が、今見えている映画なのだ。 この授業では、映画の誕生から1970年代まで、時代ごとに重要な社会的出来事や用語、作品について解説しながら映画の姿の変化を追う。授業は講義と参考上映で構成され、毎回最後に小テストを行う。 映画史を7週間に凝縮するので、細部に分け入るのではなく、映画史の大まかな見取り図を描くことを目的としている。これから映画を学ぶ上で支えとなる視点と、基本的な知識を修得してほしい。							
到達目標	①映画史の大きな流れが理解できるようになる。 ②映画史上の重要な用語や監督、作品についての知識を身につけることができる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。							
授業計画	回数	内容						
	1	1895～1900年代：映画の誕生 ① 1890年代：動く映像のもたらした驚き						
	2	② 1900年代：映像で語る物語へ——映画表現技法の発見						
	3	1900～1910年代：映画産業の始まり、映画表現技法の発達と洗練 ①映画産業の始まりとハリウッドの誕生						
	4	②映画表現技法の発達と浸透、物語る映画の洗練						
	5	1920年代：無声(サイレント)映画の時代、アヴァンギャルドの隆盛 ①1920年代という時代：新しい価値観への転換 ②アメリカ：ハリウッド映画産業の成長と「垂直統合」 ③ヨーロッパのアヴァンギャルド(前衛)映画 ④ソヴェートのモンタージュ派 ⑤日本映画のサイレント時代——時代劇、活動弁士						
	6							
	7	1920年代末～1930年代：トーキー映画の時代、古典的ハリウッド映画の確立 ①1930年代という時代：社会不安と戦争の影 ②トーキー映画(発声映画)の到来とカラー映画の技術革新						
	8	③ハリウッド映画の黄金時代 ④フランスの詩的リアリズム						
	9	1930年代末～1940年代：戦争と映画(プロパガンダ映画) ①1940年代という時代：第二次世界大戦とその影響						
	10	②戦時下のプロパガンダ映画 ③占領下の日本映画						
	11	1940年代～1950年代：戦争から戦後へ——古典的ハリウッド映画の変容 ①瓦礫の中からの出発——イタリアのネオリアリズム ②古典的ハリウッド映画の変容(1940年代～)						
	12	③1950年代という時代：東西冷戦と赤狩り ④ハリウッドのスタジオ・システムの弱体化						
	13	1960年代～1970年代：スタジオ・システムの終焉と映画の新しい波 ①1960～70年代という時代：政治の季節：社会と価値観の変革のための闘い ②ハリウッドのスタジオ・システムの終焉(映画産業の構造変化)						
	14	③アメリカ映画の変容 ④各国映画の新しい波						
15	最終テスト(60分) ※スマートフォン、資料の持ち込み禁止。辞書(電子辞書含む)は持ち込み可。 終了後解説							
授業外学習	・授業内で部分的に上映した作品、名前を挙げた作品をできるだけ多く自分で見ること(「映画史基礎」の準備にもなる)。 ・知識を自分のものにできるよう、配布したプリントや参考文献に示した本を読んで復習すること。							
教科書	使用しない。毎回プリントを配布する。							
主要参考書	初回の授業で参考文献表を配布する。							
評価方法	①受講態度(小テスト)：40% 小テストは毎回授業の最後に行う。3問の質問に解答する形式。 ②最終テスト：60% 最終テストは最後の授業内に実施し、授業終了時に提出。 ※すべて出席してもテストの成績が悪いと不合格になる場合があるので注意すること。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
日本映画史Ⅱ					中原 俊、細野 辰興			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	教養(映画史科目群/映画)	選択	講義	2	1	後期	C4(2×8)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	映画の発達の中で出現した新しいヒーロー「スター」を軸に、凋落期までの日本映画の変容と大衆文化との関係を考察する。「日本映画史Ⅰ」を引き継ぎながら次年度からの創作のヒントを与える。							
到達目標	日本映画を近現代史の流れの中で理解する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映画会社の成立						
	2	技術発達の影響(中原)						
	3	新しい演技の出現						
	4	戦後映画の変化(中原)						
	5	戦前のスター						
	6	マキノの戦略(中原)						
	7	戦後の新スター——裕次郎と錦之助(細野)						
	8							
	9	三十郎と座頭市(細野)						
	10							
	11	若大将と無責任男(細野)						
	12							
	13	任侠映画(細野)						
	14							
	15	寅さん(細野)						
16								
授業外学習	関連映画を見て、関連書籍を読む。							
教科書	特になし。							
主要参考書	四方田犬彦『日本映画110年』集英社新書							
評価方法	熱意・受講態度(70%)および課題レポート(30%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
ドキュメンタリー映画史					石坂 健治			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画史科目群/映画)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	専門	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	ドキュメンタリー映画からTVニュースまで、広い意味のノンフィクション映像に関心のある者に開かれた講座である。事前の心がけとしては、新聞に載るニュースをその後も自分なりにフォローしてスクラップするなど、身の回りの社会的な事件に意識的になることが肝要である。							
授業概要	ドキュメンタリーとは何か？文学と映画の分野で使われるこのコトバの本来の意味は？劇映画と別のカテゴリーに分類される理由は？だが本当に劇映画と異なるものなのか？……こうした基本的な疑問を抱きながら、ドキュメンタリー映画史の大海原へ飛び込もう。映画史初期(リュミエール、メリエス、フラハティ)、戦意昂揚映画、社会主義プロパガンダ、ダイレクトシネマ、戦後日本と社会派ドキュメンタリー(土本、小川、大島、今村)、アジア・ドキュメンタリーの興隆、デジタル作法とセルフドキュメンタリー論争、などについて概説する。授業は、映画研究者のマーク・ノーネス(ミシガン大学教授)が提唱するドキュメンタリー映画史の6つの区分(初期、戦争、啓蒙、運動、セルフ、漂流)に沿って進めていくこととする。							
到達目標	ドキュメンタリーの歴史を理解すると同時に、ドキュメンタリーの未来形を各自が自覚的に追究することができるようになること。							
授業計画	回数	内容						
	1	ドキュメンタリーとは何か——文学と映画の分野で使われるコトバの起源						
	2	初期映画——リュミエールとメリエスの「ドキュメンタリー性」の違い						
	3	フラハティ——『ナヌーク(極北の怪異)』における「自然」と「演出」について						
	4	戦争とドキュメンタリー——ナチス・ドイツのプロパガンダ映画を分析する						
	5	リーフェンシュタール——『民族の祭典』とファンズムの美学について						
	6	社会主義とドキュメンタリー——エイゼンシュテインのモニタージュ理論を解説						
	7	ダイレクトシネマ——戦後の米仏にあらわれた「観察の映画」の思想とその成果						
	8	戦後日本のドキュメンタリー——左翼運動とドキュメンタリー映画の軌跡						
	9	土本典昭と小川紳介——高度成長期の暗黒面である「水俣」と「三里塚」						
	10	大島渚と今村昌平——大島の「朝鮮」と今村の「東南アジア」						
	11	アジア・ドキュメンタリーの興隆1——文革後の中国、民主化後の韓国						
	12	アジア・ドキュメンタリーの興隆2——東南アジアや中東でタブーに挑む作家たち						
	13	デジタル時代の表現——21世紀の新しいドキュメンタリー作法について考える						
	14	セルフ・ドキュメンタリー論争——近年の日本で巻き起こったドキュメンタリー論争						
15	まとめ							
授業外学習	公開中のドキュメンタリーを映画館で鑑賞するなどの課題を出すことがある。							
教科書	特になし。							
主要参考書	石坂健治・土本典昭共著『ドキュメンタリーの海へ』(現代書館、2008年)(購入又は図書館) 原一男著・石坂健治＋井土紀州編『踏み越えるカメラ』(フィルムアート社、1994年)(購入又は図書館) 佐藤忠男ほか編『シリーズ 日本のドキュメンタリー(全5巻)』(岩波書店、2010年)(購入又は図書館)							
評価方法	期末レポート80%＋授業への取り組み20%。100点満点中60点を合格点とする。(ただし出席不良の者がレポートだけ出してもダメ。)							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名					担当者名				
映画史基礎 (1年生)					伊津野 知多、石坂 健治、田辺 秋守				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎	
2019～	教養(映画史科目群/映画)	選択	実習	2	1-2	通年	F(その他)	白山・外部	
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として1年生は全員履修すること。1年次は仮登録となる。 ・1年次に条件(20作品以上鑑賞し、鑑賞ノートを提出)を満たした学生のみ、2年次に履修登録が許可される。 ・この科目を不合格になると、3年後期の「上映企画WS」を履修することはできない。また、「映画ソムリエ」の履修証明書も得られない。 								
授業概要	<p>日本映画大学に入ったからには最低限見なければならぬ映画史上重要な作品50本を各自で鑑賞し、鑑賞ノートを作成する。今後の学習の基盤となる知識を身につけ、映画についてことばで表現できるようになるための訓練である。定期的に実施する授業では、映画の見方や映画についての文章の書き方を指導し、映画史的知識を補足する。映画を理解するには、まず見なければならぬ。しかし、素晴らしい映画は必ず喜びを与えてくれる。ぜひ楽しんでできる限り多くの作品に触れてほしい。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①映画史上重要な作品について理解を深めることができる。 ②映画について考えたことをことばで表現できるようになる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。 								
授業計画	内容								
	各自で映画を鑑賞し、鑑賞ノートを期日に提出する(見る順番は自由)。年に数回の授業日がある。あらかじめシラバスを読み、チャレンジしたい人は4/23(金)6限の授業に参加したうえで、「映画史基礎鑑賞ノート」を購入して仮登録する必要があります。								
	2021年度	授業①	4/23(金) 6限		ガイダンス/この科目の説明 「映画史基礎鑑賞ノート」購入(250円)				
		鑑賞ノート提出① (白山校舎事務室)	6/8(火) 17時まで		5作品以上記入すること。 この時点で5作品鑑賞していることが必須。				
		鑑賞ノート返却	7/30(金)～8/6(金)		各自白山校舎事務室に取りに来ること。				
		夏休み期間							
		授業② 鑑賞ノート提出②(授業後)	9/15(水) 3・4限		5作品以上記入すること。 この時点で10作品鑑賞していることが必須。				
		鑑賞ノート返却	10/8(金)～15(金)		各自白山校舎事務室に取りに来ること。				
		鑑賞ノート提出③ (白山校舎事務室)	11/30(火) 17時まで		5作品以上記入すること。 この時点で15作品鑑賞していることが必須。				
		鑑賞ノート返却	12/20(月)～24(金)		各自白山校舎事務室に取りに来ること。				
		冬休み期間							
	授業③ 鑑賞ノート提出④(授業後)	1/24(月) 3・4限		5作品以上記入すること。 この時点で20作品鑑賞していることが必須。 20作品に満たない人は2年次に履修登録できない。					
	鑑賞ノート返却	2/7(月)～14(月)		各自白山校舎事務室に取りに来ること。					
	春休み期間								
	2022年度	履修登録 授業① 鑑賞ノート提出①(授業後)	4月第2週		5作品以上記入すること。 この時点で25作品鑑賞していることが必須。				
		授業② 鑑賞ノート提出②(授業後)	6月第1週		5作品以上記入すること。 この時点で30作品鑑賞していることが必須。				
夏休み期間									
鑑賞ノート提出③ (白山校舎事務室)		9月第2週		10作品以上記入すること。 この時点で40作品鑑賞していることが必須。					
授業③ 鑑賞ノート提出④(授業後)		11月第3週		5作品以上記入すること。 この時点で45作品鑑賞していることが必須。					
冬休み期間									
授業④ 鑑賞ノート提出⑤(授業後)	1月最終週		50作品分の鑑賞ノート提出						
授業外学習	指定された50本の映画を鑑賞し、鑑賞ノートにレポートを書く。 ※指定された授業日以外は全て各自の授業外学習である。								
教科書	仮登録時に、「映画史基礎鑑賞ノート」を購入すること(250円)が必要。								
主要参考書	作品のDVDは図書館と白山事務室で借りることができる。貸出のルールを守って利用すること。								
評価方法	授業への参加態度と鑑賞ノートの内容を総合的に評価する。 期日までに指定の本数が記入された鑑賞ノートを提出しなければ、その時点で不合格になるので注意すること。								
教員への連絡方法	メール								

科目名					担当者名			
映画史基礎 (2年生)					伊津野 知多、石坂 健治、田辺 秋守			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	教養(映画史科目群/映画)	選択	実習	2	1-2	通年	F(その他)	白山・外部
履修条件	<p>・1年次に条件(20作品以上鑑賞し、鑑賞ノート提出)を満たした学生のみ、2年次に履修登録が許可される。 ・この科目を不合格になると、3年後期の「上映企画WS」を履修することはできない。また、「映画ソムリエ」の履修証明書も得られない。</p>							
授業概要	<p>日本映画大学に入ったからには最低限見ておかなければならない映画史上重要な作品50本を各自で鑑賞し、鑑賞ノートを作成する。今後の学習の基盤となる知識を身につけ、映画についてことばで表現できるようになるための訓練である。定期的実施する授業では、映画の見方や映画についての文章の書き方を指導し、映画史的知識を補足する。映画を理解するには、まず見なければならぬ。しかし、素晴らしい映画は必ず喜びを与えてくれる。ぜひ楽しんでできる限り多くの作品に触れてほしい。</p>							
到達目標	<p>①映画史上重要な作品について理解を深めることができる。 ②映画について考えたことをことばで表現できるようになる。 ③多くの映画作品に触れることで、創作に役立つアイデアを得ることができる。</p>							
授 業 計 画	内 容							
	各自で映画を鑑賞し、鑑賞ノートを期日に提出する(見る順番は自由)。年に数回の授業日がある。以下のスケジュールを各自で把握しておくこと。掲示版で確認できる。(メールでのスケジュール連絡はしない)							
	履修登録 授業① 鑑賞ノート提出①(授業後)		4/15(木) 4限		5作品以上記入すること。 この時点で25作品鑑賞していることが必須。			
	鑑賞ノート返却		5/6(木)～13(木)		各自白山校舎事務室に取りに来ること。			
	授業② 鑑賞ノート提出②(授業後)		6/8(火) 2・3限		5作品以上記入すること。 この時点で30作品鑑賞していることが必須。			
	鑑賞ノート返却		7/1(木)～8(木)		各自白山校舎事務室に取りに来ること。			
	夏休み期間							
	鑑賞ノート提出③ (白山校舎事務室)		9/13(月) 17時まで		10作品以上記入すること。 この時点で40作品鑑賞していることが必須。			
	鑑賞ノート返却		10/1(金)～8(金)		各自白山校舎事務室に取りに来ること。			
	授業③ 鑑賞ノート提出④(授業後)		11/20(土) 3・4限		5作品以上記入すること。 この時点で45作品鑑賞していることが必須。			
	鑑賞ノート返却		12/1(水)～8(水)		各自白山校舎事務室に取りに来ること。			
	冬休み期間							
	授業④ 鑑賞ノート提出⑤(授業後)		2/12(土) 3限		50作品すべて鑑賞していることが必須。			
	鑑賞ノート返却		2/14(月)～21(月)		各自白山校舎事務室に取りに来ること。			
春休み期間								
授業外学習	指定された50本の映画を鑑賞し、鑑賞ノートにレポートを書く。 ※指定された授業日以外は全て各自の授業外学習である。							
教科書	「映画史基礎鑑賞ノート」							
主要参考書	作品のDVDは図書館と白山事務室で借りることができる。貸出のルールを守って利用すること。							
評価方法	授業への参加態度と鑑賞ノートの内容を総合的に評価する。 期日までに指定の本数が記入された鑑賞ノートを提出しなければ、その時点で不合格になるので注意すること。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
表象文化論 I					伊津野 知多			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	<p>「表象」(representation)とは、人間が自分や周囲の世界をイメージ化し、メディアを使って表現する(かたちに表す)こと、およびその行為を通じて生み出されたものを指す。絵画や写真、映画、彫刻、絵本や地図、建築など、さまざまなメディアが人間の表象行為に関わっている。</p> <p>この授業は「表象」をていねいに読み解くための基礎的な講義である。表象のひとつである映画・映像について考察しながら、人間の創造行為を捉え直すことを目的とする。毎回参考上映を行うほか、受講者が参加する「エクササイズ」を随時設け、できるだけ受講者と対話しながら進めたい。</p>							
到達目標	「印象」や「感想」で終わらせずに、映画や映像を読み解くことができるようになる。							
授業計画	回数	内容						
	1	「表象」とはなにか						
	2	①写真(映画)という表象の特殊性について ②さまざまな表象について考える						
	3	映像の空間を読む						
	4	①フレーム ②画面と画面外						
	5	映画における視点と視線						
	6	①映画の視点: 誰がどこから見ているのか ②登場人物たちの視線: 目は口ほどにものを言う						
	7	映像の時間を読む						
	8	①静止した映像(写真)にとらえられた運動と時間・写真の物語性 ②写真と映画の時間性のちがい ③映画における時間の操作						
	9	映画における音						
	10	①視覚と聴覚の共感性: 映像が喚起する音、音が喚起する映像 ②映画における音と映像(画面)との関係 ③映画の音の3つの区分: フレーム外の音/オフの音/フレーム内の音(インの音)						
	11	映像に触る——映画の触覚性 【期末レポート事前課題・解答用紙配付】						
	12	①映画の触覚性の4つの次元 ②実写映画の触覚性 ③アニメーション映画の触覚性						
	13	表象不可能性と倫理						
	14	①表象批判 ②表象の擁護						
15	期末レポート当日課題発表 レポート作成(40分) ※スマートフォン、資料の持ち込み禁止。辞書は持ち込み可。終了後解説							
授業外学習	作品を全編上映することが難しいので、授業で取り上げた作品については各自見ておくこと。							
教科書	使用しない。毎回資料を配布する。							
主要参考書	ジャン＝クロード・フォザ他著・犬伏雅一他訳『イメージ・リテラシー工場』(フィルムアート社、2006) 吉田眸『ドアの映画史—細部からの見方、技法のリテラシー』(春風社、2011)							
評価方法	①毎回提出するリアクションペーパーの内容: 40% ※内容を評価するので注意。名前のみや、適当に書かれたものは0点とする。 ②期末レポート: 60% (期末レポートは事前発表課題と最終日に発表する当日課題からなる。事前課題についてはあらかじめ準備して解答用紙に記入し、最終日に持参すること)。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
テーマ研究 I 〈アジア映画入門〉					石坂 健治			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	アジアの映画に関心のある者の履修を望む。							
授業概要	20世紀前半、映画は娯楽として世界中に普及していったが、そのころアジアの大半は植民地だった。第二次世界大戦後、多くの国が独立を果たし、やっと独自の文化芸術を創作することが可能になったとき、作家たちは映画というメディアを使ってユニークな表現を作り上げ、今日のアジア映画の興隆を導き出した。本講では、①欧米や日本と異なる歴史を歩んだアジア諸国の映画史を概観し、②上海、ボンベイ、マニラ、ソウルなど、アジア映画史の焦点となった国や都市、つまり「映画の都」を時代ごとに概説し、③そうしたなかで生まれた巨匠や傑作の数々を見ていくこととする。							
到達目標	映画を通じてアジア諸国とご近所付き合いを深めるきっかけを作る。							
授業計画	回数	内容						
	1	アジアの映画に親しむ①						
	2	アジアの映画に親しむ②						
	3	アジア映画史の焦点1——1970年代・香港など						
	4	アジア映画史の焦点2——1980年代・台湾、イランなど						
	5	アジア映画史の焦点3——1990年代・韓国など						
	6	アジア映画史の焦点4——2000年代・マレーシアなど						
	7	アジア映画史の焦点5——2010年代・フィリピンなど						
	8	アジア映画史の焦点6——未来の新しい波を探す						
	9	アジア映画の巨匠たち1——フィリピン・インディーズの鬼才(タヒミック、メンドーサ、ディアス)						
	10	同上						
	11	アジア映画の巨匠たち2——タイ映画ルネッサンス(仏教とホラー)						
	12	同上						
	13	アジア映画の巨匠たち3——マレーシア新潮(日本とつながる作家たち)						
	14	同上						
15	まとめ							
授業外学習	アジア映画の劇場での鑑賞を課題として課すことがある。							
教科書	なし							
主要参考書	石坂健治ほか監修『アジア映画の森—新世紀の映画地図』(森話社、2012) 石坂健治ほか編著『アジア映画で<世界>を見る—越境する映画、グローバルな文化』(森話社、2013) 石坂健治ほか編著『躍動する東南アジア映画—異文化・越境・連帯』(論創社、2019)							
評価方法	期末レポート80%+授業への取り組み20%(ただし授業に出席せずにレポートだけ出してもダメ)							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名					担当者名			
サブ・カルチャー論					藤田 直哉			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	サブ・カルチャーとは、その社会で支配的な「主流文化」に対して、「傍流」であったり「少数派」であったり「対抗的」であったり「下位」であると見做される文化である。日本においては、アニメ・マンガ・ゲーム・特撮などが、サブ・カルチャーとされてきた。しかし、現在ではそれらは「クールジャパン」を担う「メディア芸術」と見做され国立新美術館で展示されたり、日本を代表する主流文化のように扱われるようになった。本講義は、一般的に「オタクカルチャー」とも呼ばれる日本において特殊に花開いた文化について、それが一体どのようなもので、どのような魅力と意義があるのかを、映画との関係において探っていくものである。							
到達目標	日本におけるサブ・カルチャーの歴史と意義についての理解が深まる。現在の自分たちが当たり前のように接している文化が、実は世界的にも歴史的にも当たり前なものではないものとして考えられるようになる。自分たちが作品を送り出す世界についての知見が得られる。							
授業計画	回数	内容						
	1	イントロダクション——サブカルチャーとは何か						
	2	50年代——『ゴジラ』と『太陽の季節』						
	3	60年代Ⅰ——カウンターカルチャーの時代						
	4	60年代Ⅱ——『イーजीライダー』						
	5	70年代Ⅰ——『仁義なき戦い』と連合赤軍事件						
	6	70年代Ⅱ——シラケ世代の誕生						
	7	80年代Ⅰ——オタクの誕生						
	8	80年代Ⅱ——繁栄と平和、『メガゾーン23』						
	9	90年代Ⅰ——内向と自閉、『新世紀エヴァンゲリオン』						
	10	90年代Ⅱ——内向と自閉Ⅱ、『新世紀エヴァンゲリオン』						
	11	ゼロ年代Ⅰ——セカイ系と「萌え」の発展、新海誠『ほしのこえ』						
	12	ゼロ年代Ⅱ——インターネットの普及、ネットカルチャーの隆盛						
	13	10年代Ⅰ——空気系・日常系——『けいおん!』						
	14	10年代Ⅱ——コミュニケーション、コミュニティ化へ						
15	まとめ——戦後日本のサブカルチャーはどのように変遷してきたか							
授業外学習	授業内で観ることのできない作品も多いので、紹介した作品は図書館やインターネットなどで見ていくように。気になったり興味が惹かれた作品には積極的に触れていくこと。							
教科書	特になし。							
主要参考書	スーザン・ネイピア『現代日本のアニメ』(中央公論新社、2020年)、アン・アリスン『菊とポケモン』(新潮社、2010年)、東浩紀『動物化するポストモダン』(講談社、2001年)							
評価方法	積極性(20%)、各回のリアクションペーパー(40%)、レポート(40%)で評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名				担当者名				
フィルム・アーカイヴ				岩槻 歩				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	映画フィルムに関心がある方、またデジタルシネマの保存やリマスターに興味がある方の参加をのぞむ。また、映画製作のみならず映画の上映・映写・保存・修復について知識を得たい学生にはぜひ参加してもらいたい。事前には、35mmフィルムで上映されている作品を映画館で見る、主要参考書、webサイトを読んでおく、国立映画アーカイブに行ってみる、など実践していただきたい。							
授業概要	本講では、ほぼ1世紀にわたって映画の記録媒体の主役をつとめてきた「フィルム」を取り上げる。フィルムはオールドメディアとして役割を終えてしまったわけではない。昨今になって再びフィルムによる映画撮影の機運が高まっていることも抑えつつ、その物質としての特性や、フィルムの保存・修復の重要性について、またフィルムとデジタルのそれぞれのメリット・デメリットなど、映画の記録媒体に関する様々なテーマについて概説する。そして、映像はどのように保存され、次世代に継承されるべきか、映像の活用と保存はどうあるべきか、といった諸問題へと踏み込む。課外授業として、講義内容を実践的に発展させるため、映画保存機関などを見学する。(見学日程・内容については社会情勢を鑑みて変更の可能性あり。最初の授業で正式な日程を伝達します。)							
到達目標	映画は単なる「商品」「情報」として消費されるべきではなく、われわれ人類が後世に残すべき「文化財」であることを理解する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映画保存とは何か——古い映画を残すこととどのような意義があるのか、そのために何が為されてきたかを知る。						
	2	フィルムとは何か——物質としてのフィルムを物理的に分析し、その種類と特質を知る。						
	3	フィルム・アーカイヴの仕事1——映画フィルムの上映・修復・保存の技術について概要を知る。						
	4	フィルム・アーカイヴの仕事2——映画の修復と保存の技術を映像で視聴し、学外学習に備えて基礎知識を身につける。						
	5	鑑賞1——映画フィルムに関する映像作品を鑑賞して、全員で討議する。						
	6	フィルムとデジタル——デジタル映像の保存と問題点について学び、フィルム映像との違い、それぞれのメリット・デメリットを認識する。						
	7	鑑賞2——映画の保存と修復に関する映像作品の鑑賞と、関連資料を読む。						
	8	学外学習1——国立フィルムセンター相模原分館見学						
	9	学外学習1——国立フィルムセンター相模原分館見学						
	10	学外学習1——国立フィルムセンター相模原分館見学						
	11	映画保存と著作権について						
	12	学外学習2——IMAGICA見学						
	13	学外学習2——IMAGICA見学						
	14	学外学習2——IMAGICA見学						
15	まとめ							
授業外学習	35mmフィルムで上映されている作品を観に行くこと、などの課題を出す場合がある。							
教科書	必要なテキストは随時配布する。							
主要参考書	岡田秀則 『映画という《物体X》フィルム・アーカイヴの眼で見た映画』(立東舎 2016年) 石原香絵 『日本におけるフィルムアーカイヴ活動史』(美学出版 2018年) 国立映画アーカイブwebサイト< www.momat.go.jp >、映画保存協会webサイト< http://filmpres.org >、Fシネマップ< http://fcinemap.com >							
評価方法	講義に積極的に参加する姿勢・20%+毎回の授業時に提出するリアクションペーパー・60%+期末レポート・20%。 100点満点中60点を合格点とする。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
テーマ研究Ⅱ〈アジアのフィルム・ノワール(ネオ・ノワール)〉					晏 妮(アンニ)			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	<p>フィルム・ノワール(仏: Film Noir)は一般に1940年代から1950年代後半にかけてハリウッドで盛んに作られた犯罪映画をフランスの映画研究者によって名付けたジャンルの一つだ。アメリカ社会の殺伐とした都市風景やシニカルな男性の主人公、その周囲に現れる謎めいた女性の登場人物(ファム・ファタール)などを主な物語上の特徴とする作品を指す。しかし、犯罪映画をサスペンスと捉えたりする場合も多く、初期のノワールにおける女性像に対してジェンダー的な批判が行われるようになってから、ノワールのジャンルとしての境界線が曖昧になってきた。特に政治状況と文化風土も欧米と違うアジアでは、欧米と異なる形の犯罪映画は香港をはじめ、数多く製作された。本講義はノワール風の犯罪映画はアジア各国の社会と文化背景下でどのように表現され、形作られてきたのかに焦点を絞り、代表的な作家と代表作を取り上げてその流れを見ていく。</p>							
到達目標	<p>映像学の分析方法を用いて作品を考察し、映画を論理的に思考する一方、より多元的に映画を解読できる歴史、社会と異文化の知識を学びながら映画の感性を磨くのが、到達目標である。</p>							
授業計画	回数	内容						
	1	オリエンテーション(本講義の概説)						
	2	作品鑑賞:『飾り窓の女』(フリッツ・ラング、1944)						
	3	ロマン・ポランスキー—ポーランド、ハリウッドとヨーロッパの間で						
	4	『チャイナタウン』(1974)を鑑賞、分析						
	5	ジョニー・トー(杜琪峰)が描く男たちの絆						
	6	『エグザイル/絆』(2006)を鑑賞、分析						
	7	アンドリュー・ラウ(劉偉強)とアラン・マック(麦兆輝)						
	8	『インファナル・アフエア』(2002)を鑑賞、分析						
	9	ポン・シュノの映像世界						
	10	『殺人の追憶』(2004)を鑑賞、分析						
	11	ニウ・チェンザー(鈕承澤)—ポスト台湾ニューシネマ						
	12	『モーガンに散る』(2010)を鑑賞、分析						
	13	ディアオ・イーナン(刁亦男)—中国ノワールとしてのリアリズム						
	14	『鶯鳥湖の夜』(2019)を鑑賞、分析						
15	総括							
授業外学習	授業以外の時間を利用して取り上げる映像作家のその他の作品を一、二本見てほしい。							
教科書	必要時に資料を配布する。							
主要参考書	中村秀之『映像/言説の文化社会学—フィルム・ノワールとモダニティ』(岩波書店、2003)、石坂健治等監修『アジア映画の森 新世紀の映画地図』(作品社、2012)、など。							
評価方法	勉強に取り組む姿勢、熱意、積極性は60%、レポートは40%の割合で総合的に評価する。無断欠席が多くなると単位が取れないことがある。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
表象文化論Ⅱ					伊津野 知多			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	専門	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	「表象文化論Ⅰ」を履修していることが望ましい。グループワークを行うので受講者の積極性を求める。							
授業概要	この授業では、表象と密接な関係を持つ「記号」という概念について考える。まず、映像や映画を含むあらゆる文化的現象を何らかの意味を伝える記号と捉え、その意味伝達のしくみを考察する「記号論」という方法を理解しよう。次いで、言語媒体で発展した記号論を映像や映画に適用する際に生じる問題について考える。映像が観客に意味を伝えるしかたは言語の場合とどう違うのか、映像で物語を語るとはどういうことか、映画固有の意味作用とは何か、などのテーマで、「記号」としての映像・映画について考えてみよう。随時参考上映、グループワークとディスカッションを行う。							
到達目標	①記号論の基礎的な概念や考え方が理解できるようになる。 ②映像や映画を記号論的に分析することができるようになる。 ③グループワークやディスカッションを通して、思考をことばにして他者に伝える技術が修得できる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	①記号論(記号学)という考え方 ②映画はどんな記号なのか?—現実の世界と映画の世界のちがひ						
	2	③さまざまな映画の工夫						
	3	①映画の3つの意味の層(記録性・表現性・物語性) ②ことばと映像の意味作用は何かちがうのか□						
	4	グループワーク①【絵で概念を伝える】□						
	5	記号論(記号学)の基本的な概念: コード、メッセージ、シニフィアン、シニフィエ、恣意性と動機づけ、デノテーション、コノテーション						
	6	グループワーク②【テキストを読んで記号論の概念を理解する】						
	7	言語記号と視覚的記号のちがひ□						
	8	グループワーク③【写真でメッセージを伝える】						
	9	映像の記号論 ①映像の意味作用と映画の意味作用 ②広告写真・動画の記号論的分析						
	10	グループワーク④【広告写真を読む】						
	11	映画の記号論: 映画の意味作用の分析 【期末レポート事前課題・解答用紙配付】						
	12	グループワーク⑤【クリント・イーストウッド『グラン・トリノ』(2008)の抜粋を見て様々な意味を読み取る】						
	13	映画の記号論: 映画の意味作用の分析						
	14	『グラン・トリノ』の一部を分析する						
15	期末レポート当日課題発表 レポート作成(40分) ※スマートフォン、資料の持ち込み禁止。辞書は持ち込み可。終了後解説□							
授業外学習	身近にある事象(ファッション、標識、ポスターやCMなど)を観察し、記号という観点から意味を考える練習をしてみたい。							
教科書	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。							
主要参考書	池上嘉彦『記号論への招待』(岩波新書、2013)/ショーン・ホール著、前田茂訳『イメージと意味の本: 記号を読み解くトレーニングブック』(フィルムアート社、2013)/ロラン・バルト著、諸田和治編訳『ロラン・バルト映画論集』(ちくま学芸文庫、1998)/ロラン・バルト著、蓮實重彦他訳『映像の修辞学』(ちくま学芸文庫、2005)。							
評価方法	①授業態度(各回のリアクションペーパーの内容、ディスカッションやグループワークへの参加態度): 50% ②期末レポート: 50% (期末レポートは事前発表課題と最終日に発表する当日課題からなる。事前課題についてはあらかじめ準備して解答用紙に記入し、最終日に持参すること。)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
テーマ研究Ⅲ(ホラー映画論:ゾンビという厄介な他者)					伊津野 知多			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画)	選択	講義	2	3	前期	C3(2×6+3)	白山
履修条件	スプラッター映画の一ジャンルであるゾンビ映画を扱うため、毎回大量の血液や内臓の露出などの描写を目にすることになります。苦手な人は絶対に受講しないでください。「授業外学習」欄にあるロメロのゾンビ映画6本を授業開始前に見ておくことが必須です。							
授業概要	恐怖を描き、それを楽しむことは人間の文化的想像力の大きな一部を占めている。映画も例外ではなく、映画史の初期から、人々は飽くことなく様々な恐怖の形象(謎の怪物、宇宙人、巨大生物、凶暴化した動物、殺人鬼、幽霊、ゾンビ…)をスクリーンに描き出してきた。それは私たちにとって見たくない、排除したい、関わり合いになりたくない絶対的な他者だ。ホラー映画は、執拗にこの嫌な他者を突き付けることで、裏側から人間をあぶり出すものなのである。膨大な量と複数のサブ・ジャンルをもつホラー映画の中で、近年大流行中の、究極に厄介な他者と言える「ゾンビ」に焦点を絞って考えてみることにしよう。第1回目と2回目にホラー映画の歴史と広がりを見概観する。第3回目以降は、ゾンビ映画の父、ジョージ・A・ロメロ監督の6本のゾンビ映画を、ジャンル論と作家論、社会と映画との関係という多角的な視点から丁寧に分析する。受講者とディスカッションしながら進めるので積極的な参加を求める。							
到達目標	①ホラー映画の大まかな歴史やジャンルの広がり理解できる。 ②ジャンル論、作家論、映画と社会の関係など、映画を分析するときの複数の視点と方法論を身につけることができる。 ③ディスカッションを通して映画について語る技術が修得できる。							
授業計画	回数	内容						
	1	ホラー映画概論①: ホラー映画の大まかな歴史、ジャンルとサブ・ジャンルの広がり						
	2	ホラー映画概論②: 恐怖の形象のバリエーション、究極の他者としての「ゾンビ」						
	3	ジョージ・A・ロメロ『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』(1968年)を読む						
	4	部分上映と分析、ディスカッション						
	5	ジョージ・A・ロメロ『ゾンビ』(1978年)を読む						
	6	部分上映と分析、ディスカッション						
	7	ジョージ・A・ロメロ『死霊のえじき』(1985年)を読む						
	8	部分上映と分析、ディスカッション						
	9	ジョージ・A・ロメロ『ランド・オブ・ザ・デッド』(2005年)を読む 【期末レポート事前課題・解答用紙配付】						
	10	部分上映と分析、ディスカッション						
	11	ジョージ・A・ロメロ『ダイアリー・オブ・ザ・デッド』(2008年)を読む						
	12	部分上映と分析、ディスカッション						
	13	ジョージ・A・ロメロ『サバイバル・オブ・ザ・デッド』(2009年)を読む						
	14	部分上映と分析、ディスカッション						
15	【期末レポート当日課題発表・レポート作成】 ⇒ 授業後に提出							
授業外学習	授業で扱うジョージ・A・ロメロによるゾンビ映画6作品を、授業開始前に各自見ておくこと。 また、ロメロ以外のゾンビ映画作品もできるだけ見ておいてほしい。特に以下の作品。ダン・オバノン『バタリアン』(1985)、ダニー・ボイル『28日後…』(2002)、エドガー・ライト『ショーン・オブ・ザ・デッド』(2004)、ジャウマ・バラグロ『REC/レック』(2007)、マーク・プライス『コリン』(2008)。							
教科書	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。							
主要参考書	伊藤美和『ゾンビ映画大事典』(洋泉社、2003)、野原祐吉『ゾンビ・サーガ―ジョージ・A・ロメロの黙示録』(ABC出版、2010)、ノーマン・イングランド『別冊映画秘宝 決定版ゾンビ究極読本』(洋泉社、2019)ほか。初回授業時に参考文献表を配布する。							
評価方法	①授業内に提出するリアクションペーパーの評価点:50% ※内容を評価するので注意。名前のみや、適当に書かれたものは0点とする。 ②期末レポートの評価点:50% (期末レポートは事前課題と最終日に発表する当日課題で構成される)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
アニメーション・特撮文化論					藤田 直哉			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画)	選択	講義	2	3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	戦後の日本で花開いたアニメーション・特撮文化。それは、第二次世界大戦後の日本という特殊な環境の中で、その影響を受け、大衆的な意識と深い関係を持ちながら発展したユニークな文化である。グローバルな映画産業の中でも『ゴジラ』がハリウッド映画化され、ヴェネチア国際映画祭で金獅子賞に輝いたギレルモ・デル・トロ監督が、作中に「KAIJYU」という単語を出すなど、ローカルな文化がグローバル化しつつある。そのような状況にある日本のアニメーションや特撮文化を、戦後日本精神史との関係から立体的に理解するための講義である。							
到達目標	戦後日本において、アニメーションや特撮が、どのような心理的・思想的意義を担ったのかが理解できる。それらの特殊性や歴史を踏まえた上で、グローバル時代において文化をどのように展開すれば良いのかのアイデアを得ることができる。							
授業計画	回数	内容						
	1	イントロダクション						
	2	ディズニーと初期アニメーション						
	3	第二次世界大戦とアニメ・特撮						
	4	円谷英二——戦争と正義、『ゴジラ』『ウルトラマン』						
	5	松本零士——日本の回帰、『宇宙戦艦ヤマト』						
	6	富野由悠季——戦争の痕跡、『機動戦士ガンダム』						
	7	宮崎駿Ⅰ——テクノロジーと自然、『風の谷のナウシカ』						
	8	宮崎駿Ⅱ——アニミズムの回帰、『千と千尋の神隠し』						
	9	押井守Ⅰ——変貌する都市、『パトレイバー2』						
	10	押井守Ⅱ——科学技術と神話、『攻殻機動隊』						
	11	塚本晋也Ⅰ——機械化の恐怖、『鉄男』						
	12	塚本晋也Ⅱ——サイボーグとしての戦後日本						
	13	新海誠Ⅰ——災害と神、『君の名は。』						
	14	新海誠Ⅱ——科学から詩へ、『言の葉の庭』						
15	まとめ——アニメーションと特撮は、何を表現してきたのか							
授業外学習	授業内で観ることのできない作品も多いので、紹介した作品は図書館やインターネットなどで見ていくように。気になったり興味が惹かれた作品には積極的に触れていくこと。							
教科書	特になし。							
主要参考書	福嶋亮大『ウルトラマンと戦後サブカルチャーの風景』(PLANETS/第二次惑星開発委員会、2018年)、杉田俊介『宮崎駿論』(NHK出版、2014年)、藤田直哉『シン・ゴジラ論』(作品社、2016年)							
評価方法	積極性(20%)、各回のリアクションペーパー(40%)、レポート(40%)で評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
テーマ研究Ⅳ〈ヨーロッパ映画論〉					田辺 秋守			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画)	選択	講義	2	3	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	この授業では、ヨーロッパ映画の巨匠たちを取り上げ、彼らの映画を紹介する。ヨーロッパ映画の特徴のひとつは、人間の心理・情動・欲動(無意識的欲望)などに深い洞察を向けていることである。その表現としては、大胆な性描写、即物性、黙示録的表現、美的であるよりは崇高(醜悪・奇抜さ)を優先する傾向、倫理的・政治的タブーに対する挑戦、アンチクライマックス、安易なエンディングを避ける傾向などがあげられる。また多様なスタイルをもち、隠喩、レトリック、批評性が強い。ここで取り上げるヨーロッパ映画の巨匠たちは、戦後ヨーロッパ映画で革新的な映画を作ってきた人々である。							
到達目標	ややもすれば、敬遠されがちなヨーロッパ映画の魅力を知ってもらいたい。系統だってヨーロッパ映画の作家たちを見ることで、受講後にはヨーロッパ映画についての見通しを立てられるようにしたい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	イングマール・ベルイマン:形而上学的な映画						
	2	神の沈黙3部作(『沈黙』『冬の光』『鏡の中にある如く』)						
	3	ジャン=リュック・ゴダール:ヌーヴェルヴァーグというモダニズム						
	4	『軽蔑』『アルファヴィル』『気狂いピエロ』『ウイークエンド』						
	5	アンドレイ・タルコフスキー:ロシア的霊性						
	6	『アンドレイ・ルブリョフ』『惑星ソラリス』『サクリファイス』						
	7	フェデレコ・フェリーニ:映画的な祝祭と饗宴						
	8	『白い酋長』『甘い生活』『8 1/2』						
	9	テオ・アンゲロプロス:放浪と滞在						
	10	『シテール島への旅立ち』『ユリシーズの瞳』『永遠と一日』						
	11	マノエル・ド・オリヴェイラ:映画作家の100年						
	12	『アブラハム溪谷』『ブロンド少女は過激に美しく』『家族の灯り』						
	13	ブリティッシュ・ニューウェーブ:リンゼイ・アンダーソン、カレル・ライス、トニー・リチャードソン						
	14	『ifもしも』『フランス軍中尉の女』『トム・ジョーンズの華麗な冒険』						
15	まとめ;ヨーロッパ映画の特徴、その後							
授業外学習	課題の映画を授業前に見ておくこと。							
教科書	特になし。毎回プリントを配布する。							
主要参考書	ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』(晃洋書房)							
評価方法	レポート70% リアクションペーパー20% 受講時の発言10%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
テーマ研究 V (シヤレード概論 説明を排除し、観客の興味を惹きつける「作劇術」&「演出」の本質を探る)					細野 辰興			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画)	選択	講義	2	3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	なし							
授業概要	映画作家が本来しなければいけないことは何か。サイレントから始まった映画(映像)は本来、「説明台詞」を排除したい特性を持っている。トーキーに成ってから映画作家たちはその特性を利用し数多の名作、傑作を生みだして来た。台詞に頼らず観客の想像力を喚起させる表現で映画を創るのが映画作家の王道。社会が複雑になって来るのに比例して説明的な台詞を多用する映画が多くなって来たのも亦、事実。しかし、映画作家は説明ではなく「表現」しなければならない。先ず、説明を排した間接映像表現「シヤレード」とはどの様なものなのかを多種多様な参考映像を上映して解説する。後半では、短い「シヤレード」の創作とパフォーマンスに挑戦してもらう。							
到達目標	映画作家として、台詞に頼らぬ、観る者の想像力を喚起させる魅力的な演出、演技、脚本などの作劇術を理解出来るようにする。その上で短時間で「シヤレード」を創作、発表し、表現技術と思考を立体的に習得する。それにより映画作家として必要な「映画リテラシー」と「批評性」も習得する。							
授 業 計 画	回数	内容						
	1	講義の目的と目標の提示。「映画の成り立ち」から考え、「映画作家」が何をすべきなのかを考えたい。						
	2	「シヤレードの定義」を多種多様な映像を参考にしながら解説。「サブテキスト」との比較。						
	3	「シヤレードの仕分け」を解説。「脚本上のシヤレード」「演出上のシヤレード」の違い。						
	4	「シヤレードの種類」を解説。何を表現するためのシヤレードなのか。						
	5	4回までの講義を踏まえた「シヤレード」の解説、分析。黒澤明監督作品で見る「シヤレード」の解説① (※毎年作品を換える。)						
	6	4回までの講義を踏まえた「シヤレード」の解説、分析。黒澤明監督作品で見る「シヤレード」の解説②						
	7	4回までの講義を踏まえた「シヤレード」の解説、分析。黒澤明監督作品で見る「シヤレード」の解説③						
	8	4回までの講義を踏まえた「シヤレード」の解説、分析。黒澤明監督作品で見る「シヤレード」の解説④						
	9	4回までの講義を踏まえた「シヤレード」の解説、分析。今村昌平、内田吐夢、成瀬己喜男監督作品などで見る「シヤレード」の解説①						
	10	4回までの講義を踏まえた「シヤレード」の解説、分析。山田洋次、森田芳光、相米慎二監督作品などで見る「シヤレード」の解説②						
	11	「シヤレード創作」①週目。「シヤレード」の纏めを行ない、「シヤレード創作」の作業等を解説した上でグループ分けを行なう。						
	12	グループ毎にディスカッションし御題に則した「シヤレード創作」行なう。「叩き稿」を作成。発表。講評。						
	13	「シヤレード創作」②週目。個人として御題に則した「シヤレード創作」を行なう。講師より改良点の指摘を受け推敲、決定稿を作成。						
	14	成果物を発表。質疑応答をし、内容を検証する。						
15	現代社会における「シヤレード」を使用することに於ける今後の課題について考える。説明社会に成って来ている中での「シヤレード」。							
授業外学習	参考テキストとしての上映中の映画鑑賞など。							
教科書	適時作成したオリジナル・プリントを配布。							
主要参考書	新井一『シナリオの基礎技術』(ダヴィッド社)、橋本忍『複眼の映像』(文藝春秋) など							
評価方法	授業毎のリアクションペーパーの内容(10%)、3週間かけて行う「シヤレード」創作、発表を通しての「シヤレード」の理解度(40%)、最後に提出する課題レポートの内容(40%)、授業に積極的に参加する姿勢(10%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
日本文化論〈社会厄災・自然災害にどう向きあってきたか〉					高橋 世織			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画隣接)	選択	講義	2	3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	3.11から10年が経った。復興と復旧とは行政用語(予算措置)では別次元とはいえ、〈祭り〉が廃れていなかった地域では復旧・復興が早かったという。日本各地には様々な祭り(祭礼)が存続する。その事由を、繰り返される自然災害や予期せぬ災厄とセットで捉えなおすことで、日本文化の柔(重)構造ぶりを再認識していきたい。 日本の社会は、〈まつる者〉と〈まつるわぬ者〉との抗争で歴史が動いてきた。本講義は【祭り(祀り、政り、祭礼論)】の講義でもある。応仁の乱の内戦のさなかにも京都の山鉾の祇園会(え)＝「祇園祭」は途絶えなかったという。 欧米社会とは異なる、自然観、死生観、風景観が育まれてきたが、様々なジャンルの作品世界(文学・美術・映画、芸能、祭り、音楽)のサンプルを訪ねながら、見ていきたい。							
到達目標	①伝統とは、保守とは何か。イデオロギーから離れて根源的に考えてみる。 ②日本の言語文化(文芸・芸能)を貫く【ウタと哄笑の精神】を媒介にして、日本映画(黒澤明、今村昌平)の神髄に迫る。 ③自然災害や環境問題に対するリテラシーを身につける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	《和食》再発見 ―― すべての文化・風土や宗教は食文化に表象されている。 外食(そとたべ)文化の伝統と災害時の減災						
	2	水による水の料理、箸の作法、《旬》の思想、2万語に及ぶ調理語彙(ひと煮立ち等・・・)						
	3	すごいぞ《和紙》 ―― 黒い紙(アサクサリ)、木の根(牛蒡)を食べる日本人、ドイツ人のワビ・サビの誤解 碧い目の見た異文化理解(R. パルト)、シーボルト記念館における展示例から考える異文化誤解						
	4	『源氏物語』(1006年ごろ成立)と越前和紙の不思議な因縁。『鳥獣戯画』は一枚の紙を二枚に割いて配列した(相剝)。						
	5	世界一短い詩歌(HAIKU)と盆栽(BONSAI)、嶋台(SIMADAI) ―― 言葉を折り畳む、風景を折り畳む						
	6	寺田寅彦(地球;音響物理学・言語学者)の俳句モンタージュと1930年代サイレント映画論						
	7	渡り鳥の齎した東北アジア日本海文化圏の食文化と植生 ―― 各地の鳥捕りの歌(宮沢賢治「銀河鉄道の夜」「鳥をとるやなぎ」)						
	8	人類が登場する以前の弧状列島の風景を形創ってきたのは、何万年にわたる渡り鳥の移動行為であった(今井友樹監督『鳥の道を越えて』が示唆する記憶と記録)						
	9	新藤兼人『祭りの声』の示唆するもの 《声》の現象学① ―― 今村昌平『黒い雨』と井伏鱒二の方言文学						
	10	《声》(こわね、こわいろ)の現象学② ―― 声帯模写、『風の又三郎』と歌物語。裏声、ホーミー(モンゴル)、洞間声、訛声(だみごえ)、猫撫で声、						
	11	カツベン(活動弁士)の系譜学 ―― 中世の絵解き師から戦後の紙芝居へ						
	12	修復・待避の思想書として読み直す鴨長明著『方丈記』(英文学者の卵・漱石(金之助)が在学中に外国人教師のアシスタントとして英訳して世界に広まった)						
	13	すごいぞ近世文芸 ―― 芭蕉の濁音考、蕪村のモダニティ(音響の物質性)、西鶴の経済思想						
	14	夏目漱石と宮沢賢治の自然観、言語観、風景観、死生観を対比する						
15	(まとめ)祭り・祀り・政り・奉り ―― 『裏日本』(岩波新書)に対する私の所感こもごも・・・							
授業外学習	様々な天気予報(ウエザー情報)のあり方に関心を抱く。予報や警報等の災害情報、緊急事態宣言等の発出に関してのプロセスや文言(言葉遣い)に敏感になっておきたい。							
教科書	特に指定はしない。適宜資料を配布する。							
主要参考書	尾池和夫『四季の地球科学―日本列島の時空を歩く』(岩波新書)、小泉武夫『発酵』(中公新書)、宮坂静生『季語の誕生』(岩波新書)、宮本常一『塩の道』(講談社学術文庫)、笹本正治『中世の災害予兆』(吉川弘文堂)、三田村篤魚『江戸の生活と風俗』(中公文庫【鳶鳥江戸文庫23】)、江戸学の開祖・鳶鳥(えんぎょ、明治3年生まれ昭和27年没)は近年再評価されている。江戸人の智慧と江戸趣味批判が細部にわたり語られている必携・必読の書)、山本良一『気候危機』(岩波BL1016)、『方丈記』レプリカ巻子版など毎回現物を教室に仮展示するので休憩時に手に取ってほしい。対面授業ならではの効能である。							
評価方法	出席状況と授業の終了直後に毎回提出してもらう「リアクションペーパー」の充実度(感想・意見・質問等がしっかり記述されているか)を最優先して成績評価をします。平常点で評価するという意味です。出席が半分以下は不可。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
テーマ研究Ⅳ〈ヨーロッパ映画論〉					田辺 秋守			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	この授業では、現代ヨーロッパ映画について論じる。ヨーロッパ映画の特徴の一つは、人間の心理・情動・欲動(無意識的欲望)などに深い洞察を向けていることである。その表現としては、大胆な性描写、即物性、黙示録的表現、美的であるよりは崇高(醜悪・奇抜さ)を優先する傾向、様々なタブー(政治的、倫理的)に対する挑戦、アンチクライマックス、安易なエンディングを避ける傾向などがあげられる。またそれらは、多様なスタイルをもち、隠喩性、レトリック、批評性が強い。現代ヨーロッパ映画が繰り返し描くテーマは、多文化的な環境、多様な性、「神が死んだ」後の空白、偶然的な生、歴史の傷跡といったものである。本年度は比較的新しい現代のヨーロッパ映画について、毎回監督ごとに論じる。							
到達目標	ややもすれば、敬遠されがちなヨーロッパ映画の魅力を知ってもらいたい。系統だってヨーロッパ映画の作家たちを見ることで、受講後にはヨーロッパ映画についての見通しを立てられるようにしたい。							
授 業 計 画	回数	内容						
	1	ミヒヤエル・ハネケ監督(1942～):映画に刺さる棘						
	2	『ベニーズ・ビデオ』(1992)『隠された記憶』(2005):ビデオの中の虚偽と真実						
	3	ペドロ・アルモドバル監督(1949～):女性映画の再定義						
	4	『オール・アバウト・マイ・マザー』『トーク・トゥー・ハー』						
	5	エミール・クストリツァ監督(1954～):民族紛争という宿痾						
	6	アンダーグラウンド』『ライフ・イズ・ミラクル』						
	7	ラース・フォン・トリアー監督(1956～):ヨーロッパ映画の過激派						
	8	『エレメント・オブ・クライム』『ヨーロッパ』『奇跡の海』『ダンサー・イン・ザ・ダーク』						
	9	ネメシュ・ラースロー監督(1977～):ホロコーストをいかに描くか						
	10	『シオア』論争の後で、『サウルの息子』						
	11	アンドレイ・ズビャギンツェフ監督(1964～):現代的な正義と倫理の限界						
	12	『父、帰る』『エレナの惑い』『裁かれるは善人のみ』『ラブレス』						
	13	リュウベン・オストロンド監督(1974～):新たな感情教育?						
	14	『フレンチアルプスで起きたこと』『ザ・スクエア 思いやりの聖域』						
15	ヨーロッパ映画はどこへ向かうか/教場レポート							
授業外学習	できれば、課題の映画を授業前に見ておくこと。							
教科書	特になし。毎回プリントを配布する。							
主要参考書	ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』(晃洋書房)							
評価方法	レポート70% リアクションペーパー20% 受講時の発言10%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
テーマ研究Ⅲ(ホラー映画論:ゾンビという厄介な他者)					伊津野 知多			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(映画文化科目群/映画)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	専門	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	スプラッター映画のジャンルであるゾンビ映画を扱うため、毎回大量の血液や内臓の露出などの描写を目にすることになります。苦手な人は絶対に受講しないでください。「授業外学習」欄にあるロメロのゾンビ映画6本を授業開始前に見ておくことが必須です。							
授業概要	恐怖を描き、それを楽しむことは人間の文化的想像力の大きな一部を占めている。映画も例外ではなく、映画史の初期から、人々は飽くことなく様々な恐怖の形象(謎の怪物、宇宙人、巨大生物、凶暴化した動物、殺人鬼、幽霊、ゾンビ…)をスクリーンに描き出してきた。それは私たちにとって見たくない、排除したい、関わり合いになりたくない絶対的な他者だ。ホラー映画は、執拗にこの嫌な他者を突き付けることで、裏側から人間をあぶり出すものなのである。膨大な量と複数のサブ・ジャンルをもつホラー映画の中で、近年大流行中の、究極に厄介な他者と言える「ゾンビ」に焦点を絞って考えてみることにしよう。第1回目と2回目にホラー映画の歴史と広がりを概観する。第3回目以降は、ゾンビ映画の父、ジョージ・A・ロメロ監督の6本のゾンビ映画を、ジャンル論と作家論、社会と映画との関係という多角的な視点から丁寧に分析する。受講者とディスカッションしながら進めるので積極的な参加を求める。							
到達目標	①ホラー映画の大まかな歴史やジャンルの広がりが理解できる。 ②ジャンル論、作家論、映画と社会の関係など、映画を分析するときの複数の視点と方法論を身につけることができる。 ③ディスカッションを通して映画について語る技術が修得できる。							
授業計画	回数	内容						
	1	ホラー映画概論①: ホラー映画の大まかな歴史、ジャンルとサブ・ジャンルの広がり						
	2	ホラー映画概論②: 恐怖の形象のバリエーション、究極の他者としての「ゾンビ」						
	3	ジョージ・A・ロメロ『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』(1968年)を読む						
	4	部分上映と分析、ディスカッション						
	5	ジョージ・A・ロメロ『ゾンビ』(1978年)を読む						
	6	部分上映と分析、ディスカッション						
	7	ジョージ・A・ロメロ『死霊のえじき』(1985年)を読む						
	8	部分上映と分析、ディスカッション						
	9	ジョージ・A・ロメロ『ランド・オブ・ザ・デッド』(2005年)を読む 【期末レポート事前課題・解答用紙配付】						
	10	部分上映と分析、ディスカッション						
	11	ジョージ・A・ロメロ『ダイアリー・オブ・ザ・デッド』(2008年)を読む						
	12	部分上映と分析、ディスカッション						
	13	ジョージ・A・ロメロ『サバイバル・オブ・ザ・デッド』(2009年)を読む						
	14	部分上映と分析、ディスカッション						
15	【期末レポート当日課題発表・レポート作成】 ⇒ 授業後に提出							
授業外学習	授業で扱うジョージ・A・ロメロによるゾンビ映画6作品を、授業開始前に各自見ておくこと。 また、ロメロ以外のゾンビ映画作品もできるだけ見ておいてほしい。特に以下の作品。ダン・オバノン『バタリアン』(1985)、ダニー・ボイル『28日後…』(2002)、エドガー・ライト『ショーン・オブ・ザ・デッド』(2004)、ジャウマ・バラグロ『REC/レック』(2007)、マーク・プライス『コリン』(2008)。							
教科書	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。							
主要参考書	伊藤美和『ゾンビ映画大事典』(洋泉社、2003)、野原祐吉『ゾンビ・サーガ―ジョージ・A・ロメロの黙示録』(ABC出版、2010)、ノーマン・イングランド『別冊映画秘宝 決定版ゾンビ究極読本』(洋泉社、2019)ほか。初回授業時に参考文献表を配布する。							
評価方法	①授業内に提出するリアクションペーパーの評価点:50% ※内容を評価するので注意。名前のみや、適当に書かれたものは0点とする。 ②期末レポートの評価点:50% (期末レポートは事前課題と最終日に発表する当日課題で構成される)							
教員への連絡方法	メール							

科目名				担当者名				
物語論				田辺 秋守				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	自分なりに物語を構想したいと思っている人、シナリオ書きの準備を考えている人に向いている。							
授業概要	物語(ストーリー)とは何か、物語の核心には、どのような論理が働いているのか。まず前半では、古典的な物語から近代の物語の最も重要な作品を知ってもらおう。後半はハリウッドの作り手がシナリオのストーリーをどのように理解し、どのように創作しているのかを検討する。その際ブレイク・スナイダーの『10のストーリータイプから学ぶ脚本術』とロバート・マッキーの『ストーリー:ロバート・マッキーが教える物語の基本と原則』を参考にする。これらはシナリオ書きのためのハウツー本ではない。豊富な映画のデータに基づく物語の分析から、実際にどのように物語を創作するかを考えさせるものだ。後半はこれらの本をもとに、実際に自分でシナリオのもとになるプロットを構想し、ストーリーを書く練習をする。							
到達目標	物語の型を習得し、自分でストーリーやプロットを考えられるようにする。長編シナリオ書きのための助けにしたい。							
授業計画	回数	内容						
	1	物語とは何か						
	2	原型的な物語1:『旧約聖書』;「アダムとイブ」「カインとアベル」「ノアの箱舟」「出エジプト」「モーゼの十戒」など						
	3	原型的な物語2:ギリシア悲劇;『オイディプス王』『アンティゴネー』『王女メディア』など						
	4	原型的な物語3:神話物語(北欧神話、『古事記』など)から						
	5	物語の近代1:シェイクスピアの悲劇;原型と翻案						
	6	物語の近代2:シェイクスピアの喜劇						
	7	ハリウッドの物語類型(1)1「家の中のモンスター」、2「金の羊毛」、3「魔法のランプ」						
	8	ハリウッドの物語類型(2)4「難問に直面する凡人」、5「人生の岐路」、6「バディ愛」						
	9	ハリウッドの物語類型(3)7「なぜやったのか」、8「愚か者の勝利」						
	10	ハリウッドの物語類型(4)9「組織のなかで」、10「スーパーヒーロー」						
	11	物語の構造、プロットの種類;アークプロット、ミニプロット、アンチプロット						
	12	ストーリーの設定(時代、期間、舞台、葛藤のレベル)と登場人物						
	13	物語の展開(1)契機事件/幕の設計/編成						
	14	物語の展開(2)重大局面/クライマックス/解決						
15	まとめ/レポート							
授業外学習	重要な物語作品(『聖書』、ギリシア悲劇、シェイクスピアなど)を実際に読むこと。							
教科書	特にない。毎回プリントを配布する。							
主要参考書	クリストファー・ボグラー&デイビッド・マッケナ『物語の法則』(KADOKAWA) ブレイク・スナイダー『10のストーリータイプから学ぶ脚本術』(フィルムアート社) ロバート・マッキー『ストーリー:ロバート・マッキーが教える物語の基本と原則』(フィルムアート社)							
評価方法	教場レポート70% リアクションペーパー20% 受講時の発言10%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
文芸映画論					大澤 信亮			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2021～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	とくになし。ただし、3年次に「文芸コース」または「脚本コース」を希望する可能性のある学生は率先して受講しておくこと。							
授業概要	<p>この講義では、主に日本の近現代文学を原作とする映画作品を題材に、私たちにとって身近かつ切実なテーマを文学や映画がいかに描いてきたのかを紹介する。取り上げる作家・作品はいずれも、文学史的によく知られたものであり、受講者は日本の近現代文学(および一部マンガ)についての基本的な知識を学ぶことができる。この講義は3年時に「文芸コース」に進む可能性のある学生は受講しておくべきだが、現在の実写映画の多くが小説やマンガ等を原作としていることから、他コース希望の学生の受講も歓迎する。</p> <p>講義の進め方としては、毎回、講義—上映—講義—リアクションペーパー執筆、という流れを繰り返す。最終課題は、講義で取り上げた作品のなかから一つを選び、「原作」について論じるというものにする。つまり「観る」だけではなく、一定の「読む」力と「書く」力を求める。なお、講義スケジュールは変更する可能性がある。その場合、講義が開始する前にあらかじめ告知することにする。</p>							
到達目標	日本の近現代文学の全体像を学ぶ。小説と映画を比較できるようになる。小説を読み、論じてみる。							
授業計画	回数	内容						
	1	柴崎友香『寝ても覚めても』/濱口竜介『寝ても覚めても』から「現実と映画」の関係を考える						
	2	東日本大震災、一人二役、運命的な恋愛の断念、出演者のスキャンダル、許せない相手と生きていく						
	3	岡崎京子『リバーズ・エッジ』/行定勲『リバーズ・エッジ』から「死」について考える						
	4	死体、いじめ、セックス、ドラッグ、ゲイ、過食、殺人、自殺、この平坦な戦場を生き延びること、文学のようなマンガ						
	5	よしもとばなな『TUGUMI』/市川準『つぐみ』から「郷愁」について考える						
	6	田舎の海辺町、わがままな病気の少女、複雑な家庭環境、少女マンガのような文学						
	7	村上春樹『ノルウェイの森』/トラン・アン・ユン『ノルウェイの森』から「性欲」について考える						
	8	精神病の女の子、親友の自殺、性欲と恋愛、学生運動、高度資本主義社会の手前						
	9	三島由紀夫『美しい星』/吉田大八『美しい星』から「使命」について考える						
	10	転生、環境問題、マルチ商法、レイプ、壊れた家族の再生、大いなる使命を持つことの滑稽さと切実さ						
	11	太宰治『人間失格』/蜷川実花『人間失格 太宰治と3人の女たち』から「創作者の作為」について考える						
	12	不倫、心中、自己劇化、自己破壊、恐ろしい女たち、クズがクズであることを自ら示すこと						
	13	芥川龍之介『地獄変』/豊田四郎『地獄変』から「芸術とは何か」を考える						
	14	時代劇、平安時代、権力者と創作者、芸術至上主義、芸術のために最愛の者を殺せるか						
15	総論							
授業外学習	なし。							
教科書	なし。ただし、各回の原作を自主的に読んでおくことが望ましい(講義前か講義後に)。							
主要参考書	なし。							
評価方法	各回のリアクションペーパーの平均(70%)、最終レポート課題(30%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名				
映画と文学〈戦後史とともに学ぶ〉					関川 夏央				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎	
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山	
履修条件	特になし。								
授業概要	おもに1960年から1990年代なかばまでにつくられ、「文芸映画」と分類された作品を分析的に見ながら、言語表現と映像表現の違いをさぐる。それぞれの作品を生み出した日本社会の時代相、およびその時代を表象した俳優たちについて考察する。								
到達目標	文学表現と映像表現の関係を考察しながら、1960年から1990年代までの日本現代史像と映画史像を形成する。								
授 業 計 画	回数	内 容							
	1 2	市川崑監督「おとうと」(1960)を見、幸田文のテキスト「おとうと」を読んで、市川崑、シナリオの水木洋子、および作家幸田文自身とその家族像を分析する。							
	3 4	1と2のつづき。大正期の「時代をつける」ために市川崑が発明した現像方法「銀残し」を学ぶ。参考作品として市川崑『雪之丞変化』の部分を見る。							
	5 6	新藤兼人83歳の監督作品『午後の遺言状』(1995)を見て、新藤兼人のキャリアと困難な映画製作をつづけた独立プロ(近代映画協会)について学ぶ。							
	7 8	5と6のつづき。新藤兼人監督『裸の島』(近代映協作品)の部分を見て、1960年の時代相と独立プロの映画製作状況を知る。							
	9 10	深作欣二監督、つかこうへい原作・脚本『蒲田行進曲』(1984)を見て、撮影所というシステムと映画作品の虚実を学ぶ。							
	11 12	9と10のつづき。深作欣二『仁義なき戦い』(1974)の部分を見て、監督という仕事の幅を知る。							
	13 14	山田洋次監督『幸福の黄色いハンカチ』(1977)を見て、役者の起用の仕方について、またロケーション撮影について学ぶ。							
	15	13と14のつづき。参考作品として山田洋次監督『男はつらいよ』の部分を見る。							
	授業外学習	授業で取り上げる作品の原作小説、『おとうと』、『蒲田行進曲』などは事前に通読しておくのが望ましい。							
	教科書	特になし。							
	主要参考書	特になし。							
	評価方法	平常点80%、レポート20%							
	教員への連絡方法	メール							

科目名				担当者名				
芸能概論				天願 大介、高橋 世織、田辺 秋守、石坂 健治、藤田 直哉				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし							
授業概要	<p>芸能の歴史を学び、その本質について考える。 古来、芸能は神事と深く関わり、同時に激しく差別されてきた。それは洋の東西を問わず、形を変えて現在まで続いている。 芸能を持たない民族・文化は存在しない。そして、それぞれの芸能は意外なところで繋がっている。 映画もまた芸能であり、芸能を知ることは映画を知ることでもある。 各講師が様々な芸能を取り上げ、角度を変えて芸能について講義し、その広がりや意味について考察する。</p>							
到達目標	日本の芸能の歴史を中心に、アジア、ヨーロッパ、アメリカの諸芸能を学ぶ。 芸能の持つ普遍的な役割と未来を考える。							
授業計画	回数	内容						
	1	芸能の本質は「遊び」であること [天願] 参考＝ロジェ・カイヨワ ○放浪する門付け芸と差別について 参考＝高橋竹山、北島三郎、藤圭子						
	2	地べたの芸と板の上の芸 表現とは何か [天願] ○小沢昭一の仕事について						
	3	能の基本的な見方を学ぶ [藤田] 能は、形式でも内容でも不思議な特徴を持っている。神事や儀式に似ており、西洋の演劇とは文法が異なる。その意義や意味を考察する。 ○『土蜘蛛』『翁』						
	4	弱者たち、滅びゆく者たち [藤田] 世阿弥らは、被差別階級に属していた。寺や権力者に庇護されつつ、時に諫め、論ずる役割を果たすこともあった。その緊張感と呼吸に触れる。 ○『隅田川』『恋重荷』『鞍馬天狗』『善知鳥』『安達原』						
	5	狂言 庶民たちの力強さ、ユーモアとは何か [藤田] 権力や権威の圧が強い能と違い、狂言は庶民や人間のダメな姿を肯定する。 ○『萩大名』『棒縛り』『鞍馬』『若市』『武悪』						
	6	「夢幻能」と霊的な存在 [藤田] 能には、滅び去ったものや、霊的な存在が現れる。非現実な存在を演じるこの意味を考察する。 ○『船弁慶』『龍田』『融』						
	7	芸能の真髄としてのオペラ(朗唱し、独唱し、合唱する) [田辺] ○ギリシャ古典を音楽によって可視化する ○バロックオペラとパトロンとの関係						
	8	バロックオペラ最大のスター「カストラート」 [田辺] 参考＝ジュゼッペ・コルビオ監督『カストラート』(1994)						
	9	モーツァルトによるオペラの革命 [田辺] ○ダ・ポンテ+モーツァルト:オペラの喜劇化、『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『コシ・ファン・トゥッテ』の現代的性 ○パトロンからの自立、崇高にして通俗であること 参考＝ミロス・フォアマン監督『アマデウス』(1984)						
	10	オペラは海を渡る [田辺] ○日本へのオペラ(オペレッタ)の移入、ローシーと帝国劇場 ○浅草オペラの隆盛から衰退(関東大震災まで) ○浅草公園六区という場所 ○藤原義江、高田せい子、田谷力三の活躍						
	11	芸能の発生現場と翁の役割 [高橋] ○『竹取物語』の解釈(折口信夫)と訳業(川端康成) ○被差別集団の竹採取と竹細工、みことのと天皇制の始原						
	12	祭礼(祀り事・政り事)と【芸能】をつなぐもの——畏怖と哄笑、笑う身体(ファルス) [高橋] ○舞いと音曲と言祝(ことほぎ)・霊鎮め。或いは異形なるものとの遭遇(異類婚姻譚) ○藝能王・御白河院の『声わざ日記』、谷崎潤一郎『芸談』『所謂痴呆の芸術について』を読み直す						
	13	東アジアの芸能 [石坂] ○韓国の民俗芸能パンソリ(歌い手と鼓手による二人芸)と放浪芸の世界について。『春香伝』『沈清伝』といったパンソリの人気演目が20世紀後半に繰り返し映画化されていく過程についてもふれる。						
	14	参考＝イム・グオンテク監督『風の丘を越えて～西便制(ソピョンジェ)』(1993)、イ・ジョンピル監督『花、香る歌』(2016)						
15	芸能の伝播 普遍的な心情とは何か [天願] ○被差別であるが故に強さを持つということ。 参考＝『朝日があたる家』の変遷							
授業外学習	授業内であげた作品をなるべく多く見て、文献に触れておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	小沢昭一の諸著作。その他、各講師が講義の中で紹介する。							
評価方法	担当教員ごとのレポート(4回)60%(15%×4人)、受講態度40%							
教員への連絡方法	メール							

科目名				担当者名				
写真論				高橋 世織				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	<p>映画をかつては「活動写真」、「シヤンシヤン」と云っていたほどで、[撮影行為]抜きには映画も写真も存在しえない。19世紀前半に誕生した写真術は、美術界はもとより文学世界、思想界、出版メディアにも多大なインパクトをもたらした。</p> <p>19世紀の後半から澎湃と沸き起こった自然主義(リアリズム)は、写真メディアが齎した最たる思想・芸術の時代思潮となった。リアルか否かがまず問われ、エビデンスに採用された。20世紀にはモダニズム前衛芸術や広告ファッション、雑誌や新聞の報道(戦争)でフォト・ジャーナリズムなど多様な表現の場の拡大を写真メディアが担った。</p> <p>平成の30年間で、使い捨てカメラ、デジカメ、写メール、スマホ、インスタと次々に技術史のイノベーションによって写真を取り巻く風景や状況は急激に変化している。こうした表現史と技術史の双方の歴史の変遷を講義しながら、来るべき写真表現の可能性を模索する。【写す=移す=映す】という謂わば、世界の表層の超被膜の【皮剥ぎ行為】として捉えると、どんなにテクノロジーが進化を遂げようが、手や指と世界の関係の型(タイプス)が見えてくる。ガラス面を朝から晩まで触りタップし続けている21世紀文明の源泉に向かって辿りなおす精神の旅の授業である。写真家で思想家のゲストも招聘し対論する予定。</p>							
到達目標	従来(フィルムカメラ)、銀塩写真を見たことも触ったこともない学生が大勢を占める時代になってしまった。写真から映画への移行過渡期である19世紀後半の社会と歴史とをメディア的想像力で捉え直したい。ひいては、新しい映画・映像表現の模索の一助に、この科目がなることを目標としたい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	写真(フォト・グラフィ)は、なぜ光で描く=「光画」と訳されなかったのか？ 世界最初の写真集=タルボット『自然の鉛筆』から東松照明『太陽の鉛筆』へ						
	2	銀塩写真からデジタル写真——カメラとバッテリーの進化から見た《表情》の変遷を辿る						
	3	19世紀学からみた写真と映画①——《東の間の幻影》、「鉄と硝子」の時代、時は金なり、労働価値説						
	4	19世紀学からみた写真と映画②——闇と光のドラマツルギー、ワーグナー楽劇の誕生と装置						
	5	19世紀学からみた写真と映画③——表情の発見と描写、ラファエロ前派絵画の写真援用、死貌の表象、心霊写真、遺影						
	6	19世紀学からみた写真と映画④——家族観の変容とファミリーアルバム、子供の発見、天皇の肖像写真と御真影(絵画)						
	7	映画の中の写真①——『麦秋』51、『生きる』52、『東京物語』53、『二十四の瞳』54						
	8	映画の中の写真②——クリス・マルケル、W. ヴェンダース、アントニオニー『欲望(BLOW-UP)』						
	9	写真と都市思想——W. ベンヤミンの『写真小史』を読む						
	10	写真と都市のモード——A. ザンダーの職業図鑑『20世紀の人間』、ヴェンダース『ベルリン天使の詩』、『都市とモードのビデオノート』						
	11	プリントと版の時代(新聞・雑誌・写真集)——土門拳『筑豊の子供たち』とアラキー『さっちゃん』の比較						
	12	写真家としての岡本太郎——平凡社・月刊『太陽』と東北・縄文再発見、民俗学系列の写真家たち						
	13	写真家ゲストによる基調レクチャー(SNS等、これからの映像の受容と発信・拡散と保存をどう考えるか)						
	14	写真家ゲストと高橋のトークセッション——①風景と記憶をめぐる旅と移動、「風景とみんなと一緒に激しく明滅する・・・」(宮沢賢治) ②現代の廃墟映像(コロナと都市風景)						
15	おわりに——盲者によって撮影された写真、或は《写真と声》に就いて ユージャン・パフチャルの写真行為から我々は何を受け取るべきなのか。21世紀後半の映像を夢想しつつ・・・							
授業外学習	日本カメラ博物館(半蔵門)で、古いカメラや機材の展示し解説を常時しているの、一度訪れてみましょう。 東京都写真美術館(恵比寿)や、写真美術館としての構想もあった横浜美術館や川崎市市民ミュージアム(2019年の台風浸水で現在休館中)、近場では川崎市岡本太郎美術館(生田)などで写真の展示のされ方などに関心を持つよう日頃から心掛けたい。							
教科書	特に指定はしない。適宜資料を配布する。							
主要参考書	高橋世織編著『映画と写真は都市をどう描いたか』(ウエッジ選書) ベンヤミン『パサーージュ論』第4巻(岩波現代文庫)、東松照明『11時02分長崎』(フォムゼ・新潮社)、カラー版『世界写真史』(美術出版社)、港千尋『記憶』、『インフラグラム』(共に講談社、メチエ選書)、『風景論』(中央公論新社)。毎回講義の中で適宜、参考文献はコピーし配布し指示していく。対面授業ならではのメリット・効能を生かし、日清戦争時代の大判写真集から21世紀までの主要な写真集のオリジナル現物を教卓前に並べるので手に取って触ってほしい。							
評価方法	出席状況と授業の終了直後に毎回提出してもらう「リアクションペーパー」の充実度(感想・意見・質問等がしっかりと記述されているか)を最優先して成績評価をします。平常点で評価するという意味です。出席が半分以下は「不可」扱いとなります。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
ファッション文化史					ハン・トンヒョン			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	とくになし。							
授業概要	<p>「あなたは今日何を着ていますか？ それ着ているのはなぜですか？」——哲学者の鷺田清一は、「人が衣服をまとうのは身体に意味づけをするため」と指摘した。そのような意味づけを行うのは、それをまとっているその人でありまたその人が属している社会である。だとしたら衣服を読み解くことで、その人とその人が属している社会を知ることができるのではないか。だからこそ、映画において衣装や小道具が重要になってくる。</p> <p>そのため前半では近代化の産物としてのファッションの歴史について学ぶ。後半では現代社会における装うことの意味について考える。ファッションについて考えることは、身体と物と社会の関係を考えることだ。</p> <p>映画を中心にした資料や事例を参照しつつ講義し、毎回何らかの課題を出すので、意欲を持って参加してほしい。</p>							
到達目標	現代社会における服飾・ファッションの重要性を認識し、歴史的な知識を踏まえたうえで、身体と物と社会の関係を考えられるようになること。							
授業計画	回数	内容						
	1	ガイダンス・イントロダクション						
	2	ファッションについて学ぶ意味						
	3	歴史(上)身分からの解放とパリモードの誕生①						
	4	歴史(上)身分からの解放とパリモードの誕生②						
	5	歴史(中)世界の洋装化、ニューヨークと既製服①						
	6	歴史(中)世界の洋装化、ニューヨークと既製服②						
	7	歴史(下)パリコレシステムとストリートファッション、ファストファッション①						
	8	歴史(下)パリコレシステムとストリートファッション、ファストファッション②						
	9	中間まとめ						
	10	映画とファッション						
	11	装うことの意味(上)①						
	12	装うことの意味(上)②						
	13	装うことの意味(下)①						
	14	装うことの意味(下)②						
15	最終まとめ							
授業外学習	課題が宿題として出た際は必ず次回までやってくる(評価にかかわる)。欠席した回の課題についても同様。映画を見る際には学んだことを参考にして衣装・小道具に注目すること。							
教科書	とくに指定しない。毎回、必要な資料はプリントを配布する。							
主要参考書	藤田結子・成実弘至・辻泉編『ファッションで社会学する』(有斐閣、2017) 成実弘至『20世紀ファッションの文化史』(河出書房新社、2016) 成実弘至編『コスプレする社会——サブカルチャーの身体文化』(せりか書房、2009) ジオアン・フィルケンシュタイン『ファッションの文化社会学』(せりか書房、2007) 韓東賢『チマ・チョゴリ制服の民族誌(エスノグラフィ)——その誕生と朝鮮学校の女性たち』(双風舎、2006) 鷺田清一『ちくはぐな身体——ファッションって何?』(ちくま文庫、2005) 井上雅人『洋服と日本人』(廣済堂出版、2001) 北山晴一『衣服は肉体になにを与えたか 現代モードの社会学』(朝日選書、1999) ディック・ヘブデージ『サブカルチャー』(未来社、1986) 北村道子『衣裳術』『衣裳術2』(リトルモア、2018)							
評価方法	毎回の課題70%+出席や意欲などの平常点30%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
美術史 I (日本美術史)					小川 稔			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特に定めない。							
授業概要	全15回の連続講義で日本美術史の「よみなおし」をする。古代～近世、千年以上にわたる一応の通史ではあるが、常に現在の私たちの地平から日本の歴史的美術の重要性は何かという視点を持ち続けたい。世界美術の中で日本美術にどのような特質があるのか、はたしてそれは今も有効であるかといった問題提起をわすれず、民俗、社会、政治経済などさまざまな視点から見直していく予定である。ジャンルとしては仏教美術・世俗美術の幅広い領域で生まれた絵画・彫刻・建築・工芸・版画・書、あるいはそれらから逸脱するものなどを拾い上げながら出来るだけ多くのスライドを使って講義する。							
到達目標	わが国の美術史概説をおし学生諸君が「何か」に出会うことを期待したい。基本、常識としての日本美術史の「学び」ということだけでなく、「見る」ことを通して「考える」技術も身につけたい。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	古代 I — どこから始まる？日本美術史						
	2	古代 II — 飛鳥～白鳳時代の仏教美術						
	3	古代 III — 天平時代の仏像と大仏建立の前後						
	4	古代 IV — 密教と平安初期の美術						
	5	古代 V — 平安時代の絵巻物について						
	6	中世 I — 王朝末期の人間模様						
	7	中世 II — 鎌倉彫刻と仏師運慶の登場						
	8	中世 III — 室町時代の禅宗美術						
	9	中世 IV — 雪舟と水墨画						
	10	中世 V — 茶道の美術をめぐって						
	11	近世 I — 安土桃山時代の絵画						
	12	近世 II — 俵屋宗達と本阿弥光悦について						
	13	近世 III — 江戸時代の個性的な画家たち						
	14	近世 IV — 浮世絵と民衆の美術						
	15	近世 V — 幕末から明治へ						
授業外学習	近隣の美術館、博物館などに普段から足を運び日本美術に関心をもってほしい。							
教科書	資料をその都度配布する。							
主要参考書	授業内で紹介する。							
評価方法	授業で扱った内容に関するレポート(50%)。授業への積極的な態度、リアクションペーパーなどによる理解度(50%)を総合的に評価する。							
教員への連絡方法	授業内で紹介する。							

科目名					担当者名			
映画と演劇					天願 大介			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画)	選択	講義	2	2	後期	F(その他)	白山
～2017	専門	選択	講義	2	4	後期	F(その他)	白山
履修条件	事前の知識はとりあえず必要とされない。							
授業概要	演劇は映画の母である。演劇を知らぬ者に映画を作る資格はない。映画と演劇の歴史を学びその深い関係を知り、異質なものがぶつかり合うことで生まれるパッションこそが映画の原点であり、未来の映画の豊かな可能性がそこにあることを実感する。							
到達目標	演劇に興味を持ち、演劇の知識が映画制作に必要な不可欠だと実感する。							
授業計画	回数	内容						
	1	映画の本質(どこから映画は誕生したか) ルーツに学ぶ意味と演劇の影響。						
	2	映画と演劇の違い 演劇的手法と各国作家たちの様々な模索。						
	3	「リアル」を巡る映画と演劇の進化 産業革命と無意識の発見。						
	4	女優の誕生とモンタージュ 演劇改良運動とスタニスラフスキー。						
	5	ギリシャ悲劇とアリストテレス「詩学」 演劇の形式の誕生と悲劇の本質。						
	6	ウディ・アレン「誘惑のアロディータ」 オイディプス王とギリシャ神話。						
	7	能・狂言とその形式 能とギリシャ悲劇との共通点。						
	8	シェイクスピア(エリザベス朝演劇) ギリシャ以降のヨーロッパ演劇史。						
	9	黒澤明「蜘蛛巣城」 黒澤映画の演劇的手法。						
	10	小沢昭一の仕事 「日本の放浪芸」と芸能の本質。						
	11	落語・浪曲・講談 語り芸の系譜とそれぞれの違い。						
	12	川島雄三「幕末太陽傳」 川島雄三と立川談志。						
	13	近代演劇と現代演劇 リアリズムから実存主義へ。						
	14	カウンター・カルチャーとヌーベルバーグ アングラの誕生——寺山修司と唐十郎。						
15	寺山修司「書を捨てよ町へ出よう」 不条理劇の誕生。ベケットとプレヒト。							
授業外学習	観劇を体験しておくこと。							
教科書	特になし。							
主要参考書	授業の中で提示。							
評価方法	受講態度とレポートで判断する。(受講態度 65%、レポート 35%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名				
文学〈漱石から魯迅へ〉					関川 夏央				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎	
2018～	教養〈文学・芸術科目群/映画隣接〉	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山	
履修条件	とくになし。								
授業概要	日本近代文学の巨匠、漱石夏目金之助の作品中の中編と短編を精読する。その過程で、19世紀末から20世紀初め(明治末年)までの日本近代史の流れを追い、「常識的」歴史観を形成する。中間と期末、2回のレポートを課す。								
到達目標	近代文学テキストの読解を通じて、近代日本人の外国文化との接触・吸収・批評のあり方を学び、日本と東アジアの近・現代像を把握する。								
授 業 計 画	回数	内 容							
	1 2	1906年(明治39年)春、職業作家となる以前の漱石が書いた中編小説『坊っちゃん』を精読する。漱石の生育と文化的背景をさぐる。							
	3 4	『坊っちゃん』精読②——1895年、漱石(夏目金之助)の松山赴任、および1900年から1903年の英国留学と1906年の『坊っちゃん』執筆の相関を考察する。							
	5 6	『坊っちゃん』精読③——漱石留学中の日記、書簡、およびその成果として1909年に東京朝日新聞紙上に発表された『永日小品』から20世紀的世界の現実をさぐる。							
	7 8	漱石の英国体験の結実——「クレイグ先生」、「下宿」、「過去の匂い」を分析的に読み、当時の世界と英国の事情を研究する。世界における日本と東アジアのイメージを知る。							
	9 10	帰国後の漱石は、東京帝国大学教授の地位を捨て、東京朝日新聞の社員作家に転職する。その大胆な行動の動機を考えながら「クレイグ先生」ほかを読む。							
	11 12	1902年春、清国留学生(洋科学)として日本留学した魯迅(周樹人)は、漱石作品の読者となる。後年、彼が漱石「クレイグ先生」の影響下に、仙台医専時代を回想して書いた「藤野先生」を読む。							
	13 14	「クレイグ先生」と「藤野先生」を比較しながら、魯迅の体験した明治日本と明治東京、また国民革命揺籃地としての東京の歴史を学ぶ。							
	15	13、14のつづき。漱石の作家生活後半期と魯迅の後半生を考察する。							
	授業外学習	授業でとりあげる作品、夏目漱石『坊っちゃん』は通読しておく。							
	教科書	夏目漱石『坊っちゃん』(新潮文庫)を教務課で購入する。それ以外のテキストはコピーを配布する。							
	主要参考書	とくになし							
	評価方法	平常点80%、レポート20%							
	教員への連絡方法	メール							

科目名				担当者名				
美術史Ⅱ〈西洋美術史〉				佐川 美智子				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養〈文学・芸術科目群/映画隣接〉	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養〈A群〉	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	<p>古代ギリシア・ローマ時代から近代まで、西欧の様々な美術作品は人類共通の遺産であり、現代でもなお視覚芸術の重要な源泉です。この講義では毎回スライドを使って西洋美術史上の多様な作品(建築、絵画、彫刻等)を通史に沿いつつ紹介していきながら、作者や時代背景、作品の主題、解釈、造形の特徴など、理解を深めるために不可欠な事柄も含め、各時代や地域の重要なトピックを取り上げていきます。また美術作品の実物に触れることを重要視しているため、優れた作品の所在地情報や、鑑賞するに値する展覧会の情報等も随時伝えます。美術史の知識を持っているとより深く理解できる映画・ドラマ等も紹介します。さらに、校外学習として、近隣美術館の見学を予定しています。</p> <p>この講義を通じ、長きにわたり西欧の視覚芸術の根源を形成してきた伝統とその革新というダイナミックな動きに触れるとともに、現代社会で生み出されている映画やアニメーション、ゲームといった一見古いものとは無縁に思える創作物の中でも、西洋の古典的な世界が様々に参照され、引用されている事実を見つけることができ、また同時にその源泉を理解することを目標とします。</p>							
到達目標	この講義では西欧の視覚芸術の歴史に対する知識と理解を深めることを第一目標とする。また多様な美術作品に触れることで視野が広がり、異文化に対する理解が促進される。同時に、現代の映像表現に西洋美術がどのような形で生きているかを認識することができるようになる。							
授業計画	回数	内容						
	1	導入編:なぜ西洋美術を学ぶのか、その意義や面白さについて/ 西欧世界の美の規範、そのルーツ① 古代ギリシアの建築と美術(古典古代)						
	2	西欧世界の美の規範、そのルーツ② 古代ローマの建築と美術						
	3	キリスト教美術の基礎知識:教会、為政者、民衆-ロマネスクからゴシックへ						
	4	ルネサンスの始まり イタリアの都市国家の発達と美術						
	5	盛期ルネサンス 天才の時代① ボッティチェリ、レオナルド・ダ・ヴィンチなど						
	6	盛期ルネサンス 天才の時代② ミケランジェロ、ラファエロなど						
	7	北方ルネサンス/宗教改革期の美術-神、人間、自然 アルブレヒト・デューラー、ルーカス・クラナハ(父)ほか						
	8	フランドルの魔術的空間-ヤン・ファン・エイクからボス、ブリューゲル、フェルメール、レンブラントへ						
	9	バロック期 レンブラントの光と影、ルーベンスの豊穡、カラヴァッジオの演劇性						
	10	近代の幕開け:戦慄の絵画-ゴッヤ、ブレイクなど						
	11	19世紀 変革の時代、視覚の革命-リアリズムから印象派へ						
	12	20世紀-世界大戦の時代 変貌を遂げてゆく美術表現						
	13	美術館見学						
	14	美術館見学						
15	現代の美術 多様化する表現領域							
授業外学習	美術館見学の機会を設けます。また講義中に足を運ぶ意義のある展覧会を紹介します。個人でもできるだけ実物に触れる機会を作ると良いでしょう。							
教科書	特になし。							
主要参考書	講義中に紹介。							
評価方法	リアクションペーパーの内容<20%>、授業および見学に積極的に参加する姿勢<10%>、期末レポートの内容<70%>							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画と音楽					岩瀬 政雄			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画)	選択	講義	2	3・4	前期	C2(1+2×7)	白山
履修条件	「映画ソムリエ・プログラム」の取得を目指すものはできるだけ履修しておくこと。							
授業概要	映画音楽に正解はない。監督が最後まで御せないものは音楽である。監督と音楽家は様々な方法を使ってコミュニケーションを図る。上手く行く時、上手く行かなかった時。時に音楽は監督の意図を超えて映像に驚く様な深味を作る。その時、打ち合わせはどの様に行われていたか。映画音楽の方法を教えることを私は出来ない。ただ監督と音楽家の間で通訳として経験したことを語ることは出来る。けれどそれはあくまで参考例、そこから先は個々のやり方を作り出すしかない。その参考例の経験談講義である。							
到達目標	映画音楽のプロデューサーとは何をする人なのかの理解。いかにそれは必要かの理解。そしてそれに成る為の最低限の知識と心得の習得。							
授業計画	回数	内容						
	1	私の映画音楽との出会い。講義の全体像。音色。例オカリナ「裸の大将」						
	2	「影武者」の経験。佐藤勝から池辺晋一郎への音楽家の変更。黒澤の方法。						
	3	黒澤明の映画音楽の方法。黒澤と早坂文雄。「野良犬」「羅生門」「七人の侍」						
	4	黒澤明の映画音楽の方法。黒澤と佐藤勝。「用心棒」「天国と地獄」「赤ひげ」						
	5	黒澤明の映画音楽の方法。黒澤と武満徹。「どですかでん」「乱」						
	6	武満徹の映画音楽 「はなれ瞽女おりん」「ナイトオンザプラネット」(ボツM)「写楽」						
	7	伊福部昭と「ゴジラ」昭和版 「ゴジラ」1954「キングコング対ゴジラ」「モスラ対ゴジラ」						
	8	伊福部昭と「ゴジラ」平成版 「ゴジラvsビオランテ」「ゴジラvsメカゴジラ」「M 録り映像」						
	9	・市川崑の方法 「細雪」 ・大森一樹とかしづち哲郎、同世代との仕事、選曲方式 「恋する女たち」						
	10	降旗康男と高倉健さん映画の音楽 「夜叉」「あなたへ」 トーツ・シールマンズのハーモニカ						
	11	映画「すばらしき映画音楽たち」						
	12	プロトウールズの登場、ハンス・ジマー、既成曲 「ダークナイト」「ジョーカー」「ジョジョラビット」						
	13	映画音楽の著作権。様々なトラブル事例。音楽プロデューサーの仕事。 「ゴジラ」Mの無断使用						
	14	「天国と地獄」フル上映						
15	上映後、前半M無し部分に「ダークナイト」サントラを合わせる実験							
授業外学習	授業で取り上げた映画を可能な限り鑑賞する							
教科書	なし							
主要参考書								
評価方法	全講座終了後のレポート提出(60%)、毎回のリアクションペーパーの内容(20%)、授業への積極的参加姿勢(20%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名				担当者名				
英米文学				大友りお				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	3・4	前期	C3(2×6+3)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	4	前期	C3(2×6+3)	白山
履修条件	テキストの購入							
授業概要	米国の作家レイモンド・カーヴァーの短編小説は村上春樹の翻訳により日本でも広く読まれている。本講では短編集『大聖堂』(Cathedral, 1983)に含まれる12編を読み、そこに描かれる「普通の人の日常」について考え、現代日本社会に生きる自分の日常を見つめ直す。ミニマリズムの巨匠と言われるカーヴァーの文体は、短い文と「普通の言葉」を使って、感情の揺れや人間関係のキビを効果的に描いており、一遍がそれぞれ独立した映像のドラマとして読者に受け取られつつ、全体としてはカーヴァー独自の世界を醸し出している。カーヴァーの作品をオムニバス方式にした映画『ショート・カット』(ロバート・アルトマン、1993)と依存症の困難とそこから脱出を描いた『28デイズ』(ベティ・トーマス、2000)の二作を鑑賞し、カーヴァー作品の読みを深める。							
到達目標	物語を読む力をつけ、自分の創作に役立つ手法を学ぶ。とくに、物語の構成が見えるようになることと、「ふつう」の日常の中にテーマを発見することができるようになる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	講義:作家と作品の背景						
	2	講義:視点の問題						
	3	講義:カーヴァーとミニマリズム						
	4	講義:語り手の問題						
	5	講義:趣向と依存症の差異:映画鑑賞『28デイズ』(ベティ・トーマス、2000)						
	6	講義:アメリカ社会						
	7	講義:作品の中の女性たち						
	8	講義:村上春樹の文学						
	9	講義:アルトマンの映画作品・レビューを読む						
	10	映画鑑賞:『ショートカット』(ロバート・アルトマン、1993)						
	11	「ショートカット」に使用された原作短編を読む						
	12	講義:オーストラリアの表象						
	13	映画鑑賞:『ジンダバイン』(レイ・ローレンス、2006)						
	14	二作品の比較・ディスカッション						
15	講義:課題短編「大聖堂」ディスカッション							
授業外学習	読書(2-3時間)・レポート作成(3時間)							
教科書	レイモンド・カーヴァー著、村上春樹訳『大聖堂』(中央公論新社、2007年) (ISBN-13: 978-4124035025)							
主要参考書	—							
評価方法	毎週の課題(60%)、レポート(40%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
演劇史(物語の原型を探る)					石坂 健治			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	脚本・戯曲など創作の原理に関心のある者、演技者を志す者、映画や演劇の演出に興味を持つ者の参加を望む。 【読替科目】演劇史 I (～2020年度)							
授業概要	映画の大学で演劇史を学ぶことの意味は何か。ずばり、「物語の原型」に数多く接することに尽きる。古くから演じられ、語り継がれてきた物語の数々は、なぜ現代まで色褪せることがないのか。物語の普遍性とは何なのか。それを問うことは、今村昌平の言う「人間とは何と滑稽なものなのか」「総じて人間とは何と面白いものか」を検証することでもある。したがって本講は平坦な通史ではなく、現代の創作にとって重要な「物語の原型」を演劇史の中に見出すことを目標とする。本年度はギリシャ悲劇とシェイクスピアを中心に据え、日本の古典芸能とも比較しながら進めることとする。戯曲を朗読する面白さに目覚めてほしい。							
到達目標	受講生が自ら創作や演技などの表現をおこなう際の「引き出し」が増えて豊かになることをめざす。							
授業計画	回数	内容						
	1	ガイダンス——映画の大学で演劇の歴史を学ぶことの意味を考える						
	2	ギリシャ悲劇(1)——「オイディプス王」「メディア」「エレクトラ」「アンティゴネー」「オレステス」などを取り上げる。主なキーワードは、神、予言、国家、王、民衆、血縁、陰謀、欲望、殺戮、不条理、など。						
	3	ギリシャ悲劇(2)——同						
	4	ギリシャ悲劇(3)——同						
	5	ギリシャ悲劇(4)——同						
	6	ギリシャ悲劇(5)——同						
	7	シェイクスピア(1)——「ハムレット」「リア王」「リチャード三世」「ヘンリー四世」「冬物語」などを取り上げる。キーワードはギリシャ悲劇の項とほぼ重なる。						
	8	シェイクスピア(2)——同						
	9	シェイクスピア(3)——同						
	10	シェイクスピア(4)——同						
	11	シェイクスピア(5)——同						
	12	チェーホフ(1)——「かもめ」「桜の園」「三人姉妹」などを取り上げる。近代演劇の始まりについて考える。						
	13	チェーホフ(2)——同						
	14	チェーホフ(3)——同						
15	まとめ							
授業外学習	シェイクスピア作品などを劇場で観劇することがある。							
教科書	授業時に指示する							
主要参考書	授業時に指示する							
評価方法	期末レポート80%+平常点20%(ただし出席不良の者がレポートだけ提出してもダメ)							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名				担当者名				
哲学				田辺 秋守				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特に履修条件はない。							
授業概要	哲学は、「問い」を立て、議論し、反論を思い描き、その概念が有効なのかを考えてみるという仕方で行なわれる。哲学が主に関心を寄せているのは、「観念」や「概念」を問い直し、理解することである。一方、映画はあたかも「具体の科学」のようであり、映画の中では、あらゆることが視覚化(聴覚化)されている。この授業では、できるだけ映画を使って哲学を具体的に解説したい。本年度のテーマは「感情」や「情動」である。よく「喜怒哀楽」と呼ばれる感情は、非常に具体的で自分のこととして感じている分には、わかりやすいが、いざそれを言語化して理解しようとするとなかなか難しい。その「感情」や「情動」の様々な様態を対象にする。							
到達目標	受講後には、人間の感情をより深い観点から考えられるような地点に立っているようにしたい。							
授業計画	回数	内容						
	1	感情とは何か:「哲学は驚きから始まる」プラトンの感情論						
	2	アリストテレスによる感情の分類:『弁論術』『ニコマコス倫理学』『詩学』から						
	3	デカルトの情念論						
	4	相反する情動が作り出す感情「精神の内的な情動」:『ステラ・ダラス』(1937)						
	5	スピノザの感情論:隷属意志の問題:『エチカ』						
	6	嫉妬の感情の検証:『真珠の耳飾りの少女』(2003)						
	7	アダム・スミスと共感の問題:『道徳感情論』						
	8	ブルースの欠点と美点:『ブルース・オールマイティ』(2003)						
	9	意志の弱さ(アクラシア)の問題:アリストテレス、デイヴィッドソン 自己欺瞞について:サルトル、サール						
	10	『トレイン・スポティング』(1996)とアクラシアの問題						
	11	恐怖という情動:ホラー映画の「恐怖」を考える:ノエル・キャロル『ホラーの哲学』						
	12	感情のタイプに基づくホラー映画の分類						
	13	現代的な諸感情、気分の問題:ボルノウ、ハイデガー、サルトル						
	14	気分の映画としての『気狂いピエロ』(1965)						
15	まとめ/教場レポート							
授業外学習	授業では断片的にしか触れられない著作(オリジナルな著作)を、一編くらいは全部を読むこと。							
教科書	特になし。毎回授業時にプリントを配布する。							
主要参考書	廣松涉他編『岩波哲学・思想事典』(岩波書店)、木田元編『コンサイス20世紀思想事典』(三省堂)、アンドリュー・エドガー他『現代思想芸術事典』(青土社)							
評価方法	教場レポート70% リアクションペーパー20% 受講時の発言10%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映像と美術					藤田 直哉			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(文学・芸術科目群/映画隣接)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	現代の美術は、映像を使った作品が多い。時に映画との境界が曖昧なケースもある。日本映画大学・学校の出身者も活躍しており、たとえばヴェネチア・ビエンナーレにドイツ代表として出品したヒト・シュタイエルは本学出身である。本講義では、現代美術の基礎知識を学び、具体的にどのような実践が行われているのかを学習する。							
到達目標	現代美術の知識を獲得し、映像で出来ることの可能性を理解する。							
授業計画	回数	内容						
	1	イントロダクション						
	2	現代美術入門Ⅰ——視覚的な美ではなく、思考による美へ						
	3	現代美術入門Ⅱ——メディアアート、ビデオアート、ネットアート						
	4	現代美術入門Ⅲ——関係性の美学						
	5	現代美術入門Ⅳ——ソーシャル・エンゲイジドアート						
	6	現代美術入門Ⅴ——60年代						
	7	現代日本での実践Ⅰ——メディアとコミュニティ、宇川直宏						
	8	現代日本での実践Ⅱ——映像とコミュニティ、田中功起						
	9	現代日本での実践Ⅲ——映像と社会批評、トモシ						
	10	現代日本での実践Ⅳ——映像と災害、瀬尾夏美、小森はるか						
	11	現代日本での実践Ⅴ——映像と歴史・記憶、丹羽良徳						
	12	現代日本での実践Ⅵ——映像と社会、岩井優						
	13	理論Ⅰ						
	14	理論Ⅱ						
15	まとめ							
授業外学習	紹介された作品や、展示などを観に行く							
教科書	その都度配布する。							
主要参考書	藤田直哉編『地域アート 美学・制度・日本』(堀ノ内出版、2016年)							
評価方法	積極性(20%)、各回のリアクションペーパー(40%)、レポート(40%)で評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名				
映画で学ぶ歴史と社会 I					関川 夏央				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎	
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山	
履修条件	とくになし。								
授業概要	日本映画は1945年以後の「戦後時代」をどう映し出してきたか。1950年代から1990年代までの作品を実際に見ながら考察する。中間と期末、2回のレポートを課す。								
到達目標	映画作品から「戦後時代」の社会像を知り、「時代を映す」とはどのようなことかを把握する。								
授 業 計 画	回数	内 容							
	1 2	野村芳太郎監督、橋本忍脚本、松本清張原作『張込み』(1957)を見て、当時の世相、長距離移動と地方都市でのロケーション撮影について考える。							
	3 4	1と2のつづき。松本清張の原作小説と野村芳太郎の映画の相違点を検証する。							
	5 6	今村昌平監督・池田一朗脚本『にあんちゃん』(1959)に、石炭産業が凋落する時代相と在日コリアンの少年少女の描き方を見る。							
	7 8	5と6のつづき。『赤い殺意』の部分参考作品としてみて、今村昌平の思想と方法をさぐる。							
	9 10	市川崑監督『東京オリンピック』(脚本・和田夏十、谷川俊太郎、白坂依志夫、市川崑、1965)を見て、そのドキュメンタリーの方法とドラマの思想を読みとる。							
	11 12	9と10のつづき。レニ・リーフェンシュタールのベルリン・オリンピックの記録映画『民族の祭典』(1936)の部分を見て、市川崑作品と比較し、記録映画の演劇性について考察する。							
	13 14	崔洋一監督『月はどこちに出ている』(1993)を見て、1990年代における在日コリアンをはじめとする在日外国人の変貌と、日本社会の変化を検討する。							
	15	13と14のつづき。『月はどこちに出ている』の原作者、脚本家、製作者、出演者について考える。							
	授業外学習	とくになし。							
	教科書	なし。							
	主要参考書	とくになし。							
	評価方法	平常点80%。レポート20%。							
	教員への連絡方法	メール							

科目名		担当者名						
心の健康		伴 恵理子						
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(E群)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	本講義ではGoogle Classroomを活用する。第1回講義で受講に必要な手続きを行うので、必ず出席すること。 【読替科目】精神医学入門(～2018年度)							
授業概要	「心」はどのように確認できるものだろうか。また、「心が健康である(健康でない)」とはどのような状態のことをいうのであろうか。この授業では、こうした問いにこたえるために発展してきた心理学や精神医学等の諸テーマについて概説する。また、グループディスカッションを通じて、講義で得た知識を活用しながら自己理解や他者理解を深めていくための時間を設定する。映画製作はチーム作業であることから、受講者には、本講義を通じて基礎的な知識だけでなく、より良いコミュニケーションやチームワークについて考え、試行錯誤できる力の獲得を期待する。							
到達目標	①「『心が健康である』とはどのような状態のことをいうのか」という問いについて、多様な側面から説明できるようになること ②講義で得た知識を活用して自己理解や他者理解を深め、ストレスマネジメントやより良いコミュニケーションができるようになること ③より良いチームワークのあり方について自分なりに考えつつ、他者と話し合いながら試行錯誤していけるようになること							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイダンス 「心」とはなにか - 目にみえないものを可視化する試みの歴史						
	2	精神医学的分類による「心の病」の理解Ⅰ						
	3	精神医学的分類による「心の病」の理解Ⅱ						
	4	精神医学的分類による「心の病」の理解Ⅲ						
	5	精神医学的分類から「問題行動」をどう理解していくか						
	6	心身の発達とパーソナリティⅠ -生涯発達と学生生活						
	7	心身の発達とパーソナリティⅡ -パーソナリティ理論と自己理解						
	8	ストレスに対処するⅠ -ストレスの理解とセルフモニタリング						
	9	ストレスに対処するⅡ -リラクゼーション・マインドフルネス						
	10	ストレスに対処するⅢ -アンガーマネジメント						
	11	「健康的な対人関係」について考えるⅠ -他者理解・異文化理解とコミュニケーションスキル						
	12	「健康的な対人関係」について考えるⅡ -チームワーク						
	13	「心が不健康であること」に対するスティグマについて考える						
	14	さまざまな相談機関について知る						
15	総括 -学びを活用する							
授業外学習	・自分自身の気分や感情の動き(変化)について意識を向け、その変化にはどのようなことが関係しているのかを考えてみること。 ・配布資料を読み返すだけでなく、関心をもったテーマは積極的に調べ、参考図書にあたること。							
教科書	講義ごとにスライド資料を配布							
主要参考書	講義内で適宜紹介							
評価方法	原則として各講義ごとの小レポートとディスカッション(50%)および全講義終了後に課すレポート(50%)で評価する。							
教員への連絡方法	質問がある場合は大学の事務を通して連絡するか、講義前後に連絡手段を尋ねに来てください。							

科目名					担当者名			
映画で学ぶ歴史と社会Ⅱ(国際情勢－国際紛争、環境問題を読み解く)					熊岡 路矢			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	テーマ【映画で学ぶ歴史と社会(国際情勢) 紛争と環境問題を読み解く】に関わる教科書、参考書、新聞記事、ネットニュースなどの一部でも読んでおくこと。受講学生は、今後のキャリア形成、国際理解分野での問題意識や自身の獲得目標を整理しておくこと。							
授業概要	<p>概要 1)何を教えるのか。：①地球規模課題(紛争、貧困、人権、環境の4大重要課題)についての基本理解。②とくに、現代の国際政治の歪みから生ずる、各紛争および難民問題の構造、原因、現状、解決策について。また地球環境/気候変動と感染症(新型コロナウイルス【COVID-19】感染症の問題)、「食(農・牧畜業)」の安全、原発事故を中心に地球環境問題の基礎理解に関して教える。③紛争解決、環境問題解決における、国連、政府、市民、NGOの役割について教える。</p> <p>2)方法：①書籍、新聞記事のほか、問題解明に役立つ映画・映像(主にドキュメンタリーおよび、一部、ドラマ)を活用する。②現在進行形の紛争と感染症、その構造分析も扱う。新聞(国際面)、報道系週刊誌・月刊誌、TV国際報道ニュース・解説を活用する。③自由に質問を受け、学生の意見表明や議論、ディベートが活発になる環境を醸成する。</p>							
到達目標	一般社会やメディアで扱われる、現代国際社会、国際問題(特に政治と紛争、その他、経済問題、貧困、人権、環境問題など)に対して、関心と批判的理解(リテラシー)をもって、読み取ることが出来るようになる。							
授業計画	回数	内容						
	1	オリエンテーション(はじめに)： 国連用語、地球規模課題(紛争、貧困、人権、環境)とは何か。SDGsとは何か 環境破壊と気候変動(地球温暖化)－その結果としての感染症の蔓延(パンデミック感染爆発)						
	2	1)人類と環境、感染症の歴史： ①人類の歴史と感染症(ペスト、コレラ、スペイン風邪と新型コロナウイルス感染症) * 新型コロナウイルスの正体/2019～2021年の蔓延の経緯・映画『コンテイジョン』解説						
	3	1)人類と環境、感染症の歴史： ②狩猟・採集社会から農業・牧畜社会 * 文化・文明の成立 政治・社会・経済・文化の発展 /現代の新型コロナウイルスと世界での広がり						
	4	* 植物(農作物)・動物(家畜)、寄生虫、細菌、新型コロナウイルスと変異 /国連、政府、市民社会/NGOの役割						
	5	1)人類と環境、感染症の歴史： ③20世紀の感染症(スペイン風邪、HIV/AIDS、SARS、エボラ出血熱、MERS)						
	6	* 新型コロナウイルス感染症(肺炎)の蔓延と経緯。世界、アジア、日本：ワクチン、治療薬 その課題						
	7	2)地球環境問題： ①農・牧畜業の化学化・工業化の問題。脅かされる私たちの「食」の安全 化学的大量生産と大量消費の問題。健康への危険。 * 環境と原発事故						
	8	* 世界の農牧畜業と、食の安全 遺伝子組み換えと食料メジャーの台頭の問題。「水」の危機(汚染、旱魃/砂漠化、管理民営化)						
	9	2)地球環境問題： ①環境破壊と気候変動・地球温暖化 ②環境と原子力発電 ③原発事故						
	10	①スリー・マイルズ原発事故 ②チェルノブイリ原発事故 ③福島原発事故 ④廃炉の問題						
	11	3)国際政治と現代の戦争： ①20世紀という[戦争と映画の世紀]について学ぶ。(二つの世界大戦、冷戦・後、現在の世界へ)						
	12	* 一般市民を巻き込む大量殺りく型戦争の原点としての第一次/第二次世界大戦。中東紛争の基となった「サイクス・ピコ条約」						
	13	3)国際政治と現代の戦争： ②第二次世界大戦後、冷戦構造下における紛争。冷戦構造の終了と、「911」事件						
	14	* 冷戦構造と、「ベトナム戦争」、カンボジア現代政治史・紛争史 冷戦後の「湾岸戦争」と「イラク戦争」、シリア戦争の現在						
15	4)今日の国際情勢、まとめ(過去－現在－未来)。授業内試験実施							
授業外学習	本テーマに関する本、新聞記事、映画、TVプログラム、ネットニュースを通して学ぶこと。必要資料は講義の中で紹介していく。							
教科書	池内惠著『サイクス=ピコ条約 百年の呪縛－中東大混迷を解く』(新潮選書/2016年)、熊岡路矢『戦争の現場で考えた 空爆、占領、難民－カンボジア、ベトナム、イラクまで』(彩流社/2014年)							
主要参考書	石弘之『感染症の世界史』(角川ソフィア文庫/2014年)、岩田専太郎『新型コロナウイルスの真実』(紀伊国屋書店/2020年)、ジャレド・ダイアモンド『銃・病原菌・鉄－一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎』(草思社/2000年)、ユヴァル・ノア・ハラリ『サピエンス全史』(河出書房新社/2014年英語版から)							
評価方法	リアクション・ペーパーを記入・提出し、各自の理解の度合いを評価し、翌週の講義で補足補正する。宿題への応答を評価。期末授業内試験結果(60%) リアクション・ペーパーの内容と受講態度(40%)。【原則、出席率70%以上を評価の対象とする。】							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画流通論 I					石坂 健治、富山 省吾			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	映画業界の多様な仕事に関心のある者の履修をのぞむ。							
授業概要	メインの担当講師2人と、映画業界の第一線で活躍するゲスト3人が登壇する。それぞれが映画界の中でおこなっている仕事を具体的に解説する。たとえば石坂は「東京国際映画祭ディレクター」と「映画批評家」としての仕事、富山は「日本アカデミー賞前事務局長」と「映画プロデューサー」の仕事について語る。多彩なゲストもまた、製作、配給・宣伝、興行の各分野で自身がやっている仕事を語る。それらを通して受講生は、映画界には多種多様な仕事があり、それぞれが重要な役割を果たしていることを知るだろう。新設された「映画ソムリエ・プログラム」の第一歩である。(ゲストは1月末現在のところ未定。各講師の都合により授業計画が前後する場合があります。)							
到達目標	映画の世界には、映画を「つくる」ことだけでなく、映画を「届ける」ことに関する多種多様な仕事があり、それぞれが連携し合って産業を形づくっていることを理解する。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映画プロデューサーとしてやってきたことを語る①(富山、「平成ゴジラ・シリーズ」など)						
	2	映画プロデューサーとしてやってきたことを語る②(富山、「平成ゴジラ・シリーズ」など)						
	3	国際映画祭ディレクターとしてやってきたことを語る①(石坂)						
	4	国際映画祭ディレクターとしてやってきたことを語る②(石坂)						
	5	映画を配給する①【ゲスト講師】映画興行関係者(担当:石坂)						
	6	映画を配給する②【ゲスト講師】映画興行関係者(担当:石坂)						
	7	映画を宣伝する①【ゲスト講師】映画宣伝担当者(担当:石坂)						
	8	映画を宣伝する②【ゲスト講師】映画宣伝担当者(担当:石坂)						
	9	映画館を経営する①【ゲスト講師】映画興行関係者(担当:石坂)						
	10	映画館を経営する②【ゲスト講師】映画興行関係者(担当:石坂)						
	11	日本アカデミー賞を運営する①(富山)						
	12	日本アカデミー賞を運営する②(富山)						
	13	若手監督たちと映画を作る①【ゲスト講師】映画プロデューサー(担当:富山)						
	14	若手監督たちと映画を作る②【ゲスト講師】映画プロデューサー(担当:富山)						
15	まとめ							
授業外学習	映画産業に関係する企業・団体を見学することがある。							
教科書	なし							
主要参考書	中野理恵『すきな映画を仕事にして』(現代書館、2018) 附田斉子『映画の仕事はやめられない』(岩波ジュニア新書、2005)							
評価方法	期末レポート70%+リアクションペーパーなど受講時の熱意30%							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名					担当者名			
社会学					ハン・トンヒョン			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学群/映画隣接)	選択	講義	2	2	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(C群)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	【読替科目】社会学入門(～2018年度)							
授業概要	社会学は、自分自身がかかわる社会事象を正面から扱う学であり、その考え方の基本は「常識をうまく手放す」ことである(佐藤俊樹『社会学の方法』)。自分自身、つまり自己は絶対的なものではなく、他者との関係の中に、自己と他者を含む社会との関係の中に存在する。このように、人は生物学的な存在であることを超えて「社会的な存在」なのであり、社会学が扱うのは、そのようなものとしての人間の連なりからなる「社会」だ。すべての社会事象、社会問題はそこに起因しており、あらゆる芸術やエンタテインメント作品はそのようなものとしての社会学の射程から逃れられない。社会的な視点は、芸術やエンタテインメントにかかわる者にとっておそらく有効な道具となるだろう。本講義は、社会学説の基本を踏まえたうえで有用な概念を身につけ、自らが拠って立つ日本社会の成り立ちに触れることで、それまで見てきた世界(と自分自身)をとらえ直し、よりよく見通せるようになるきっかけを作ることを目指す。							
到達目標	社会学的な視座を獲得するためのきっかけをつかむ。							
授業計画	回数	内容						
	1	ガイダンス・イントロダクション～社会学とは？						
	2	社会とは？～実在するのか、しないのか:デュルケムとウェーバー						
	3	個人と集団:ジンメルほか						
	4	自己と他者:ミードとゴフマン						
	5	ここまでのまとめとディスカッション						
	6	プレゼンテーションと課題						
	7	ネイションとエスニシティ:「〇〇人」であるということ①						
	8	ネイションとエスニシティ:「〇〇人」であるということ②						
	9	セクシュアリティとジェンダー:「性」をめぐって①						
	10	セクシュアリティとジェンダー:「性」をめぐって②						
	11	マイノリティとマジョリティ～アイデンティティと文化①						
	12	マイノリティとマジョリティ～アイデンティティと文化②						
	13	差別はつくられる①						
	14	差別はつくられる②						
15	最終まとめと課題							
授業外学習	未読の配布資料は授業後に必ず読むこと。普段から社会の一員として社会問題に関心を持ち、自分の問題と思うことは違う立場から、他人事に思えることは自分の問題として、考えてみる練習をすること。							
教科書	とくに指定しない。毎回、必要な資料はプリントを配布する。							
主要参考書	デュルケム 『自殺論』(中公文庫) マックス・ヴェーバー 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(岩波文庫) 玉野和志編 『ブリッジブック社会学』(信山社、2008) 出口剛司 『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』(KADOKAWA、2019) 田中宏 『在日外国人 第三版～法の壁、心の溝』(岩波新書、2012) 小熊英二編著 『平成史【完全版】』(河出書房新社、2019) 望月優大 『ふたつの日本——「移民国家」の建前と現実』(講談社現代新書、2019) 塩原良和 『共に生きる——多民族・多文化社会における対話(現代社会学ライブラリー3)』(弘文堂、2012) 森山至貴 『LGBTを読み解く——クィア・スタディーズ入門』(ちくま新書、2017) 加藤秀一 『はじめてのジェンダー論』(有斐閣ストゥディア、2017)							
評価方法	課題60%(必須) + 出席やリアクションペーパーなどの平常点40%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画流通論Ⅱ					石坂 健治			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	専門を問わず、映画産業の全体像を知りたい者に向けて開かれる講義である。事前の心がけとしては、新聞や雑誌の映画広告をこまめにチェックする習慣を身に付け、レンタルDVD店の商品の配置を気に留めるなど、映画にまつわる身の回りの全ての現象に意識的になることが肝要。							
授業概要	映画の流通とは、一本の映画の製作が始まってから観客に届くまでの「作る」「見せる」「見る」という旅のことであり、つまり生産者から卸問屋を経て消費者へと至る道すじのことです。本講では、①映画を作ること(=製作)、②映画を見せること(=配給、上映、複製ソフト、著作権、輸出入、検閲)、③映画を見ること(=鑑賞、批評、研究、ジャーナリズム)、のそれぞれの基本を概説し、映画流通の全体像を把握することをめざします。映画とは「商品」なのか、それとも「作品」なのか。それを考えるための基本レッスンです。							
到達目標	映画業界をひとつの産業としてとらえる視点を持ち、映画流通の全体像を把握することができるようになること。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映画の流通とは何か——いま町の映画館でかかっている特定の映画を例にあげ、その映画が企画立案されてから完成するまでの「旅」を具体的にたどる。						
	2	映画の製作——1本の映画が誕生するプロセス(企画立案、脚本執筆、資金調達、ロケハン、撮影、ポストプロダクション)の流れを把握する。						
	3	映画の輸出——日本映画がはるばる海を越えて外国で上映されるプロセスを学ぶ。						
	4	映画の輸入——外国映画がはるばる海を渡って日本で上映されるプロセスを学ぶ。						
	5	映画の配給・宣伝——前回を受け、配給会社の仕事を理解する。						
	6	同上						
	7	映画の上映——映画館の経営と役割について学ぶ。						
	8	同上						
	9	映画と観客——最新設備の巨大シネコンからアートフィルム専門のミニシアターまで、さまざまな映画館像を総覧する。						
	10	同上						
	11	映画とジャーナリズム——スターのゴシップから国際映画祭の華やかな報道まで、映画ジャーナリズムの歴史と現状を理解する。						
	12	同上						
	13	芸術とビジネス——映画や音楽の分野におけるビジネスの形を考える。(ゲスト講師)						
	14	同上						
15	まとめ							
授業外学習	課外授業(映画マーケット見学)を行うことがある。							
教科書	なし							
主要参考書	佐々木晃彦監修『芸術経営学講座第4巻 映像篇』(東海大学出版会、1994年)(アマゾンまたは図書館)							
評価方法	期末レポート80%+平常点20%。100点満点中60点を合格点とする。(ただし出席不良の者がレポートだけ出してもダメ。)							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名					担当者名			
デジタル映像技術概論					緒方明 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(D群)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特に無し							
授業概要	「映像」という視点から、映画やテレビの技術発展と連動した「静止画(写真)」「動画」に関するデジタル処理の進化の過程に触れ、ITネットワーク環境を含む、現在のデジタル映像環境の基礎知識と基礎用語を解説する。また、デジタルシネマの今後を含み、進行中の最新のデジタル環境の概要についても紹介する。							
到達目標	映像技術の基本用語を理解し、近年の映像技術の変遷について概観がイメージできるようにする。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	詳細は授業開始前までに知らせます。						
	2							
	3							
	4							
	5							
	6							
	7							
	8							
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
15								
授業外学習								
教科書								
主要参考書								
評価方法								
教員への連絡方法								

科目名					担当者名			
映画で学ぶ歴史と社会Ⅲ〈ジェンダーとセクシュアリティ〉					大友りお			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(C群)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	授業に出席し、ディスカッションに積極的に参加する意図がある人							
授業概要	本講の第一目標は、これまで「あたりまえ」だと思っていたことが、実は歴史的に形成されたひとつの視点であったことに気づくことである。大学で身につける教養は、「あたりまえ」にひそむ歴史的な背景とそれに関わる権力の存在を知ること、そしてその上で新たな自分の視点を獲得することだとも言える。ここでは、映画作品の分析を通して、性差の複雑なメカニズムについて一緒に考え、この「あたりまえ」を検証していく。授業は、映画を鑑賞し、ワークシートの質問に答え、それをもとに意見交換をする。講義では第三の波と呼ばれるフェミニストたちが到達したクイア理論と、その過程に大きく関わったミッシェル・フーコーの思想を中心に、身体、欲望、他者、表象などについて分かりやすく解説していく。							
到達目標	受講後学生は、文学テキスト、広告、映像メディアを通して表現されるすべての物語を、性差の局面から分析することができるようになり、自分自身の生き方と創作にそれを反映させる。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	映画『ミルク』に見る1970年代のアメリカ:同性の身体を欲望するということ						
	2	ワークシートとディスカッション:ドキュメンタリーとドラマの間で何が起こるか						
	3	講義:ミッシェル・フーコー『性の歴史』解説:アイデンティティとしてのホモセクシュアリティ						
	4	映画『ハッシュ』に見る結婚しない女性の身体						
	5	ワークシートとディスカッション:日本の「家」制度と家族関係の変化						
	6	講義:女性の欲望の表象について:『ガールフレンド』と『砂の女』を通して						
	7	映画『プリシラ』に見る性差をパフォーマンスする身体						
	8	ワークシートとディスカッション:異性装、自己の性認識、そして同性愛と異性愛						
	9	講義:過剰なフェミニニティとマスキュリニティの行方						
	10	映画『ビューティフル・ランドレット』に見る移民と階級のクイアな空間						
	11	ワークシートとディスカッション:異性愛を脱構築する映画						
	12	講義:「他者は誰か、他者の身体は自分にとって重要か」という問いについて						
	13	校外学習「アクティヴミュージアム:女たちの戦争と平和資料館」訪問						
	14	ゲスト講師による特別講義『日本軍慰安婦の問題を考える』						
15	ドキュメンタリー鑑賞とディスカッション							
授業外学習	毎週の課題ワークシートやレポートを書く							
教科書	なし							
主要参考書	授業内で提示							
評価方法	毎週の提出物(60%) 最終レポート(40%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画と法					石坂 健治 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科目群/映画隣接)	選択	講義	2	3・4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	「映画ソムリエ・プログラム」の取得を目指す者は必ず履修すること							
授業概要	<p>法治国家である以上、映画を含むアート、エンターテインメントの世界もまた法のもとにある。本講では複数のゲスト講師による多角的な視点から、映画の流通に関わるさまざまな法＝理念とその実行＝現場について考える。キーワードは「芸術と法」「表現の自由」「映画流通の利益と不利益」「エンタメ産業の保護」など。あいちトリエンナーレ、KAWASAKIしんゆり映画祭、アップリンク訴訟、ミニシアター・エイド基金、SAVE the CINEMA運動など、最近話題になった事象にも関心を持って授業に臨んでほしい。</p>							
到達目標	①映画にまつわる法とその理念を学び、②それを踏まえて映画上映の現場をいかに充実したものにするか、各自が理解することをめざす。							
授 業 計 画	回数	内容						
	1	映画ソフトと著作権 ゲスト講師 映画・映像ソフトと著作権について基本的な解説をします。						
	2							
	3	映画上映と法 石坂健治教授 映画上映と法律について基本的な解説をします。						
	4							
	5	ハリウッドと法 ゲスト講師 ハリウッドと法律と事件と裁判について映画史的に概説します。						
	6							
	7	芸術と法をめぐるトラブルを振り返る ゲスト講師 近年の芸術祭などで起こったことと表現の自由の問題を取り上げます。						
	8							
	9	芸術と法をめぐるトラブルを振り返る(続) ゲスト講師 同上						
	10							
	11	文化芸術基本法と劇場法 ゲスト講師 文化芸術基本法と劇場法について解説します。						
	12							
	13	映画と法のまとめ ゲスト講師 地域の映画祭や美術館の視座から芸術と法の問題を考えます。						
	14							
15	映画と法のまとめ(続) ゲスト講師 同上							
授業外学習	各講師が取り上げるテーマについて事前に調べておくこと。							
教科書	特になし							
主要参考書	必要に応じて教場で知らせます。							
評価方法	期末レポート(80%)＋授業への取り組み(20%)を総合的に評価する。(ただし出席せずにレポートだけ出してもダメ。)							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名					担当者名			
映画で学ぶ歴史と社会Ⅳ〈ネイションとエスニシティ〉					ハン・トンヒョン			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(A群)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	—							
授業概要	<p>「誰々が〇〇人だ」という場合、それはどのようにして決まるのか。国籍？血筋？生まれ育った場所？身につけている文化—？</p> <p>「〇〇人であること」はこれらの組み合わせや取捨選択によってできており、それは時代や場所によって変わる。思われているほど自明でも強固でもないのに、自明で強固だと思われがち「〇〇人であるということ」——エスニシティやネイション(日本語だと民族(性)や国民に当たる)——について、映画作品を題材に、主にそのボーダー上にいる人びとに焦点を当てつつ考える。</p>							
到達目標	「(自他ともに)人々の拠り所」としての国や民族を相対化する視座を持つためのきっかけをつかむこと。							
授業計画	回数	内容						
	1	ネイションとエスニシティ						
	2	『あんにょんキムチ』(松江哲明監督、1999年)						
	3	近代国民国家の成立と植民地支配						
	4	『愛と誓ひ』(今井正・崔寅奎監督、1945年)、『忘れられた皇軍』(大島渚監督、1963年)						
	5	移民社会としての戦後日本の歩み						
	6	『月はどっちに出ている』(崔洋一監督、1993年)、『スワロウテイル』(岩井俊二監督、1996年)						
	7	先住民とは誰か						
	8	『サーミの血』(スウェーデン・デンマーク・ノルウェー、アマンダ・ケンネル監督、2016年)						
	9	アイデンティティと表現～日本映画のなかの「在日」						
	10	『青～chong～』(李相日監督、1999年)						
	11	排外主義とレイシズム						
	12	『This is England』(英、シェーン・メドウス監督、2006年)						
	13	移民・難民と向き合う						
	14	『希望のかなた』(フィンランド、アキ・カウリスマキ監督、2017年)、『歓待』(深田晃司監督、2010年)						
15	まとめ							
授業外学習	配布資料には必ず目を通すこと。課題が宿題として出た際は必ず次回までやってくる(評価にかかわる)。欠席した回の課題についても同様。授業内容と関連する社会問題に関心を持ち、学んだことを応用して考えてみる。							
教科書	とくに指定しない。毎回、必要な資料はプリントを配布する。							
主要参考文献	<p>松江哲明 『あんにょんキムチ』(汐文社、2000)</p> <p>徐京植 『在日朝鮮人ってどんなひと?』(平凡社、2012)</p> <p>水野直樹・文京洙 『在日朝鮮人——歴史と現在』(岩波新書、2015)</p> <p>田中宏 『在日外国人 第三版～法の壁、心の溝』(岩波新書、2013)</p> <p>小熊英二編著 『平成史【完全版】』(河出書房新社、2019)</p> <p>與那覇潤 『日本人はなぜ存在するか』(集英社インターナショナル、2013)</p> <p>糟谷憲一・並木真人・林雄介 『朝鮮現代史』(山川出版社、2016)</p> <p>加藤陽子 『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』(朝日出版社、2009)</p> <p>崔盛旭 『今井正—戦時と戦後のあいだ』(クレイン、2013)</p> <p>北田暁大・神野真吾・竹田恵子(社会の芸術フォーラム運営委員会)編 『社会の芸術／芸術という社会——社会とアートの関係、その再創造に向けて』(フィルムアート社、2016)</p> <p>塩原良和 『共に生きる——多民族・多文化社会における対話(現代社会学ライブラリー3)』(弘文堂、2012)</p> <p>安田浩一 『ネットと愛国——「在特会」の闇を追いかけて』(講談社、2012)</p> <p>師岡康子 『ヘイトスピーチとは何か』(岩波新書、2013)</p> <p>野間易通 『「在日特権」の虚構——ネット空間が生み出したヘイト・スピーチ』(河出書房新社、2013)</p> <p>望月優大 『ふたつの日本——「移民国家」の建前と現実』(講談社現代新書、2019)</p>							
評価方法	2回の課題(必須)60%+出席とリアクションペーパーなど平常点40%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画で学ぶ歴史と社会Ⅴ(現代思想)					大澤 信亮			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	3・4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	とくになし。							
授業概要	本講義の目的は、芸術と社会の結びつきを広範かつ批評的に考えることで、鋭い問題意識を持った創作者を育てることである。創作者に必要なことは、現代社会において何が問うに値する問題であるのかを理解し、その問題意識をもって「現在」から脱出する知性である。この講義では、劇映画、ドキュメンタリー、アニメーション、それぞれのジャンルにおける近年の注目作、現在の時事・事象を考えるとときに参照すべき映画、近年話題になっている思想にかかわる映画などを考察する。さらに過去の卒業制作を検討することで、身近なところから問題意識を発見する。(以下の授業計画は変更する場合がある。その場合は履修登録までに確定シラバスを掲示する。また、講義で扱う作品にはホラーが含まれる可能性もある。受講者はそれを理解した上で履修すること)							
到達目標	現代における様々な問題を、思想・哲学的に理解し、議論できる力を身に付ける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	濱口竜介『PASSION』から現在の劇映画について考える						
	2	現代劇映画における「演出」について、構成された空間を切り裂く「現実」						
	3	平野勝之『監督失格』から現在のドキュメンタリー映画について考える						
	4	セルフ・ドキュメンタリーと「リアル」の行方、人が死ぬところを撮るといこと						
	5	新房昭之『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ 新編 叛逆の物語』から現在のアニメーション映画について考える						
	6	二次創作、美少女ゲームと少女消費、魔法少女、現代日本アニメーションにおける「神」の位置						
	7	イングマール・ベルイマン『第七の封印』から人類の試練について考える						
	8	巨匠の古典的名作、キリスト教、福音書、十字軍、ペスト、魔女裁判、チェスゲーム、「死」の表象						
	9	高橋洋『霊的ポリシェビキ』から「魔」を呼び出す装置としての映画について考える						
	10	ホラー、百物語、神隠し、取り替え子、霊的革命						
	11	卒業制作作品の検討1 演出コース						
	12	各作品の構造、主題、方法などを、受講者自身の身近な問題意識から考える						
	13	卒業制作作品の検討2 ドキュメンタリーコース						
	14	各作品の構造、主題、方法などを、受講者自身の身近な問題意識から考える						
15	総評——現代思想をいかに使うか							
授業外学習	『劇場版 魔法少女まどか☆マギカ 前編 始まりの物語、後編 永遠の物語』を予め自分で観ておくこと。							
教科書	とくになし。							
主要参考書	とくになし。							
評価方法	各回のリアクションペーパーの平均。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画で学ぶ歴史と社会VI〈地域の文化と社会を映像で記録する〉					今井 友樹			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(歴史・社会科学科目群/映画)	選択	講義	2	4	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	特になし。							
授業概要	本講は、国内外のお祭りや芸能、農山村漁村の生活文化などの映像記録、いわゆる「民俗の映像記録(映像民俗学)」の世界を取り上げる。目的は「民俗の映像記録」の意義・目的を理解し、基礎的な制作ノウハウを習得することにある。関連作品や講義担当者が制作した作品をテキストに、表現方法などを分析・解説していく。映画は、劇映画とドキュメンタリーだけではない。その影に埋もれている「民俗の映像記録」に、まず触れて欲しい。多様な視点と発想を発見できるはずだ。そして、ぜひ受講者の想像力に役立てて欲しい。							
到達目標	地域の文化と社会を映像で記録することの基礎理解とノウハウが習得できる。							
授業計画	回数	内容						
	1	「民俗の映像記録」概説①——民俗における記録と表現は拮抗する。						
	2	『遙かなる記録者への道 姫田忠義と映像民俗学』を鑑賞。民族文化映像研究所の試みから、「民俗の映像記録」の意義を考察する。						
	3	「民俗の映像記録」概説②——無形の民俗文化財の種類と目的。映像記録の特性と限界、メリットとデメリットについて。						
	4	国内の民俗文化財の保護の歴史と映像記録の変遷、いま求められている映像記録のあり方を、映像を鑑賞しながら解説する。						
	5	「民俗の映像記録」制作工程——企画から完成・活用まで制作工程と手法について。						
	6	講義担当者が制作した作品をテキストに、苦労話や失敗談を交えて解説。映像記録の課題をいかに克服するかを考察する。						
	7	民俗と芸術性——映像記録と芸術表現の関係性について。						
	8	放浪の俳人・井月を描いた北村皆雄監督の『ほかいびと』。民俗事象が作品に何をもたらしたのかを検証する。						
	9	自然利用と破壊①——当たり前だった体験や記憶も時代によって解釈が変容する。拮抗する諸問題について。						
	10	禁止された霞網猟を“生活文化”として描いた『鳥の道を越えて』と、“環境犯罪”として描いた作品を比較検証する。						
	11	自然利用と破壊②——「民俗の映像記録」は誰のためにあり、何と向き合っているのか。撮る側、撮られる側の関係性について。						
	12	姫田忠義監督の『越後奥三面』。ダムに沈む集落を目の前に、記録者・姫田とスタッフは何を記録したのか。						
	13	「映像人類学」紹介——ビデオカメラを持った研究者たちのフィールドワークと眼差しを通して、映像表現の可能性を探求する。						
	14	アーカイブの活用——作品と撮影素材の資料価値、いかに活用されるのか。さまざまな試みと事例を紹介する。						
15	まとめ							
授業外学習	映像民俗学や映像人類学の鑑賞を課題として課すことがある。							
教科書	適宜、コピーを配布する。							
主要参考書	姫田忠義『忘れられた日本の文化 撮り続けて30年』、北村皆雄・新井一寛・川瀬慈『見る、撮る、魅せるアジア・アフリカ 映像人類学の新天地』、俵木悟『文化財／文化遺産としての民俗芸能 無形文化遺産時代の研究と保護』							
評価方法	リアクションペーパー60%、レポート40%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
異文化コミュニケーション					守内 映子			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2021～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	異文化に興味があり、コミュニケーションスキルを高めたい人(留学生の場合はN1レベル相当)。							
授業概要	異文化コミュニケーションを身近なものとしてとらえ、文化背景の異なる者同士によるコミュニケーションが円滑に進むための知識とスキルを身に付けるトレーニングを行う。具体的には、自発学習型のワークブックを使用しながらエクササイズを通して、自分で考えメッセージを発信していく作業に取り組む。同時に、異文化コミュニケーションにおいて重要となる基礎概念を学ぶ。クラスのサイズや状況に応じて、エクササイズや講義内容を調整しながら実施していく。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文化背景の異なる人への開かれた心と態度が持てるようになる。 ・コミュニケーション活動に対して積極的な参加行動が取れるようになる。 ・自文化および多文化に関する情報を学習し、異文化コミュニケーションに必要な基礎概念を身に付ける。 							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	異文化コミュニケーションを学ぶということ エクササイズ「文化って何だろう」「見える文化と見えない文化」						
	2	『文化』についての基本概念 エクササイズ「カルチャーショック」						
	3	異文化適応のプロセス エクササイズ「ステレオタイプ」「価値観の違い」						
	4	異文化コミュニケーションの障壁 課題①「間のとり方と話し手の交代」						
	5	言語コミュニケーションー言語の意味 エクササイズ「文脈の重要性」						
	6	言語コミュニケーションーコンテキスト エクササイズ「集団主義と個人主義」						
	7	映画に見る異文化コミュニケーション(映画上映) 課題②						
	8	非言語コミュニケーションー非言語メッセージと比較文化						
	9	エクササイズ「異文化に慣れる」「差異を楽しむ」						
	10	自己とアイデンティティ エクササイズ「外国語の学習」						
	11	エクササイズ「聞く力と伝える力」「交渉する力」						
	12	対人コミュニケーションー文化と対人関係、異文化の対人関係						
	13	映画に見る異文化コミュニケーション(映画上映) 課題③						
	14	ゲスト講義『国際理解とは何か』						
15	授業内試験と振り返り 異文化コミュニケーション・セルフチェック							
授業外学習	配布資料(コラム、ケース)を読んで理解する。							
教科書	中村良廣著『自発学習型異文化コミュニケーション入門ワークブック』(松柏社、2017年再版)1800円+税							
主要参考書	石井敏、久米昭元、長谷川典子、桜井俊行、石黒武人共著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーションー多文化共生と平和構築に向けて』(有斐閣、2020年再版)2000円+税							
評価方法	ワークブック評価(50%)、課題評価(30%)、期末評価(20%)、出席は全体の三分の二(10コマ)以上必要							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
英語 I					ミッシェル・ファン・ボクホースト			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	英検2級程度の英語力を持っていること。履修登録の前に自己採点テスト(10分)を受けて合格点以上であること。							
授業概要	この授業では、英文法の基本を理解した上で、容易な英語が抵抗なく読め、聞き取れるようになることと積極的に英語を使えるようになることを目標とする。現代英語を扱ったテキストを使用し、英文読解とリスニング演習を毎週行っていく。それによって英文法や英語表現の知識を増強し、高校までに身につけた英語力のさらなる強化を目指す。また、時間が許す限りグループディスカッションやロールプレイングゲームを通して会話能力も上がることを目指す。最後に、TOEICでのスコアアップに直結する問題演習も一部取り入れる。毎週の小テストと授業内で行う最終テストで成績を評価する。							
到達目標	学生は英語を「教えてもらう」のではなく、「自分で学ぶ」視点と態度を獲得し、今後の自己学習を可能にする方法を探る。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価方法の説明、基礎力の確認)						
	2	Chapter 1 (『クレイマー、クレイマー』に関する英文の読解とリスニング、文法演習)						
	3	Chapter 2 (『ブラダを着た悪魔』に関する英文の読解とリスニング、文法演習)						
	4	Chapter 3 (『スーパーサイズ・ミー』に関する英文の読解とリスニング、文法演習)						
	5	Chapter 4 (『かもめ食堂』に関する英文の読解とリスニング、文法演習)						
	6	Chapter 5 (『初恋のきた道』に関する英文の読解とリスニング、文法演習)						
	7	Chapter 6 (『ノッティングヒルの恋人』に関する英文の読解とリスニング、文法演習)						
	8	Chapter 7 (『幸せのレシピ』に関する英文の読解とリスニング、文法演習)						
	9	Chapter 8 (『Dear フランキー』に関する英文の読解とリスニング、文法演習)						
	10	Chapter 9 (『シービスケット』に関する英文の読解とリスニング、文法演習)						
	11	Chapter 10 (『チャーリーとチョコレート工場』に関する英文の読解とリスニング、文法演習)						
	12	Chapter 11 (『みんな元気』に関する英文の読解とリスニング、文法演習)						
	13	Chapter 12 (『西の魔女が死んだ』に関する英文の読解とリスニング、文法演習)						
	14	TOEIC対策問題演習(プリント教材を使用)						
15	まとめ、授業内最終テスト							
授業外学習	次週に読解する英文を読み、わからない単語を辞書で調べ、練習問題を解いておく(予習は2時間以上必要)。授業で学んだ単語と文法を復習し、小テストに備える。なお、授業には英和辞典もしくは英英辞典を必ず持参のこと。							
教科書	『A Flavor of English: Cinema and Cuisine』(朝日出版社、2015年) (ISBN978-4-255-15559-3)							
主要参考書	特に無し							
評価方法	小テスト(30%) 授業内最終テスト(70%) 出席が10コマに満たない者は最終テストの受験資格を失う。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名				
日本語 I					大友りお、守内 映子、山口 紀子、晏 妮(アンニ)				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎	
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	演習	2	1	前期	F(その他)	白山	
履修条件	100%の出席率を保つこと。欠席の場合は事前に教員にメール連絡をし、次週までの課題を受け取ること。日本語を母語としない学生は必ず履修すること。								
授業概要	この授業では、4名の教員が4技能に分かれて指導する。学生は週に4時限の授業を受け、それを7週くり返す。これによって、学生は自分の弱点を知り、それを克服するためには、これから何をしなければならないかを自分で発見することができる。また、自分ひとりで日本語を学ぶのではなく、他の人と助け合いながら学ぶことを体験する。教員は、そのために必要な言葉と行動を学生が獲得できるよう指導する。基本的に週4時限(水曜4・5限+木曜2・3限)のワークショップを少人数で受講する。最終日は期末テスト。								
到達目標	映画に関する語彙を学び、協働で作品を制作するために必要なコミュニケーションの技術を身につける。								
授 業 計 画	回数	内 容							
	1	各回の内容							
	2	〈第1回〉 読む、話す、聴く、書く	【読む】 担当:守内映子					ショートストーリーを読み、漢字の読みかた、物語の内容についてディスカッションし、それについてグループ発表をする。また、個別面談を行い、今後の日本語学習計画を立てる。使用教材は、星新一作品など。	
	3								
	4								
	5	〈第2回〉 読む、話す、聴く、書く	【話す】 担当:大友りお					相手が話せる環境を作る会話技術、言葉づかい、視線、うなづきなどについて練習する。短い会話文を暗記して、3人ひと組で一場面を演じるパフォーマンスをし、他のグループの演技についても意見を言う。発音の問題点を見つけて直す。擬態語の語彙を広げる。	
	6								
	7								
	8	〈第3回〉 読む、話す、聴く、書く	【聴く】 担当:晏 妮(アンニ)					日本映画の主要な作品についての講義を聴きとる。ジャンルごとに、重要な映画のタイトルや監督名などが言えるようになる。それぞれの作品の背景についても学ぶ。映画について語るための語彙を広げる。教科書を使用。	
	9								
	10								
	11	〈第4回〉 読む、話す、聴く、書く	【書く】 担当:山口紀子					大学に必要な、様々な形式の文章が書けるようになることを目標とする。失礼にならないEメールの書き方、大学で書くレポートの書き方、などを学び、実際にコンピュータで文を書く練習をする。パソコンを持参。	
	12								
	13								
	14	〈第5回〉 読む、話す、聴く、書く							
	15								
	16								
	17	〈第6回〉 読む、話す、聴く、書く							
	18								
	19								
	20	〈第7回〉 読む、話す、聴く、書く							
	21								
	22								
	23								
	24								
	25								
	26								
	27								
	28								
	29	授業内テストとふりかえり							
30									
授業外学習	書く(2時間)・読む(2時間)								
教科書	平野共余子 著 『日本の映画史:10のテーマ』(くろしお出版、2014年) 教室内配布プリント								
主要参考書	特になし								
評価方法	4技能クラス別の授業内評価(合計100%)+筆記試験(100%)の平均点								
教員への連絡方法	メール								

科目名					担当者名			
中国語					劉書明			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	前期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	中国語学習初心者(中国人留学生は履修不可)。							
授業概要	本講座は、初めて中国語に接する初心者を対象に、中国語の基礎知識を教えると同時、今後、中国人と交流をはかる際に参考にできることを目的とする。発音、文法、文型、文字(略字)を始め、基本会話を中心に行う。							
到達目標	受講者が本講座を通して、中国語の基本知識、中国語とは、中国語の発音とは、中国語の文法とはについて勉強し、今後独学が出来る技術を身につける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	授業内容、進行方法等の概説						
	2	第1回 発音①						
	3	第2回 第1課 御名前は？						
	4	第3回 練習、復習						
	5	第4回 第2課 これは何ですか？						
	6	第5回 練習、復習						
	7	第6回 第3課 どこへ行きますか？						
	8	第7回 練習、復習						
	9	第8回 第4課 これはいくらですか？						
	10	第9回 練習、復習						
	11	第10回 第5課 ご飯食べましたか？						
	12	第11回 練習、復習						
	13	第12回 第6課 夕方に時間がありますか？						
	14	第13回 総合復習						
15	小テスト							
授業外学習	—							
教科書	「中国語はじめの一步」白水社(2200円)							
主要参考書	日中辞典、中日辞典 小学館							
評価方法	平常点60%、定期試験30%、その他10%							
教員への連絡方法	授業内で知らせる。							

科目名					担当者名			
文章作法					大友 りお、守内 映子			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	1	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	大学レポートの基礎力を身につけたい人、またはスキルアップしたい人。日本語が母語の人。							
授業概要	大学で書くレポートの文体は高校までの作文とは大きく異なるため、初めは違和感も持つ人が多い。自分自身の言葉だと思えないからだろう。しかし、その特殊で非日常的に見える文章の作法を学び、それを自在に使えるようになった学生は、そこですでに、独立した思想の持ち主として社会に出て行く準備ができる。この授業は、表現力を競う場ではなく、冷静な思考と判断で文を書き、メッセージを読む人に正確に伝えるスキルを身につける道場である。全員がレポート・ライティングの黒帯になることを目指して授業を進める。							
到達目標	客観的で明確な文体の作法を体得し、その技法を基礎に、さらに広いジャンルの文章へ向かっていく力がつくことを目標とする。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	トピック「地球温暖化」: グレタ・トゥーンベリの国連スピーチ(ビデオで見る、原稿1600字を読む、文の構成を分析する)						
	2	400字レポートチャレンジ課題1「誰が何の目的でどういうスピーチをしたか。スピーチの内容を要約して読み手に伝える」						
	3	トピック「地球温暖化」: アル・ゴア『不都合な真実』『われわれの選択』(ビデオで見る、原稿を読む、文の構成を分析する)						
	4	400字レポートチャレンジ課題2「書き手が伝えたいこと」→要点をまとめる						
	5	トピック「コロナ後の社会と職業」: AI時代に生き残る職業と消える職業 (資料を読み、ビデオを見て、メモをとる)						
	6	パンデミックによって変わる社会と職業 (資料を読み、ビデオを見て、論点を見つける)						
	7	職業についての800字レポートのアウトライン→パラグラフ→自分の結論						
	8	職業についての800字レポート課題3→自分の質問を発見する						
	9	トピック「芸術と表現の自由」: 「表現の不自由展」「しんゆり映画祭」「ヘイトスピーチと法律」複数の視点を理解する						
	10	自分のトピックを探して、アウトラインを書く						
	11	800-1200字の小論文を書く(パソコンを持参してタイプする)						
	12	800-1200字の小論文を書く(パソコンを持参してタイプする)						
	13	ピアレビュー: 他人の論文を読み、コメントを入れる作業をする課題4						
	14	コメントをもとに書き直して提出する期末レポート課題5						
15	提出されたレポートに対するフィードバック							
授業外学習	毎週3時間							
教科書	配付テキストを使用する。							
主要参考書	『大学生のための論文・レポートの論理的な書き方』渡邊淳子 著 研究社 2015年 (ISBN-13: 978-4327384708) 『小論文を学ぶ・知の構築のために』長尾達也 著 山川出版社 2018年 (ISBN-978-4-634-07110-0)							
評価方法	授業内提出課題(60%) 期末レポート(40%) 出席が2/3に満たない者は期末レポートの提出不可。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
国際合同制作〈日韓合同映画制作〉					天願 大介 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画)	選択	演習	4	1・2・3・4	通年	F(その他)	新百合・外部
履修条件	事前の知識はとりあえず必要とされない。							
授業概要	<p>日本映画大学の学生と韓国国立芸術総合学校の学生が交互に監督を出し、共同で短編作品を制作する。撮影は日本と韓国で交互に行われる。日本で撮影する脚本は韓国側が選んだものから日本側が決定する。監督は韓国、撮影技師、録音技師、主要スタッフは日本、仕上げは韓国で行う。主演俳優は韓国。翌年はそれが逆になる。この授業は日本で撮影する場合のもので、準備と現場のみ、隔年開講となる。</p> <p>※2021年度は休講</p>							
到達目標	学生時代に合作を経験する。異文化に触れ、映画制作がドメスティックなものでないことを体験する。							
授業計画	内 容							
	<p>(1) 決定した脚本をもとにスタッフを編成し、ロケハン、キャストイング、諸準備を行う。</p> <p>(2) 韓国チーム来日。顔合わせ。脚本打ち合わせ。オーディション等。</p> <p>(3) 韓国チームが帰国している間、諸準備を進める。</p> <p>(4) 韓国チーム再来日(クランクアップまで)。ロケハン、キャストイング等最終決定。</p> <p>(5) クランクイン～クランクアップ。</p>							
授業外学習	韓国文化に触れておくこと。韓国映画を見ておくこと。							
教科書	特になし。							
主要参考書	授業の中で提示。							
評価方法	①制作期間の出欠及びその姿勢、②出席と各課題の提出 ①と②をもとに総合的に評価							
教員への連絡方法	大学の事務を通じて連絡をとること							

科目名					担当者名			
日本語Ⅱ (Aクラス)					守内 映子			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	日本語力を磨きたいと考えており、担当教員からAクラスの受講を指定された者。							
授業概要	本授業は、すでに蓄積されている学習者の日本語の知識と本来備わっている言語運用以外の知識を融合しながら、タスクを通してその運用力を磨いていくものである。具体的には、個人やグループによる協働学習を通して、読解・聴解・文章表現にわたる分野を総合的に取り扱い、日本語N1レベルやBJTにも対応できる練習を繰り返す。そして、学び・気づき・考えたことを可視化しながら、よりレベルの高い日本語で表現していく。							
到達目標	系やコースに進んでから、また、将来の進路に向けて、自分の言葉で語り伝え動けるような日本語力を身に着ける。							
授 業 計 画	回数	内容						
	1	授業オリエンテーション、自分を紹介する、「感じる」を言葉にするワーク						
	2	基本編「感じる」「考えるを」体験する－絵を読む						
	3	基本編「感じる」「考えるを」体験する－詩を描く						
	4	初級編「感じる」「考えるを」体験する－映画をみる(1)						
	5	初級編「感じる」「考えるを」体験する－映画をみる(2)						
	6	初級編「考える」を広げる－防災マニュアルをつくる						
	7	中級編「考えた」を伝える－ニュースを伝える(1)						
	8	中級編「考えた」を伝える－ニュースを伝える(2)						
	9	中級編「考えた」を伝える－紹介動画を制作する(1)						
	10	中級編「考えた」を伝える－紹介動画を制作する(2)						
	11	上級編「ゼロからつくり生み出す」－新キャラを生み出す(1)						
	12	上級編「ゼロからつくり生み出す」－新キャラを生み出す(2)						
	13	発展編「むずかしいをわかりやすく伝える」－専門分野をわかりやすく説明する(1)						
	14	発展編「むずかしいをわかりやすく伝える」－専門分野をわかりやすく説明する(2)						
15	授業内試験と振り返り							
授業外学習	書く、タスクの作成(2、3時間)							
教科書	後藤倫子著『思考力を育てる発表プロジェクト』(凡人者出版、2019年) 2,000円＋税							
主要参考書	得丸さと子著『TAEによる文章表現ワークブック』(図書文化出版、2010年第2刷) 2,200円＋税							
評価方法	授業内タスク評価(50%)、課題評価(30%)、期末評価(20%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
日本語Ⅱ (Bクラス)					守内 映子			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	日本語力の充足を望み、なおかつ担当教員からBクラスの受講を指定された者。							
授業概要	本授業は、学習者の日本語の知識の蓄積を促し、本来備わっている言語運用以外の知識を融合させる。そのために必要なタスクを通して、言語運用力を鍛えていくものである。具体的には、個人やグループによる協働学習を通して、読解・聴解・文章表現にわたる分野を総合的に取り扱い、日本語N1レベルに近づけるように練習を繰り返す。そして、学び・気づき・考えたことを可視化できる日本語表現力を身に着ける。							
到達目標	系やコースに進んでから、自分の言葉で語り伝え動けるような日本語力を身に着けるための語彙や表現をできるだけ増やす。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	授業オリエンテーション、自分を紹介する、感じるを言葉にするミニワーク						
	2	ウォーミングアップ編「紹介する」－偉人を紹介する						
	3	基本編「感じる」「考えるを」体験する－絵を読む						
	4	基本編「感じる」「考えるを」体験する－詩を描く						
	5	基本編「感じる」「考えるを」体験する－映画をみる(1)						
	6	基本編「感じる」「考えるを」体験する－映画をみる(2)						
	7	初級編「考える」を広げる－日程表をつくる(基礎)						
	8	初級編「考える」を広げる－日程表をつくる(応用)						
	9	中級編「考えた」を伝える－ニュースを伝える(1)						
	10	中級編「考えた」を伝える－ニュースを伝える(2)						
	11	中級編「考えた」を伝える－紹介動画を制作する(1)						
	12	中級編「考えた」を伝える－紹介動画を制作する(2)						
	13	上級編「ゼロからつくり生み出す－商品を売り込む(1)						
	14	上級編「ゼロからつくり生み出す－商品を売り込む(2)						
15	授業内試験と振り返り							
授業外学習	書く、タスクの作成(3、4時間)							
教科書	後藤倫子著『思考力を育てる発表プロジェクト』(凡人者出版、2019年) 2,000円＋税							
主要参考書	得丸さと子著『TAEによる文章表現ワークブック』(図書文化出版、2010年第2刷) 2,200円＋税							
評価方法	授業内タスク評価(50%)、課題評価(30%)、期末評価(20%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名				担当者名				
英語Ⅱ				大友りお				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(B群)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	英検2級程度の英語力を持っていること。履修登録の前に自己採点テスト(10分)を受けて合格点以上であること。							
授業概要	単語の意味を記憶するだけでは文を作ることはできない。この授業では、文の成り立ちをパターン化したテキストを使用して、短い文を暗唱し、それぞれの構成が自然に言葉になって出てくるようにトレーニングを繰り返す。伝わる発音と抑揚に焦点を当てて個別に改善する。ネイティブ話者のように話せることがゴールではなく、相手が聞き取れるように話すことを目標とし、自分の英語を発見させる。自身の持つ目標(短期留学や仕事のための英語力)に近づくための自主トレの習慣が身につくよう指導する。(感染症対策下では、会話を控えて、聞くスキルに焦点をおく)							
到達目標	知っている英単語を会話の中で使いこなせるようになる。							
授業計画	回数	内容						
	1	Section 1-5 一般動詞とBe動詞、現在形のバリエーション						
	2	Section 6-10 There, It, Have, の使い方、						
	3	Section 11-15 現在進行形、過去形						
	4	Section 16-20 今決めた未来と既に決めていた未来、助動詞						
	5	Section 21-25 便利な助動詞、丁寧な助動詞、疑問詞、What、Which、Why						
	6	Section 26-30 疑問詞 When、Where、How、提案 Let's、受動態、Getの使い方						
	7	Section 31-36 名詞のいろいろ、代名詞のいろいろ、Many、Much、Some、Any						
	8	Section 37-40 多い、少ない、あまりない、NoとNone、EveryとEach						
	9	Section 41-46 前置詞 時間、空間 On、In、At、For、During、While、By						
	10	Section 47-50 前置詞 手段、動き、締め切り						
	11	Section 51-55 形容詞 ing、ed、比較級、「させる」使役表現						
	12	その他の特殊な時制表現練習						
	13	グループ発表 (ショート・スクリプトを演じる)						
	14	グループ発表 (ショート・スクリプトを演じる)						
15	まとめ、授業内最終テスト							
授業外学習	宿題(毎週1時間)暗唱トレーニング(毎日30分)							
教科書	James M. Vardaman『毎日の英文法:頭の中に英語のパターンをつくる』(朝日新聞出版)(ISBN978-4-02-331099-5)							
主要参考書	特に無し							
評価方法	小テスト(60%) 授業内最終テスト(40%) 出席が10コマに満たない者は最終テストの受験資格を失う。							
教員への連絡方法	メール							

科目名				担当者名				
韓国語				ハン・トンヒョン				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	2	後期	C2(2×7+1)	白山
～2017	教養(B群)	選択	講義	2	4	後期	C2(2×7+1)	白山
履修条件	とくにないが、基本的には完全な初心者対象(韓国人留学生をはじめネイティブスピーカーは履修不可)。							
授業概要	完全な初心者を対象に、ハングル(文字)の読み方から始め、韓国語であいさつと簡単な自己紹介、ごく初歩的な会話ができるレベルを目指す。また折に触れて朝鮮半島の歴史、社会、文化などについても紹介することで、学生たちの視野を広げることに寄与したい。語学なので毎回の出席および積極的な参加に加え、地道な復習および練習なしには身につかない。単位のためにと安易に履修しないよう注意してほしい。 *新型コロナウイルス感染症対策のもとでの対面授業となる見込みで、発音の指導や学生同士の会話練習などは困難となる。なおさら学生個人々々の学習と練習が重要になるため、独学に向けた教科書を選んだ。							
到達目標	ハングルを読めること、自分の名前が書けること、韓国語であいさつと簡単な自己紹介、ごく初歩的な会話ができること。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	第1部 文字と発音 第1課 ハングルの世界						
	2	第2課 文字と発音 I 母音						
	3	第3課 文字と発音 II 子音①						
	4	第4課 文字と発音 III 子音②						
	5	ここまでのおさらい①						
	6	ここまでのおさらい②						
	7	第2部 会話と文法 第1課 저는 일본 사람입니다. 私は日本人です。〈自己紹介をする〉						
	8	第2課 안경집은 어디에 있어요? めがね屋はどこにありますか。〈買い物——めがねを買う〉						
	9	第3課 이게 뭐예요? これは何ですか。〈持ち物について話す〉						
	10	第4課 김밥이 삼천 원이에요. 김밥이 3천 원입니다. キムパプが3千ウォンです。〈お会計をする〉						
	11	第5課 다음 영화는 몇 시부터예요? 次の映画は何時からですか。〈時間・価格を言う〉						
	12	第6課 화장품을 사고 싶어요. 화장품이 사고 싶어요. 化粧品が買いたいです。〈やりたいことについて話す〉						
	13	第7課 비빔밥이 좋아요? 비빔밥이 좋아요? ビンバが好きですか、〈メニューを選ぶ〉						
	14	第8課 하나 씨 지금 뭐 봐요? 하나 씨, 지금 뭐 봐요? ハナさん、今、何を見ているんですか。〈目的をたずねる〉						
15	最終試験							
授業外学習	原則として毎回課す予定の小テストのためにも授業後の復習を欠かさないように。教科書会社のサイトから付属の音声ファイルをダウンロードして活用すること。日常的に韓国語への関心を持ち意識を高めることも重要。							
教科書	チョ・ヒチョル、チョン・ソヒ『ひとりでゆつくり韓国語入門』(CUON、2020年、1,800円+税) *2020年度より変更。必ず初回までに購入し、持参して出席すること。							
主要参考書	—							
評価方法	最終試験70%+基本的に毎回課す予定の小テストと意欲・参加度などの平常点30%。最終回に筆記で行う最終試験を受けない場合は評価の対象外。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
キャリア・サポート					緒方明 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	講義	2	3	後期	C1(1+2×7)	白山
履修条件	—							
授業概要	専門コースに進んだ学生自身のキャリアサポートを具体的にを行う講義。映像業界のみならず社会人として働くことの意義をゲスト講師のトークを中心に見出させる。現在の就職事情等も講義。							
到達目標	自らの進路を具体的に決定する							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	II-1 授業オリエン 映像業界の現状と展望。フリーランスと就職について						
	2	II-2 ゲスト講師 映画演出部、制作部の先輩。映画制作の現状と就労について						
	3	II-2 ゲスト講師 映画演出部、制作部の先輩。映画制作の現状と就労について						
	4	II-3 ゲスト講師 映画技術パート(撮影・照明)の先輩。映画制作現場からの声						
	5	II-3 ゲスト講師 映画技術パート(撮影・照明)の先輩。映画制作現場からの声						
	6	II-4 TVという世界 ゲスト講師 TVディレクター・放送作家(給料で働くということ)						
	7	II-4 TVという世界 ゲスト講師 TVディレクター・放送作家(給料で働くということ)						
	8	II-5 映画の出口に関わる。ゲスト講師 配給・宣伝マン(制作だけではなく映画の出口にまつわる状況)						
	9	II-5 映画の出口に関わる。ゲスト講師 配給・宣伝マン(制作だけではなく映画の出口にまつわる状況)						
	10	II-6 キャリアカウンセラーによる就職ノウハウ講義 エントリーシートの書き方、面接のポイント等を講義						
	11	II-6 キャリアカウンセラーによる就職ノウハウ講義 エントリーシートの書き方、面接のポイント等を講義						
	12	II-7 キャリアカウンセラーによる就職ノウハウ講義 エントリーシートの書き方、面接のポイント等を講義						
	13	II-7 キャリアカウンセラーによる就職ノウハウ講義 エントリーシートの書き方、面接のポイント等を講義						
	14	II-8 キャリアカウンセラーによる就職ノウハウ講義 グループワークで企業面接の攻略法を探る						
15	II-8 キャリアカウンセラーによる就職ノウハウ講義 グループワークで企業面接の攻略法を探る							
授業外学習	映画およびマスコミ等のスタッフ編成を、就職本等を読んで理解しておく。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	毎回リアクションペーパーを書かせる(80%) 授業態度(20%)							
教員への連絡方法	授業内もしくはキャリアサポートセンターを通じて連絡							

科目名					担当者名			
こども映画教育演習					熊澤 誓人 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画)	選択	演習	4	3・4	後期	E(夏期集中)	白山・外部
履修条件	映像教育の理論と実践を学ぶものです。コース問わず履修できます。							
授業概要	<p>麻生区役所地域みまもり支援センターと共催の小学生対象映画制作ワークショップ『こども映画大学』とのコラボレーション。この授業を履修した大学生がワークショップに参加した小学生たちに映画作り(シナリオ作りから撮影・編集・発表会進行まで)を指導しながらともに作品を作り上げ上映する。</p> <p><はじめの3日間> 学校、地域、その他のコミュニティーで実践された、映画の力を活かした国内外の事例を紹介し、映画と教育についてより深く考えることができるように、作品視聴、ディスカッション、発表などの活動を行う。</p> <p><その後の7日間>ワークショップの実践。『こども映画大学』を円滑・安全に行えるよう準備し、実行する。映画としての表現方法、発想の過程、その面白さ、チームワーク、課題を体験し、学び合う。</p>							
到達目標	<p>映画のもつ力を教育現場で活かす発想、方法論を身に付けること。また映画を通じた活動によって社会をより豊かにするための方法論を身に付けること。小学生に映画を教えることで今まで得た知識・技術を確認することができる。自分と違う価値観とは何かを考える機会になる。川崎市麻生区の取り組みに参加することで自分の故郷や住んでいる町に置き換え、町と人の関係、町と教育の関係を見つめなおすことができる。</p>							
授業計画	回数	内容						
	1	映像教育とは？ 芸術教育としての映像教育(日本や海外での試み) 映像教育の実践①(映画前史の考察)						
	2	映像教育の実践②(映画の発見) 映像教育の実践③④(映画を見る、つくる)						
	3	映像教育の可能性 課題発表と講評 過去の『こども映画大学』作品鑑賞・メイキング映像を含めた報告 『こども映画大学』の進め方(主題・役割・安全管理・運営方法などの話)・スタッフ及び担当編成						
	4	麻生区地域みまもり支援センターの取り組み 『こども映画大学』ワークショップ準備①(スタッフ打ち合わせ・会場づくり) ワークショップの為に機材取扱い講座(カメラ・録音・編集) ワークショップリハーサル①						
	5	『こども映画大学』ワークショップ準備②(スタッフ打ち合わせ・会場飾りつけなど) ワークショップリハーサル② ワークショップの為に機材取扱い講座(カメラ・録音・編集)						
	6	『こども映画大学』ワークショップ① 映画の仕組み説明(映画とは？ スタッフの仕事) シナリオ作り 機材の取扱説明(小学生にカメラや録音機材の使い方を教える) シナリオを基にした班決め・配役やスタッフ決め ワークショップ終了後大学生はシナリオをもとに打ち合わせ・小道具など買い出し・撮影準備						
	7	『こども映画大学』ワークショップ② ロケハン・本読み・リハーサル・撮影 ワークショップ終了後、大学生は撮った素材を編集機に取り込み、編集準備						
	8	『こども映画大学』ワークショップ③ 編集・発表会進行表作り・役割決め ワークショップ終了後、大学生は上映会準備						
	9	『こども映画大学』ワークショップ④ 発表会@イオンシネマ新百合ヶ丘(予定) ワークショップ終了後、大学生はあとかたづけ						
10	ワークショップを振り返って(スタッフ報告会・意見交換・来年度へ向けて)							
授業外学習	映画制作実習及び講義での体験・知識・理解を深めておく							
教科書	教科書・参考書は使用しない。必要な資料はプリント配布する。							
主要参考書	千葉茂樹・中山周治編 『映像教育の実践的研究～シネリテラシー教育の可能性を探る』(日本映画大学、2014年)							
評価方法	3日間の講義講習と7日間のワークショップ準備・ワークショップ・振り返り授業を進行・実践する<60%>、積極的に参加する姿勢<30%>、講義・ワークショップを振り返る能力<10%>。ただし『こども映画大学』ワークショップ(4日目以降)のみの参加は不可とする。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
インターンシップ					伊津野 知多			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	教養(コミュニケーション科目群/映画隣接)	選択	実習	2	3・4	通年	F(その他)	白山・外部
～2017	教養(E群)	選択	実習	2	4	通年	F(その他)	白山・外部
履修条件	<p>インターンシップへの参加を希望する学生は全員履修登録すること。履修登録した学生のうち、原則として以下の要件を満たした者がインターンシップ参加資格者となる。①通算GPA が2.0 以上。②必修・選択必修科目が再履修対象となっていない。③コース担当教員の推薦を受けている。 履修登録しても実習先が決まらない場合は履修が取り消されるので、特に4年生は注意すること。</p>							
授業概要	<p>「インターンシップ」は、実働10日間～20日間程度に相当する実習である。 映画制作の現場や映画祭はもちろんのこと、映像をコミュニケーションのインフラの中心に置いた教育や地域行政、地域コミュニティ、商業施設などさまざまな現場で、これまで学んだ理論や知識、技術を応用することで総合的な映画実践能力を養う。また、社会の一員としてのマナーや責任感を身につけ、自己啓発の機会を得ることを目的とする。 ①学内でのガイダンスへの参加、②キャリアサポートセンターへの「エントリーシート」の提出、③実習先でのインターンシップ、④インターンシップ終了後の「インターンシップ実施報告書」の提出が必須となる。</p>							
到達目標	<p>①これまで学んだ理論や知識、技術を実践の中で深め、卒業後の進路についての具体的な知識を得ることができる。 ②社会人としてのマナーと態度を身につけることができる。</p>							
授業計画	内 容							
	<p>以下のような流れで各自が進める。 詳しい手続きや提出書類については、ガイダンスで配布する「日本映画大学インターンシップの手引き」を参照すること。</p> <p>【1】 6/11(金)3限のガイダンスに参加する(必須)。「インターンシップの手引き」配布。</p> <p>【2】 実習先を探す(大学が実習先を紹介する場合と、自ら実習先を探し、大学に公認してもらう場合がある。)</p> <p>【3】 希望する実習先が決まったら、「エントリーシート」をキャリアサポートセンターに提出する(必須)。</p> <p>【4】 学内での面談や選考、実習先とのマッチングを経て実習先が決定する。</p> <p>【5】 インターンシップ実習。</p> <p>【6】 実習終了後、「インターンシップ実施報告書」をキャリアサポートセンターに提出する(必須)。</p>							
授業外学習	—							
教科書	使用しない							
主要参考書	使用しない							
評価方法	<p>①意欲と参加態度(ガイダンスへの出席と「エントリーシート」・「インターンシップ実施報告書」の内容) ②実習先からの評価(「インターンシップ評価表」の内容) ①と②から総合的に評価する。</p>							
教員への連絡方法	メール インターンシップの手続きについての詳細は、キャリアサポートセンターに問い合わせること。							

科目名					担当者名			
演劇WS(ワークショップ)					天願 大介 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	1	後期	E(春期集中)	新百合
履修条件	事前の知識はとりあえず必要とされない。しかし、特別にやむを得ない事情のない限り、全回出席することが履修の条件となる。							
授業概要	ワークショップとは体験を通じて学ぶ講座のこと。この講座では演技の基本であるいくつかの要素を体験することで、映画制作における俳優の役割をより深く理解する。しかし俳優を訓練するのが目的ではない。あらゆる表現は筋肉の運動である。その発見を各自の創作活動にフィードバック出来るようにするため、最後に身体を使った短いドラマを創作する(講師の都合によりスケジュールは入れ替わることがある)。							
到達目標	全員が俳優を体験することで身体がすべての基本であることと、その重要性を意識する。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	身体を使った表現とは何か 身体表現概論						
	2	舞踏家によるワークショップ(肉体の発見)						
	3	俳優によるワークショップ(感覚の記憶 感情の記憶)。						
	4	身体表現でのドラマ作り1						
	5	身体表現でのドラマ作り2 舞台の設営						
	6	身体表現でのドラマ作り3 舞台稽古・上演 (講師のスケジュール次第では2コマ連続で行う)						
授業外学習	生活の中で身体感覚を意識する。							
教科書	特になし。							
主要参考書	特になし。							
評価方法	受講態度の総合的な評価(全回出席することが条件) 80%、レポート 20%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
ドキュメンタリーWS(ワークショップ)					安岡 卓治 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	前期	F(その他)	白山
履修条件	演出系は必ず履修すること。撮影照明コース、録音コース、編集コース、文章系は履修することが望ましい。							
授業概要	ドキュメンタリーとは何か？ 映画そのものの歴史の原初に「ドキュメンタリー」の特質があった。様々な技術的な発展とともに進化し、現在形にまで到達した「ドキュメンタリー」の変遷を授業を通して学習しながら、身近な映像ツールを使って、その進化の過程を体感する。学生それぞれの価値観や映画観、そして創り手としてのまなざしの片鱗を感じ取り、それぞれにとって、これから臨むであろう映画のビジョンを探る発端となることを目指す。「ドキュメンタリーとは事実」という現在の誤解はどこから始まったのか。映画そのものが持つ虚構性を前提にしながら、劇映画とドキュメンタリーの境界領域を探り、現実の様々な創り手がそれぞれのまなざしを通して、どのように切り取られ、それが作品へと紡ぎ上げられるかをワークショップを通して学習する。							
到達目標	①ドキュメンタリーを通して映画の多様性を知る。 ②創作ワークショップを通じて基礎的なドキュメンタリーの作法を経験する。 ③企画ワークショップを通じて、現実を注視した映画の企画法を学ぶ。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	②講義:ドキュメンタリーとは何か？(1) My Favourite Docs 『創るということは素晴らしい』 ③④ワークショップ①課題企画案の検討 演出系学生によるプレゼンテーション(企画班編成) ※課題:黒澤明 監督作品を視聴すること/企画書更新・新規企画書(7/5締切)						2限～4限 大教室 上映+講義
	2	②③WS:「3minShort『感染』」(1)企画/班編成(6～8名)・主人公の選出・予備取材・主題策定 ④講義:ドキュメンタリーとは何か？(2)『黒澤明をドキュメントする』ゲスト講師/油井昌由樹様 ※リアクションペーパーによるゲストへの言葉 ※課題:『感染』企画書						2限～4限 大教室 上映+講義+ゲスト
	3	②講義:ドキュメンタリーとは何か？(3) 風景と心象: 作品抜粋紹介「忘却」是枝裕和、「路上」土本典昭 他 ③④課題検証『感染』企画・構成要素 ※課題『感染』撮影・編集						2限～4限 大教室 上映+講義
	4	②③課題『感染』合評上映 ④講義:カメラを持って街に出よう/寺山修司の「ドキュメンタリー」 / 作品抜粋紹介「あなたに」 ※課題『10人に聞きました』質問項目作成						2限～4限 大教室 上映+講義
	5	②③④WS:インタビューで描く/街頭インタビュー諸準備(:質問項目検証指導) ※課題『10人に聞きました』撮影						オンライン 班別指導
	6	②③④WS:課題企画書検討(6/1で編成した企画班単位) ※課題『10人に聞きました』撮影・編集						オンライン 班別指導
	7	②③課題『10人に聞きました』合評会 ④講義:ドキュメンタリーとは何か？④虚構としてのドキュメンタリー (作品抜粋紹介「ドキュメンタリーは嘘をつく」、「北区赤羽」) ■課題「企画書」						2限～4限 H212 上映+講義
授業外学習	取材調査、企画書立案 撮影							
教科書	—							
主要参考書	『日本のドキュメンタリー2 政治・社会編』岩波書店、『日本のドキュメンタリー3 生活・文化編』岩波書店、『日本のドキュメンタリー4 産業・科学編』岩波書店、松本俊夫著「映像の発見」、「311を撮る」岩波書店、佐藤真著「ドキュメンタリーの修辞学」みすず書房、中村高寛著「ヨコハマメリー かつて白化粧の老娼婦がいた」、「日本映画大学で実践しているドキュメンタリー映像制作の作法」玄光社							
評価方法	共同制作としてのワークショップ課題のすべての過程を実践すること(30%)。課題企画書提出とその更新(30%)。リアクションペーパーの内容(20%)。授業に参加する姿勢(20%)。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
デジタル動画WS(ワークショップ)					さの てつろう、若林 大介 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	前期	F(その他)	白山 新百合
履修条件	1年次に履修した「映画制作基礎演習」での動画撮影・編集仕上げについて復習しておく。 撮影照明コース、演出系は必ず履修すること。録音コース、編集コース、文章系は履修することが望ましい。							
授業概要	スマートフォンなどに付属している動画撮影や録音機能を使い、付属または無料ダウンロードした動画編集アプリを使い 1) モバイル内だけで簡単な映像制作をおこなう。 2) 撮影・録音した素材をPCに取り込み、更にハイスペックな編集仕上げの実践をおこなう。 卒業後映像制作において必要な用語やキーワードが多数でる。それらがどのように機能しているかも含め立体的に学習していく。 少人数グループのワークショップ形式で進行する。							
到達目標	映像の時代である現在において手軽に映像制作をして発信出来る技術と発想を習得する。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	映像時代に社会マネジメントなどにも必要不可欠な映像の重要性などの解説、簡単に作れる動画の作り方の解説						
	2	実践NO1とし、モバイル動画を使って簡単な課題を撮影・編集し、技術と内容について指導する						
	3	NO1の授業で創られた動画に対し、総合的評価及び指導する						
	4	実践NO2とし、NO1の復習授業で出した課題を撮影・編集し技術と内容について指導する モバイル上だけでなくPCに取り込み、ハイスペックな編集ソフトでの編集を実践						
	5	NO3授業とし、NO2の復習授業で出した課題を撮影・編集し、技術と内容について指導する モバイル上だけでなく、PCに取り込みハイスペックな編集ソフトでの編集を実践し、習得度を向上させる						
	6							
	7	それぞれの作品の評価・合評・総括						
授業外学習	デジタル映像機器ワークショップ等への参加							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「デジタルムービー実践ガイドブック」玄光社MOOK、映像制作のためのサウンド収録・編集テクニック							
評価方法	授業参加80/100・理解度60/100・機材運用の習熟度60/100 poi							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
演出論 I					緒方明 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	演出系は必ず履修すること。撮影照明コース、録音コース、編集コース、文章系は履修することが望ましい。							
授業概要	毎回、各講師(演出家)がテーマに沿って映画演出を検証する。 (授業内容や順番など変更することがあるので、必ず掲示で確認すること)							
到達目標	映画鑑賞力の向上。演出の考え方、内容の成長、演技、カット割の把握。							
授業計画	回数	内容						
	1	状況と演出						
	2	担当:熊澤誓人(映画監督)						
	3							
	4	欲望と演出						
	5	担当:サウトシキ(映画監督)						
	6							
	7	シナリオと演出						
	8	担当:井土紀州(映画監督・脚本家)						
	9							
	10	現場と演出						
	11	担当:中原俊(映画監督)						
	12							
	13	演劇と映画の演出						
	14	担当:天願大介(映画監督・脚本家)						
15								
授業外学習	授業内で観た映画の他、言及された映画を観ておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	授業へ積極的に参加する姿勢<60%>、レポート<40%>							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
録音WS(ワークショップ)					若林 大介、弦巻 裕 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	録音コースは必ず履修すること。演出系、撮影照明、編集コース、文章系は履修することが望ましい。 【読替科目】音響論(～2017年度)							
授業概要	音は映像と並んで、映画の大事な構成要素である。この講座は映画に携わる者であれば必ず知っておくべき、映画の音の基礎知識を、技術に偏らずに解説していく講座である。 映画の音の3要素である台詞・音楽・効果音それぞれのスペシャリストを招聘しそれぞれ専門的な観点から講義を行う。 映画の音の歴史、映画音楽や効果音の歴史を学ぶと共に、実際の現場ではそれがどのように作られているかを解説する。 技術と共に発展してきた映画音響システムが、現在ではどのような形になっているか。またこれからどのように変化していくか。それを知るために、最先端の映像表現技術の現状を紹介、解説する。 また、様々なメディアでどのような音響設計がなされているかを学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 映像、音響の構成要素である音楽、セリフ、効果音について学び、理解を深める。 映画および様々な映像メディアの音響フォーマットの理解を深める。 							
授業計画	週数	内容						
	1	映像と音楽(和田) 現役の映画音楽作曲家を招聘 映画音楽基礎 映画における音楽の役割を考える。 映画音楽にも地域や国による様々なスタイルの違いがある。その歴史と技法の紹介。 映画音楽の三要素と音楽演出の種類 日本映画音楽の現状。実際の映画音楽がどのように作られているかを、実例と共に解説する。 映画、TVドラマ、アニメなど、ジャンルによって異なる映画音楽制作過程について解説する。 音楽著作権についての理解を深める。						
	2	映像と効果音(北田) 現役のフォーリーアーティストを招聘。効果音の作り方とその仕事を語ってもらう。 映画音響における効果音の役割。 効果音にも様々な要素がある。その種類と役割を解説する。 効果音の歴史 国よっての効果・サウンドデザインの作り方の違い 日本における効果音制作の現状とその特徴						
	3	録音技師の仕事Ⅰ(紅谷 弦巻) 映画録音の歴史と技術の移り変わりを2週にわたって行う。 映画録音界の大ベテランに映画最盛期の録音の数々を語ってもらう。 大監督達との逸話やエピソードなどを語ってもらい、その技術背景を考える。 映画の音響表現が、技術の進歩と共に拡大してきた歴史を考える。						
	4	録音技師の仕事Ⅱ(弦巻) 弦巻教授の作品を元に近年の5.1サラウンド音声の作品についてその仕事を語ってもらう。 35mmフィルム作品の上映。 録音技術・音響処理についての具体的な工夫と体験を存分に語る。 「音響から観る映画体験について」討議と受講生からの質疑応答。						
	5	音響基礎(若林) 映画音響フォーマットの推移。 TV音響&ネットムービーの音響について。 映画音響施設の技術的仕様。 様々なメディアにおける音のミキシングの違い。 最新の音響施設および音響機材の傾向を解説。						
授業外学習	録音協会セミナーへの参加を推奨する(授業内にて案内)							
教科書	授業時に適宜、関連資料を配布する。							
主要参考書	—							
評価方法	毎回のリアクションペーパーの提出・内容(50%)と、期末レポート(50%)で総合評価(出席率50%未満は、原則不可扱いとなる)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
動画配信WS(ワークショップ)					藤田 直哉、さの てつろう、若林 大介、島田 隆一 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2020～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	後期	F(その他)	白山 新百合
履修条件	デジタル動画WSを受講していることが望ましい。インターネットでの配信動画に興味を持っていること。							
授業概要	<p>動画配信サイトを中心とした配信系動画を通して映像表現の可能性を研究する Youtubeを中心としたような動画が配信されどのが多く視聴されているかを学び、実社会や社会活動への影響を考える。 広告収入の仕組みを理解し、企業やアーティストなどがYoutubeというプラットフォームをどのように利用しているかを学ぶ。 法令違反や著作権侵害などコンプライアンスの問題を学ぶ。 実際の制作においては、企画立案・撮影・編集を行い動画アップロードまでを行う。</p>							
到達目標	自由な発想をし映像表現の可能性について思考できる・映像表現においてのコンプライアンスを理解し発信できる。							
授業計画	日数	内容						
	1	YouTube動画概論						
	2	配信動画の収益の仕組み、企画、マーケティングの仕方を学ぶ						
	3	コンプライアンス						
	4	演出・撮影・録音						
	5	企画立案						
	6	編集						
	7	評価・合評・総括、動画の公開						
授業外学習	授業で講師が言及するYouTubeなどの動画を観ていく							
教科書	教員作成によるテキスト／適宜指示							
主要参考書	特になし							
評価方法	授業参加態度20%理解度40%課題作品への貢献40%の割合で総合的に評価する							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画プロデュースWS(ワークショップ)					富山 省吾			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	後期	C1(1+2×7)	白山
履修条件	「映画ソムリエ・プログラム」の取得を目指すものは必ず履修すること。							
授業概要	<p>● 映画とは何か。映画作りに絞っても答えは多岐だ。この多岐に及ぶ道を辿って映画を作り上げるのがプロデューサーの仕事だ。授業はまずプロデューサーは何をする人間かを明確に提示する。続いて製作準備、撮影、仕上げから劇場公開までの実際の各分野での仕事のポイントを指し示し、プロデューサーの仕事の多様さと、その結果として専門化する今日のプロデューサーの業務領域について触れ、将来の進路として検討できるようにする。● 加えて映画の要諦である脚本作りについて決め手となるメソッドを提供し、プロデューサーとしてのみならず映画人としてのスキルを装着する。● 授業の中盤4週間に掛けてプロデューサーとしての実務能力を獲得するために、全員がグループに分かれて「企画開発」「企画書の作成と改訂」をおこない、さらにその発表・合評によって企画書の多様性を習得する。これによりすべての映画スタッフにとって、企画書作成が自身のキャリア向上の大きな戦力になる必修スキルであることが実感できるようにする。● 個人の企画書を最終授業日まで完成させる。● コロナ禍と映画界の関係、未来像についても展望する。</p> <p>※ 2クラス開講(水曜・金曜)。</p>							
到達目標	<p>● 「プロデューサーは何をする人か。その仕事はどのようなものか」を現実感を伴って理解出来るようになる。● 4週間のワークショップでグループで企画書を作成し、これからの映画人にとって必須能力である企画書作成力と、グループで一つの目標にたどり着く力を身に着ける。● プロデューサーにとって強い武器となる脚本を読み解いて評価する力、弱点を見つけ改訂する技能が取得できる。</p>							
授業計画	回数	内容						
	1	講座の目的と目標の提示。今日の世界において「映画プロデューサーは何をする人か」を改めて見つめ直す						
	2	プロデューサーの多岐にわたる仕事を企画開発から製作の諸段階の流れに沿ってポイントごとに知る。今日の専門家するプロデューサーの業務区分、加えて時代に呼応して求められるプロデューサーとしての自らの立脚点についても学ぶ						
	3	世界の映画史とく日本映画60年史(1960～2019)を俯瞰しながら日本映画の画期的年エポックを探究し、合わせてと歴史上の名作から映画の魅力の神髄を学ぶ。コロナ禍が映画界に何を遺すからについても考察する						
	4	映画に欠かす事の出来ない存在である脚本について。名作の実例を上げながらプロデューサーの視点から傑作の神髄を学ぶ						
	5	優れた脚本に求められる要素の解明と、実際の脚本作りとその改訂に欠かせない必須条件や技法を列挙した解説から学ぶ						
	6	企画書作成①週目 映画の企画とは何か。企画開発と企画書の作成について具体的に必要な要素や項目を挙げて学ぶ						
	7	グループに分かれ、メンバーの相互理解を図って協働作業に向かう準備を行う。自分たちの目指す企画について討議する						
	8	企画書作成②週目 各自が作成して来た企画書をグループ内でプレゼンし合い、その中から協議して1本を選ぶ						
	9	選んだ企画について、提案企画書として仕上げるためのグループ内の役割分担を含めた作業計画を立てる						
	10	企画書作成③週目 グループごとに全員の前で企画発表をおこない、全員での質疑応答をして課題を発見する						
	11	質疑応答で得た課題、講師からの指摘を受けて、グループ内で企画書を改訂する						
	12	企画書作成④週目 改訂した企画書の発表をグループごとにおこなう。全員での質疑応答をおこなう						
	13	ワークショップのまとめとして、2度の発表によって得た成果と経験を各自から発表する						
	14	企画書作成のまとめ グループ発表の総括をしながら、改めて企画書の意味と作成のポイントを確認する						
15	デジタル革命とコロナ禍を経て劇的に変容する映画の世界について、プロデューサーの係わり方を含めて考察して展望する							
授業外学習	グループによる企画書作成とその改訂作業。2回のプレゼンテーションの準備。各自の企画書の作成。							
教科書	なし							
主要参考書	富山省吾『ゴジラのマネジメント』(アスキー・メディアワークス、2015年)							
評価方法	4週間に掛けて企画書作成と改訂、及び発表を共同作業としてすべて実践して2種類の企画書を仕上げる(60%)。各自の企画書の作成と提出(20%)。リアクションペーパーの内容(10%)。授業に積極的に参加する姿勢(10%)。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画美術演習 I					中原 俊、稲垣 尚夫 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	後期	E(夏期集中)	白山
履修条件	3年次より演出コースを志望する者は出来るだけ履修すること。							
授業概要	映画監督(中原)、美術監督(稲垣)による映画美術の基礎知識を学ぶ講義をうけた後、学内スタジオを使って、セット美術の基本となる「パネル」「平台」の製作をしながら道具の使い方を習得する。最終日に自分達の作った材料をつかって、1週目の講義をふりかえりつつ、空間概念を理解する。							
到達目標	映画美術の基礎概念を理解し、協働作業のやり方を学び、セット作りのための道具の使い方と部品(パーツ)の作り方を習得する。技能を習得した者には美術ライセンスB(工具使用免許)を与える。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	演出と美術(中原・ゲスト) 『櫻の園』(‘90)をつかって、演出と美術の不可分の関係について対談で検証する 美術の仕事(稲垣) 映画における美術の在り方とそれにまつわる様々な困難及びその対処方法を講義する 製作基礎(稲垣) 材料と尺・フィートについて講義する グループ分け A班・B班、各班6チームに編成する						
	2	製作基礎(稲垣) 材料と尺・フィートについて講義する スタジオの構造と使用方法・工具の使い方A班(中原・稲垣・相田・大道具2名)						
	3	パネルの製作・片付けA班 ※チームに分かれて各自作業						
	4	製作基礎(稲垣) 材料と尺・フィートについて講義する スタジオの構造と使用方法・工具の使い方B班						
	5	パネルの製作・片付けB班(同上) ※チームに分かれて各自作業						
	6	平台の製作・自由創作物製作・片付けA班 ※班に分かれて各自作業						
	7	平台を使って舞台を作り、パネルを立てて空間構成の概念を学ぶA班・振り返り						
	8	平台の製作・自由創作物製作・片付けB班 ※班に分かれて各自作業						
	9	平台を使って舞台を作り、パネルを立てて空間構成の概念を学ぶB班・振り返り						
授業外学習	自由創作物のプランと作製							
教科書	図面(授業内で配布)							
主要参考書	吉田秋生『櫻の園』(白泉社文庫、1994)、杉山平一『映画芸術への招待』(講談社現代新書、1975)							
評価方法	自主性(熱意)60%、指導講師による個別評価40%(理解力+積極性+協働性)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
映画美術演習Ⅱ					中原 俊、稲垣 尚夫 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	2	後期	E(春期集中)	白山
履修条件	「映画美術演習Ⅰ」を履修していること							
授業概要	美術デザイナー(稲垣)の指導のもと、スタジオ内に図面に沿ってセットを組みながら、大道具・塗装・装飾等のセット造りに必要な技術を学ぶ。							
到達目標	スタジオ・セットの具体的な知識と自分達の手で建てるための技量を身につける 作業工程を修得し、リーダーシップを発揮した者には美術ライセンスA(スタジオ使用許可書)を与える。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「イメージが出来上がるまで」 スケッチ画と図面の読み方 ・作業行程説明 ・場所作り(セットをバラしながら建て方を把握する) (中原・稲垣・相田)						
	2	平台設置・材料調べ・床・柱・壁の設置 (中原・稲垣・相田・大道具)						
	3	建て込み残・窓、扉枠取り付け・下地張り・不足部品作り (同上)						
	4	塗装・装飾構想(在り物搬入)・窓外・廊下建て込み・建具取り付け (中原・稲垣・相田・大道具・塗装)						
	5	残作業 (同上)						
	6	塗装・看板、家具等造り物製作 (同上)						
	7	エイジング(汚し)・小道具調達(借り物・買い物)・仕上げ (同上)						
8	飾り込み・ライティング・撮影・ディスカッション・総括 (中原・稲垣・相田)							
授業外学習	撮影のための構想・シナリオ・装飾品の調達・撮影した素材をつかっの編集・音仕上げ							
教科書	図面(授業内で配布)							
主要参考書	中村公彦『映画美術に賭けた男』(草思社)							
評価方法	自主性(熱意)60%、指導講師による個別評価(技能+積極性)40%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
脚本WS(ワークショップ)					斎藤 久志、荒井 晴彦 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2019～	専門基礎	選択必修	演習	2	3	前期	B1(3×5)	新百合
2018	専門基礎	選択必修	演習	2	4	前期	B1(3×5)	新百合
履修条件	—							
授業概要	<p>毎回、実作者(脚本家、監督等)であるゲスト講師を招き、ゲスト講師が携わった作品を上映することで、その作品がいかんとして作られたかを、脚本家である担当教員との対話であきらかにしていく。事前に上映される作品の脚本をプリントで配布するので、必ず読んで出席すること。その作品に、原作がある場合は、原作を読んでから脚本を読む事が望ましい。</p> <p>・とりあげる作品及びゲスト講師は、事前に脚本を配布する際に知らせるので、掲示に注意すること。</p>							
到達目標	第一線のプロの創作過程を知る事で、自分たちの今後の作品作りの参考にする。							
授業計画	回数	内容						
	1	【テーマ:脚本】						
	2	ゲスト講師が脚本した作品の上映。						
	3	ゲスト講師による作品の解説。講師と担当教員による対談。学生とのディスカッション。						
	4	【テーマ:脚本】						
	5	ゲスト講師が脚本した作品の上映。						
	6	ゲスト講師による作品の解説。講師と担当教員による対談。学生とのディスカッション。						
	7	【テーマ:脚色】						
	8	ゲスト講師が脚色した作品の上映。						
	9	ゲスト講師による作品の解説。講師と担当教員による対談。学生とのディスカッション。						
	10	【テーマ:監督】						
	11	ゲスト講師が監督した作品の上映。						
	12	ゲスト講師による作品の解説。講師と担当教員による対談。学生とのディスカッション。						
	13	【テーマ:監督】						
	14	ゲスト講師が監督した作品の上映。						
15	ゲスト講師による作品の解説。講師と担当教員による対談。学生とのディスカッション。							
授業外学習	上映される作品の脚本を事前に配布するので、授業までに必ず読むこと。また、原作がある場合は、原作を読むこと。							
教科書	毎回配布される脚本のプリント。							
主要参考書	原作がある場合は原作小説等。							
評価方法	平常点(40%)、レポート(60%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
編集WS(ワークショップ)					大永 昌弘 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	編集コースは必ず履修すること。演出、撮影照明、録音、ドキュメンタリーコースは履修することが望ましい。							
授業概要	様々なジャンル・媒体の映像編集と編集者あるいは編集周辺に関わる人々を招いて、映画編集者である講師とともに話を聴いたりしながら編集の大切さや面白さを学ぶ。							
到達目標	様々な編集及び編集関連技術を講義や体験で知り、映像の成り立ちや組み立てる思考を得る。							
授業計画	日数	内容						
	1	注目される映画編集者と編集助手を招いて作品と編集についての講義を行う						
	2	映画以外の編集者(ドキュメンタリー・アニメーション・CM・予告編など)を招き、作品と編集についての講義を行う						
	3	映画以外の編集者(ドキュメンタリー・アニメーション・CM・予告編など)を招き、作品と編集についての講義を行う						
	4	映画編集とは・・・編集者たちのさまざまな技法について学ぶ						
	5	映画編集とは・・・編集者たちのさまざまな技法について学ぶ						
授業外学習	授業で紹介された作品、引用された作品は観ておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	受講姿勢・態度(50%)、成果物評価(50%)で総合的に評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
特殊撮影・VFX 基礎					尾上 克郎、緒方 明 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	定員を超えた場合は選考を行う。							
授業概要	特殊撮影とVFXの基礎。 映画製作において、特殊撮影やVFX(ヴィジュアルエフェクト)の重要度は日々増加し、現在の映像制作に携わる人間にとって、その基礎的概念や基礎技術を習得することは必要不可欠である。このコースでは特殊撮影とVFX(ヴィジュアルエフェクト)の歴史と概念を学び、VFXや特殊撮影を取り込んだ映像制作の実際を学び経験する。							
到達目標	特殊撮影とVFXの基礎的概念を学び、グループWSによりサンプルシーケンス(動画)制作により、特殊撮影とVFXシーケンス完成までの制作プロセスを理解する							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	【講義1】 特殊撮影の歴史～特撮からVFXへ。特殊撮影の誕生からインカメラエフェクト、オプティカルエフェクト、そしてデジタルエフェクトへ。いかにして技術や概念が発達してきたか 担当:尾上(特撮監督・VFXスーパーバイザー)						
	2	【講義2】 ビハインド・ザ・シーンから学ぶ、最新技術の応用ならびに様々なVFXの手法。 担当:尾上(特撮監督・VFXスーパーバイザー)						
	3	【講義3】～実写映画におけるVFXの基礎①2D合成基礎 ①画面合成基礎(面割り合成)②黒バック撮影などによるダブルエクスポージャー(ダブル合成)の概念③クロマ・キー合成の概念と撮影方法(グリーン・バック/ブルー・バック) 担当:尾上(特撮監督・VFXスーパーバイザー) 【WS1】～静止画を使った画面合成の基礎						
	4	【講義4】～実写映画におけるVFXの基礎②3D合成基礎 ①実写撮影と3DCG ②3Dオブジェクトの作成とレンダリング ③オブジェクト・アニメーション ④3Dオブジェクトのライティング ⑤ 2D画面と3Dオブジェクトの合成 担当:尾上(特撮監督・VFXスーパーバイザー)						
	5	【WS1(グループ)】～基礎的合成の実践1 ・あらかじめ用意した撮影素材とCG素材を使用してCG/レイヤー合成の概念習得 ①動画合成ソフトの概要と基本操作 【使用ソフト:After Effects or Digital Fusion】						
	6	【WS1(グループ)】～基礎的合成の実践2 ・あらかじめ用意した撮影素材とCG素材を使用してCG/レイヤー合成の実習～レイアウトと仮合成 ②個別に撮影された素材の管理方法と合成 ③3DCG素材の合成						
	7	【WS1(グループ)】～基礎的合成の実践3 ・あらかじめ用意した撮影素材とCG素材を使用してCG/レイヤー合成の実習～完成度を上げる ④色や明るさを調整してなじませる ⑤2Dエフェクトを加える * サンプルシーケンスの完成と講評						
授業外学習	授業で紹介された作品、引用された作品は観ておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	成果物(WSで制作したシーケンス) 50%、課題レポート 50%							
教員への連絡方法	授業内で周知							

科目名					担当者名			
演出論Ⅱ					熊澤誓人 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	演出、身体表現・俳優コースは原則履修すること。その他コースは履修することが望ましい。							
授業概要	<p>演出家、映画監督は映画をどのように観るのか。他者が撮った映画から何を受け取るのか。 毎回、各講師(演出家)がテーマを決めて映画を選び、一緒に観賞。その後、各シーンの演出を検証する。 (担当者の順番、授業内容は変更することがあるので、必ず掲示で確認すること)</p>							
到達目標	映画鑑賞力の向上。演出内容の成長、演技、カット割の把握。							
授業計画	日数	内容						
	1	担当:熊澤誓人 テーマ:境目と色						
	2	担当:サトウトシキ テーマ:人物の感情と演出						
	3	担当:中原俊 テーマ:青春映画における人物の登場、紹介の仕方						
	4	担当:天願大介 テーマ:映画における『省略』とは						
授業外学習	授業内で観た映画の他、言及された映画を観ておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	授業に積極的に参加する姿勢・態度(60%)、レポート(40%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
特殊撮影・VFX WS (ワークショップ)					尾上 克郎、緒方 明 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	定員を超えた場合は選考を行う。							
授業概要	特殊撮影・VFXの実践と実写作品への応用。 特殊撮影の技法やVFXは、映画の発想を豊かにする。このコースでは、サンプルストーリーを元にVFXと特殊撮影を適用した短編作品のプランニングから仕上げまでを実践し、特殊撮影とVFXの応用法を学び経験する。							
到達目標	実写映画での特殊撮影/VFXの使用法と発想を習得する。 グループWSによる特殊撮影特殊撮影とVFXシーンのプランニングと完成までの実践。短編作品の完成。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	【講義】 講義～特殊撮影・VFX技法の復習と応用。画面合成の理解を深める。 担当：尾上(特撮監督・VFXスーパーバイザー)						
	2	【WS1】 チーム分けを行い、サンプルストーリーに基づくカット割りと絵コンテの作成。 撮影プランニング(ロケハン、機材選定など)と撮影準備						
	3	【WS2】 撮影(特殊撮影、グリーンバック撮影などを含む)						
	4	【WS3】 撮影(特殊撮影、グリーンバック撮影などを含む)及び データ・トランスフォームの体験						
	【WS4】 編集と合成作業 短編完成と上映ならびに講評							
授業外学習	授業で紹介された作品、引用された作品は観ておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	受講及びWSへの取り組み姿勢 40%、リアクションペーパーの提出 20%、短編作品の提出および成果 40%							
教員への連絡方法	授業内で周知							

科目名				担当者名				
上映企画WS(ワークショップ)				石坂 健治 ほか				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門基礎	選択必修	演習	2	3	後期	F(その他)	白山・外部
履修条件	「映画ソムリエ」になるための最後の関門である。「日本映画史Ⅰ」(1年)、「映画史基礎」(単位外)、「映画流通論Ⅱ」(2年)、「映画プロデュースWS」(2年)を単位修得済であること。自分でイベントを企画・運営してみたい者の参加をのぞむ。普段からお気に入りの映画館を見つけ、その番組ラインナップをチェックする習慣をつけておくことがのぞましい。							
授業概要	映画上映の「思想」を学び、段階的なワークショップを行って映画上映のスペシャリストを養成する、東京国際映画祭ディレクターによる実践授業である。最終的には企画コンペを経て、優秀な上映企画を選定することをゴールとして設定する。(引き続き4年次の「映画祭プロジェクト」で学内または学外で優秀企画をイベントとして実施する。) 上映企画書を作成したり、チラシやカタログの作成もグループ実習する。そもそも映画を上映することの意味から、プログラムを組み立てることの批評性、名画座や公共上映の歴史と意義、地域コミュニティとの連帯(コミュニティシネマの理念)等も講義しつつ、ワークショップを進める。(曜日、教室などが流動的になる期間あり。授業時に告知します。)							
到達目標	映画上映とは世界に対する「批評的な行為」であるという考えを身につける。							
授 業 計 画	回数	内 容						
	1	ガイダンス①:そもそも映画を上映することの意味、プログラムを組み立てることの批評性、名画座や公共上映の歴史と意義、地域コミュニティとの連携、といった理念的な側面を概説し、問いを立ててグループ討論を行う。						
	2	ガイダンス②:同上						
	3	グループ実習①:各班に分かれ、班員それぞれが予算のシミュレーションをしながら上映プログラム(たとえば「5日間で10本を上映する特集のプログラム」)を作成し、グループ内で討議し、各グループが企画を一つずつ決定(つまり地区予選)。						
	4	グループ実習②:同上						
	5	担当教員または外部講師による特別講義①:映画上映の歴史について						
	6	グループ実習③:各グループが企画のプレゼンテーションを行い、全体の最優秀企画を決定(つまり全国大会)。						
	7	グループ実習④:同上						
	8	担当教員または外部講師による特別講義②:興行から非劇場上映までの上映形態について						
	9	グループ実習⑤:映像ソフトを調達し、チラシと解説パンフレットを作成。全員が何らかの業務を担当する。						
	10	グループ実習⑥:同上						
	11	担当教員または外部講師による特別講義③:映画上映と配給・宣伝について						
	12	イベント準備①						
	13	イベント準備②						
	14	イベント準備③						
	15	まとめ						
16								
授業外学習	東京国際映画祭などに参加することがある。							
教科書	特になし。							
主要参考書	特になし。							
評価方法	上映企画書プレゼンテーション80%+平常点20%。100点満点で60点を合格点とする。							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目名					担当者名			
脚本基礎演習					斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	基礎	必修	演習	2	1	前期	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	脚本の書き方の基礎を習得させつつ、映画は脚本から始まることを体験させる。ドラマという概念を教え、それがどのように脚本として成立しているかをプロの作品から学ばせたうえで、自分たちも脚本を実際書いてみる。あらすじを書く、プロットを組み立てる(箱書きを作る)、柱と、だんだんと構成を細かく割って行き、脚本執筆をする。ト書き、セリフ、箱書き(場面ごとの区別)、ハシラ(slug line、物語の出来事が起こる場所、撮影場所の指示書き)などの基本ルール、さらに人物の作り方、シーンの作り方、ストーリーの展開方法、省略の技法、回想形式、など脚本作成の基本作法をしっかり身につける。							
到達目標	後期必修である「映画制作基礎演習」の為の短編シナリオが書けるようになる。							
授業計画	日数	内容						
	1	脚本とはどういうものか？既成の映画の脚本を読んで、完成された映画を観てみる。その上で脚本の書式を学ぶ。						
	2	脚本とはどういうものか？既成の映画の脚本を読んで、完成された映画を観てみる。その上で脚本の書式を学ぶ。						
	3	課題を与え、ワンシーンを書いてみる。出来上がったワンシーンを個別に講評し、書式の不備等を学ぶ。						
	4	ペラ(200字詰め原稿用紙)30枚の脚本に向けてプロットを作る。それぞれの作品は、どういう話なのか、何を描きたいのか、要約して発表する。						
	5	プロットを元に脚本執筆に向けて、箱書き(構成)を学ぶ。						
	6	箱書きを元にシーンに割ってみる。シーケンスとはなにか、シーンとは何かを学ぶ。その上で脚本執筆にとりかかる。						
	7	出来上がった脚本を個別に講評する。その講評を受けて脚本を直す。直した脚本を全員で読み、合評する。						
授業外学習	プロットの執筆。それを元にペラ30枚の脚本の執筆。							
教科書	—							
主要参考書	授業内で配布されるプロの脚本等のプリント。							
評価方法	平常点(60%)、提出課題(40%)							
教員への連絡方法	授業内で周知							

科目名					担当者名			
映画制作基礎演習					細野 辰興 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	基礎	必修	演習	8	1	後期	F(その他)	白山 新百合
履修条件	1年次必修。「脚本基礎演習」「スタートアップ演習」「人間総合研究」に合格していること。 この科目が不合格になると2年に進めず留年となる。							
授業概要	先ず、其々の専門講師の講義(7日間)で映画の演出、脚本、制作、演技、撮影、録音、編集などの基礎知識(役割・工程・用語・技法・シナリオの作り方)を学ぶ。その後、各クラスにて専門家の指導のもと準備、撮影、仕上げの方法を学びつつ短編映画を完成させ、上映・総括講評を経て、映画制作の全工程を体験する。							
到達目標	映画制作に必要な知識と技術と精神を修得し、今後自分が映画とどう関わっていくかの指針を得る。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	シナリオ決定稿のつくり方 講義(制作・演出・撮影・録音・編集・美術・デジタル等)						
	2	シナリオ決定稿提出 各指導講師との合流式、技術特講、ロケハン(撮影場所探し) 等						
	3	諸準備、美術打合せ、メイク&美術特講						
	4	カメラテスト、衣裳&小道具合わせ、芝居リハーサル、撮影スケジュール制作、オールスタッフ打合せ						
	5	撮影						
	6	撮影 仕上げ講義、撮影済みデータなどの取り込み、ラフカットラッシュ						
	7	編集打合せ、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ、オールラッシュ、ダビング打合せ						
	8	フォーリー・音楽・整音・ダビング(ファイナルミックス) 発表会						
授業外学習	ロケーションハンティング・衣裳・小道具の収集等及び現場リハーサル							
教科書	—							
主要参考書	杉山平一『映画芸術への招待(講談社現代新書)』(講談社)							
評価方法	第一週目の7日間の講義に積極的に参加する姿勢(20%)。各指導講師との話し合いによる個別評価(60%)。シナリオ授業の受講態度(20%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
長編シナリオ演習 I					荒井 晴彦 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	基礎	必修	演習	2	1	後期	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	劇場用映画の長さのシナリオを書く事を目的に、教員自身の経験を生かしたシナリオ執筆方法を講義し、学生にシナリオ執筆に必要な技術を教える。10人前後の学生に対して一人以上の脚本家がほぼマンツーマンの体勢で個別に丁寧に指導していく。個々人にその題材が適しているかを問い、それぞれの人生を丸ごとシナリオにぶつけさせる。人への興味が映画なのだという事を知る。そのうえで映画作りの難しさと面白さの基本を叩き込み、脚本を知ることが、映画のどのパートにとっても最も大事だということを学習する。							
到達目標	学生個々人がそれぞれの題材を発見し、それを物語(プロット)に落とし込む。							
授業計画	日数	内容						
	1	既成の映画を観て、プロットに要約する。その映画のテーマは何かを見つけ、「脚本基礎演習」で学んだ箱書きにしてみる。そのうえで、起承転結に分けて、どうプロットが展開しているか、解析してみる。						
	2	プロの書いた脚本を読み、シーンの中で人物がどう動いているか、シーンの連なりであるシーケンスではどういう展開をしているかを読み解く。						
	3	それぞれが書こうとするシナリオのテーマ等を発表し、それを物語に落とし込む為のアドバイスをする。200枚(1時間40分)という長さで、描こうとする物語の質を検討する。						
	4	それぞれが、プロットを作り、講評を受ける。						
	5	直したプロットを合評し、シナリオ執筆にあたり取材すべき対象や、学ぶべき本等のアドバイスを受ける。						
授業外学習	プロットの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	指導講師の過去に執筆したシナリオ(あるいは指導講師が選択した既成の映画のシナリオ等)のプリント、完成した映画のDVD等。							
評価方法	受講態度(40%)、提出課題(60%)							
教員への連絡方法	授業内で周知							

科目名					担当者名			
長編シナリオ演習Ⅱ					荒井 晴彦 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	基礎	必修	演習	2	2	前期	F(その他)	白山
履修条件	ペラ200枚程度のオリジナルシナリオの提出(2021年4月9日(金)17:00提出)。							
授業概要	<p>「長編シナリオ演習Ⅰ」で書いたプロットを元にシナリオ執筆に入る。ペラ200枚(100分)程度の長さのオリジナルシナリオを書き上げる。春休み中の作業になるので、個別に担当教員(脚本家)が、面談による執筆指導を行う。おそらく初めて200枚もの長さに挑戦した学生は、やっと到達したか、もしくはその手前で終わっていると思う。そこで一度書き上げた脚本を俯瞰で検証する。最初に作ったテーマから物語がずれていないか、展開に無理はないか、描きたりない箇所はどこなのかを個別指導で学び、脚本を直していく。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ペラ200枚のオリジナルシナリオの完成。 ・個別指導で詳細に検討、直しをすることで、映画の構造を徹底的に知る。 							
授業計画	日数	内容						
	春	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマの確認。 ○ プロットを大バコ(構成)に分ける。 ○ 大バコをシーケンスに分ける。 ○ シーケンスをさらにシーンに分ける。 ○ その上で登場人物のキャラクター、設定を検証し、シナリオ執筆にうつる。 						
	1	個別指導① 書いたシナリオからハコに戻してみる。						
	2	個別指導② テーマを検証する。						
	3	個別指導③ 書き手の都合で登場人物を動かしてないか、展開を検証する。						
	4	個別指導④ キャラクターに無理はないか検証する。						
5	個別指導⑤ ト書き、ダイアログ(台詞)の検証。							
授業外学習	<p>【200枚シナリオの書式について】</p> <p>以下の情報を必ず明記してください(手書き・PC共通事項)。 作品タイトル、クラス、氏名、登場人物表(名前、年齢、職業のみ)、ペラ換算枚数、ページ番号 ※「長編シナリオ演習Ⅰ」で提出したプロットから大幅に変わる場合は、あらずしも添付すること。</p> <p>PC提出のレイアウト。 用紙サイズ:A4 段数:2段組み 余白:標準(上・下:30mm、右:35mm) 文字数:1行20文字 文字サイズ:10.5</p>							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	受講態度(40%)、提出課題(60%)							
教員への連絡方法	授業内で周知							

科目名					担当者名			
長編シナリオ制作(再履修)					斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	基礎	必修	演習	4	4	前期	F(その他)	白山
履修条件	「長編シナリオ制作」不合格者。							
授業概要	「長編シナリオ演習Ⅰ」で書いたプロットを元にシナリオ執筆に入る。ペラ200枚(100分)程度の長さのオリジナルシナリオを書き上げる。春休み中の作業になるので、個別に担当教員が、面談による執筆指導を行う。							
到達目標	ペラ200枚のオリジナルシナリオの完成。							
授業計画	内 容							
	<p>○ テーマの確認。</p> <p>○ プロットを大バコ(構成)に分ける。</p> <p>○ 大バコをシーケンスに分ける。</p> <p>○ シーケンスをさらにシーンに分ける。</p> <p>○ その上で登場人物のキャラクター、設定を検証し、シナリオ執筆にうつる。</p> <p>【200枚シナリオの提出について】</p> <p>提出期日: <u>2021年4月9日(金)17:00</u></p> <p>提出場所: 白山校舎事務室</p> <p>提出方法: 各自2部提出すること(持参)。2部とも必ずレポート用表紙をつけ、ホッチキスで綴ること。</p> <p>【200枚シナリオの書式について】</p> <p>以下の情報を必ず明記してください(手書き・PC共通事項)。 作品タイトル、クラス、氏名、登場人物表(名前、年齢、職業のみ)、ペラ換算枚数、ページ番号 ※「長編シナリオ演習Ⅰ」で提出したプロットから大幅に変わる場合は、あらずしも添付すること。</p> <p>PC提出のレイアウト。 用紙サイズ:A4 段数:2段組み 余白:標準(上・下・左:30mm、右:35mm) 文字数:1行20文字 文字サイズ:10.5</p>							
授業外学習	シナリオの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	執筆物(オリジナルシナリオ)の成果。							
教員への連絡方法	クラス確定後、個別に周知。							

科目名					担当者名			
長編シナリオ演習Ⅱ(再履修)					斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	基礎	必修	演習	2	4	前期	F(その他)	白山
履修条件	「長編シナリオ演習Ⅱ」不合格者。ペラ200枚程度のオリジナルシナリオの提出。							
授業概要	おそらく初めて200枚もの長さに挑戦した学生は、やっと到達したか、もしくはその手前で終わっていると思う。そこで一度書き上げた脚本を俯瞰で検証する。最初に作ったテーマから物語がずれていないか、展開に無理はないか、描き足りない箇所はどこなのかを脚本家による個別指導で学び、脚本を直していく。							
到達目標	個別指導で詳細に検討、直しをすることで、映画の構造を徹底的に知る。							
授 業 計 画	日数	内 容						
	1	個別指導① 書いたシナリオからハコに戻してみる。						
	2	個別指導② テーマを検証する。						
	3	個別指導③ 書き手の都合で登場人物を動かしてないか、展開を検証する。						
	4	個別指導④ キャラクターに無理はないか検証する。						
	5	個別指導⑤ ト書き、ダイアログ(台詞)の検証。						
授業外学習	シナリオの直し。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	平常点(40%)、提出課題(60%)							
教員への連絡方法	授業内で周知。							

科目名					担当者名			
演出基礎演習 I 〈ドキュメンタリー〉					安岡 卓治、島田 隆一 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	前期	F(その他)	白山 新百合
履修条件	「ドキュメンタリーワークショップ」を履修していること。及び「デジタル動画ワークショップ」を履修していることが望ましい。							
授業概要	<p>本学創設者・今村昌平は、劇映画のみならずドキュメンタリーの名匠として知られている。その精神の根底には、徹底した人間観察への取り組みがある。映画の歴史が100年を超え、デジタル技術の革命的進化にともない、映画の表現方法の選択肢はすでにジャンルを超え多様なものとなっているが、骨太な人間観察の精神が優れた映画の基底にあることを忘れてはならない。本演習は、短編ドキュメンタリーの制作を通して、映画制作フローの多様性を学び、取材対象者の交流を深めながら、学生自らの人間観を広げ、さらには現実を生きる人間を活写することの困難さ、人間に相対することの面白さを体得し、学生自らの映画ビジョンを深めるものとする。</p>							
到達目標	<p>■ドキュメンタリー映画制作に必要な基礎的な技術の習得 ■ドキュメンタリー映画の多様性を知る ■短編制作の作業の流れを体験する</p>							
授業計画	週数	内容						
	1	<p>■「企画会議」課題企画書の提出と検討 受講する全学生、指導担当の全講師が集い、提出されたすべての企画書を担当学生がプレゼンテーションし、全員で批評し、企画の可能性や課題を明らかにし、追加取材調査の作業の指針を探る。 ※課題：企画書更新</p>						
	2	<p>■「企画会議」+班編成(7人編成) 更新した企画書を担当学生がプレゼンテーションし、全員で批評しながら、個人企画の共通性を勘案して制作班を編成する。編成された班毎に協議し、企画を一本化するとともに作業分担を図る。取材対象者の許諾書を得た段階で企画書を仕上げ、指導講師の承認を得た上で撮影を開始する。撮影に際しては、技術指導(撮影シミュレーション)を受講する。</p>						
	3	<p>■撮影① 撮影課題毎に技術指導(撮影シミュレーション)を受講した上で撮影する。撮影されたラッシュは指導講師とともにチェックし課題を明らかにしながら、撮影日程を調整する。インタビュー撮影を先行させることが望ましい。インタビューは撮り後編集システムの特講を受講し、速やかに素材タイムライン作成・カット表作成・文字起こし。</p>						
	4	<p>■撮影② 撮影課題毎に技術指導(撮影シミュレーション)を受講した上で撮影する。撮影されたラッシュは指導講師とともにチェックし、作品の主題を吟味し構成を組み立てる。構成に基づき追加撮影課題を明らかにして日程内に撮り終える。撮り後速やかに素材タイムライン化し、カット表作成、文字起こし。</p>						
	5	<p>■編集① 素材タイムラインからのOK出し・シーン仮組み・仮構成・仮編集・編集試写を繰り返しながら作品を錬成する。</p>						
	6	<p>■編集② 同上</p>						
	7	<p>■編集③+整音+カラーグレーディング 本編集を完了させ、音声レベルの調整、音質の調整等を行い、カラーグレーディングを行う。</p>						
	8	<p>■編集④+整音+カラーグレーディング 本編集を完了させ、音声レベルの調整、音質の調整等を行い、カラーグレーディングを行う。</p>						
	9	<p>■合評会 大教室に全学生、全講師が集い作品上映。上映後、担当学生が所感を述べ合評する。 ■総括 指導講師と学生が会し各々の作品の成果や課題を討議する。※課題レポート「制作をふりかえって」</p>						
授業外学習	■制作課題:ドキュメンタリー映画企画書作成 ■取材調査							
教科書	—							
主要参考書	『日本映画大学で実践しているドキュメンタリー映像制作の作法』(玄光社)、『ドキュメンタリー・ストーリーテリング―「クリエイティブ・ノンフィクション」の作り方』(フィルムアート社)、『映像の発見』(清流出版)、『ドキュメンタリーの修辞学』(みすず書房)、『ヨコハママミー:かつて白化粧の老娼婦がいた』(河出書房新社)							
評価方法	分担した役割への取り組み(40%)。合評会での主張(20%)。個人課題への取り組み(20%)。授業に参加する姿勢(20%)。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
撮影照明基礎演習					さの てつろう、新家子 美穂 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	前期	F(その他)	新百合
履修条件	撮影照明コース							
授業概要	撮影・照明についての基礎知識を実際の機材を座学と実機も使って学習する。光の表現とコントロールを学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> * 露出・照明比・色温度の特性を理解する。 * 共同作業の重要性を理解する。 * フレーム感覚の習得する。* 演出と撮影(照明)の関わりを理解する。 * 技術と同等に思考・思想があることを理解する。 							
授業計画	週数	内容						
	補講	技術部(撮影、録音、編集)共通授業 映像作りの技術セッションに携わる人間にとって最低限知っておいた方がよい項目を、撮影・録音・編集それぞれの分野について学ぶ。						
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影・照明コース授業説明 ・撮影現場における撮影照明の役割 						
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・露出講義。撮影駒数とシャッター開角度と絞り 						
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・入射光式、反射光式メーターの使い方 ・グレーチャートの仕様概念と比率 						
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影・照明機材と特機類の取扱い 						
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・光の色と種類と角度と質、その役割 ・フレームにおけるサイズの基本 						
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講師による講義 						
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・残した授業を補う 						
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・残した授業を補う 						
授業外学習	スチールカメラで様々な自然光線での風景などを撮影し、検証してみる。スマホアプリなどを使って動画の撮影・編集をする。							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「映画TV技術手帳」映画テレビ技術協会 「35 / 16mm FILM CAMERAS MANUAL」映画テレビ技術協会 「映画撮影術」フィルムアート社 「カメラ アシスタント マニュアル」翻訳 西田和憲 / 日本映画撮影監督協会 「撮影・VFX/CG アナログ基礎講座」古賀信明著 スペシャルエフエックススタジオ							
評価方法	○授業への参加態度 90/100 poi ○コミュニケーション能力 70/100 ○知識の理解度 60/100 ○機材運用等の習熟度 80/100 ○仕上げ作業への参加態度 70/100 ○撮影技術等への探究心 60/100							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
録音基礎演習					若林 大介、弦巻 裕 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	前期	F(その他)	新百合
履修条件	録音コース。							
授業概要	「映画制作基礎演習」を経て、録音を学ぶことを志した学生のための専門基礎科目である。映画における音の役割と、現場からポストプロダクションまで関わる録音技術者の仕事の流れ、つまり、映画における音の役割、録音とは何か、ミキシングとレコーディング、アフレコの技術等を一通り解説しなぞる。DAW(Protools)やスタジオの使い方を学んでいく。今後の演習・実習においては、この授業を修了したもののみが録音機材を操作することができる。							
到達目標	音とは何か？その物理的性質を理解する。 録音技術の基本を理解すると共に、マイクロフォンと録音機の基本的な仕組みを理解し、映画録音に最低限必要な機材の使い方を身につける。 スタジオの仕組みを理解し、簡単なアフレコ・フォーリー・ダビング作業を行えるようにする。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	技術部(撮影、録音、編集)共通授業 映像作りの技術セクションに携わる人間にとって最低限知っておいた方がよい項目を、撮影・録音・編集それぞれの分野について学ぶ。 録音については、映画における音の役割、録音のワークフローと現場録音の解説、映画の音の遍歴、映画の音の三要素など。						
	2	録音コース専門授業 録音を担当する人間にとって 音とは何か？録音とは何か？ マイクの仕組み&レコーダーとは？&ケーブルの仕組み						
	3	録音コース専門授業／撮影・録音合同現場演習①-準備～撮影 技術部にとっての脚本の読み方 現場機材講義 機材準備 撮影準備						
	4	撮影・録音合同現場演習②撮影 機材セッティングとアームオペレート／現場でのミキシングとレコーディング						
	5	撮影・録音合同現場演習③-仕上げ～スタジオ特講 音声素材の管理 編集ゼミとの素材受け渡し スタジオでの音声の基準のとりかた DAW[デジタルオーディオワークステーション]の基本 いい音とは何か？						
	6	撮影・録音合同現場演習④-オールラッシュ〜整音 アフレコスタジオでの録音／効果音&フォーリーの録音 編集部からの素材の受け取り／台詞の整音						
	7	撮影・録音合同現場演習⑤-仕上げ整音〜ダビング仕込み アフレコスタジオでの録音／効果音&フォーリーの録音 編集部からの素材の受け取り／台詞の整音						
	8	撮影・録音合同現場演習⑥-仕上げ～ダビング 素材のミックス(ミックスダウン) 総括						
授業外学習	最近10年ほどの米国アカデミー録音賞、日本アカデミー録音賞、毎日映画録音賞の作品の中から数本を選んで鑑賞し、作品の中で音がどのような役割を果たしているかを考える。							
教科書	「映画録音技術」日本映画・テレビ録音協会発行							
主要参考書	書籍 はじめての人のための電気の基本がよ〜くわかる本 (発行 秀和システム 1200円+税)							
評価方法	専門授業でのミニテスト 20% 撮影・録音合同現場演習での技能の到達度の評価 40% 仕上げにおけるスタジオ作業での技能到達度による評価 40%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
編集基礎演習					大永 昌弘 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	前期	F(その他)	新百合
履修条件	編集コース。							
授業概要	「映画制作基礎演習」を経て、編集を専攻することを志向した学生のための基礎講座である。映画における編集の重要性を認識するために編集の発生や成り立ちを把握し、基礎知識を身に着けつつ、技術的作業に要する道具・機材の取り扱い方を身に着け、さらに実験的にモンタージュしてみる。							
到達目標	編集の発生や成り立ち、様々な編集技術の基礎を知り、初めて「編集」を意識して映像を組み立てる思考を得、体験をする。							
授業計画	週数	内容						
	補習	編集・撮影・録音(技術3コースでの共通授業である) 1)1年次の映画制作基礎演習の復習をする。 その経験と編集に関するさまざまな資料をもとに「映画編集」について考える。 2)編集の歴史についての講義と作品分析 3)モンタージュとは何か、様々な編集技法についての講義						
	1	デジタル編集の基礎授業①(システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ) *個々のプロフィール映像を作成してみる						
	2	デジタル編集の基礎授業②(システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ) *個々のプロフィール映像を作成してみる						
	3	デジタル編集の基礎授業③(システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ) *個々のプロフィール映像を作成してみる						
	4	デジタル編集の基礎授業④(システムの理解・データ管理・編集機操作などを学ぶ) *ワークフローの理解を深める						
	5	技術3コース(撮影・編集・録音)が合同で演習をする① ……編集						
	6	技術3コース(撮影・編集・録音)が合同で演習をする② ……編集						
	7	技術3コース(撮影・編集・録音)が合同で演習をする③ ……ダビング						
8	技術3コース(撮影・編集・録音)が合同で演習をする③ ……上映・検証							
授業外学習	授業で紹介された作品・引用された作品は観ておくこと。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	受講姿勢・態度(60%)、デジタル編集基礎の理解度(30%)、合同演習における成果物評価(10%)をみて総合的に評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
雑誌制作					大澤 信亮、藤田 直哉 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	前期	F(その他)	白山
履修条件	文章系選択者。							
授業概要	文章系に進んだ学生が、脚本コースと文芸コースに分かれる前に、合同で活字出版の基本を身につけることを目的としている。文章を活字として世に問うためには、思ったことを自由に発表できるネットとは違い、様々な手続きおよび、それに伴う責任が要求される。この講義では、雑誌の制作を体験することで、将来文章を書いていこうと考えている受講生に不可欠の、出版の基本的なルールを実践的に学ぶ。また、このプロセスを学ぶことは、4年次の卒業制作の文集制作にも関係してくる。原則として企画ごとにチームで動くため、個人の怠慢や勝手は許されない。また、授業時間外での宿題(持ち帰りの作業)が多くなることが想定される。							
到達目標	雑誌刊行の基本的な進捗を身につける(企画立案、原稿執筆、原稿依頼、テープ起こし、まとめ、校正、など)。							
授業計画	週数	内容						
	1	オリエンテーション:スケジュール確認、合宿前準備課題						
	2	合宿:企画会議、企画決定、表紙案決定、役割分担						
	3	編集会議:台割決定、進行確認 制作:個人原稿の執筆、企画原稿の進行(対談・インタビュー等の収録・起こし・まとめ)						
	4	編集会議:進行確認 制作:個人原稿の執筆、企画原稿の進行(対談・インタビュー等の収録・起こし・まとめ)						
	5	編集会議:進行確認 制作:掲載原稿(個人、企画)の締め切り						
	6	編集会議:進行確認、ページ数確定 制作:表紙完成、掲載原稿の完成						
	7	編集会議:進行確認 制作:校正作業、編集後記執筆						
	8	入稿(最終的な入稿とゲラの刷り出し)						
授業外学習	授業開始前に行うゼミ(4月と5月の各1日を予定)に参加すること。 雑誌制作期間中、小説やエッセイの書き方についての実践的な小講座を、授業と連動するかたちで行う。授業開始直後に合宿を行う(予定)。							
教科書	とくになし。							
主要参考書	とくになし。							
評価方法	制作物貢献度(50%)、授業貢献度(50%)。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
演出基礎演習Ⅱ〈ワンシーン〉					緒方明 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	演出系。ガイダンスに参加し、教員の撮った作品を出来る限り観賞しておくこと。							
授業概要	映画の基本である「物語を映像で語る」とはどうか。 人間の行為、出来事、感情を簡単なテキストや脚本を基に映像化していく実習。 合わせて、ロケハン、美術準備、演技指導、カット割りも演習を通して体得する。							
到達目標	シナリオの読解力を含め、演出の基本要素である演技・カット割りの能力を身につける。							
授業計画	週数	内容						
	1	ゼミ内オリエンテーション…「物語を映像で語る」ために、自分の周りにあるものを被写体としてとらえてみる。						
	2	配置演出①②…横位置と縦位置の構図の考察と実践。発表と検証。						
	3	配置演出③…3人の配置の考察と実践。発表と検証 ワンシーン実習①…映像を物語に変換する〈スチール編〉発表と検証。						
	4	ワンシーン実習②…映像を物語に変換する〈動画編〉準備。						
	5	ワンシーン実習②…物語を映像に変換する〈動画編〉準備・撮影・編集・発表・検証。						
	6	シミュレーション実習…指導監督・カメラマンのもと学生がスタッフになり映画を作成。 班編成・準備。						
	7	シミュレーション実習 準備・撮影						
	8	シミュレーション実習…編集・発表。 配置演出④…配置の変化の考察と実践。合評。検証授業。						
授業外学習	講師に指定された作品、脚本を精読しておく。							
教科書	—							
主要参考書	「複眼の映像」橋本忍・「ドラマ脚本の書き方」森治美							
評価方法	講義・実習・共同作業へ積極的に参加する姿勢〈50%〉講義・実習内容を理解・習得し実践する力〈40%〉レポート〈10%〉							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
撮影照明専門演習					さの てつろう、新家子 美穂 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	撮影照明コース							
授業概要	デジタルシネマ技術の特性を解説し、短編映画を制作する							
到達目標	*撮影照明の役割を理解し習得した技術を作品に反映できる。機材の運用が的確にできる。 *演出との関わりを深く理解し撮影現場の運営がスムーズにできる。							
授業計画	週数	内容						
	1	・デジタルシネマ基礎知識① ～技術解説						
	2	・デジタルシネマ基礎知識② ～実践 ・3～5週目に行われる、デジタルシネマカメラを使用しての映像作品の為に、撮影スタジオで照明を学ぶ						
	3	・「ショートドラマ映像作品」の制作 ～企画・準備（完成尺10分程度） 与えられたテーマに基づいて企画を考え、ロケハン等の準備を始める						
	4	・「ショートドラマ映像作品」の制作 ～準備						
	5	・「ショートドラマ映像作品」の仕上げ作業への参加 ・技術レベルのスキルアップを図る為、テーマを決めて短編映画の制作をする						
	6	・「ショートドラマ映像作品」の仕上げ作業への参加 ・技術レベルのスキルアップを図る為、テーマを決めて短編映画の制作をする						
	7	・「ショートドラマ映像作品」の仕上げ作業への参加 ・スキルアップ短編映画の制作 ～撮影						
	8	・「ショートドラマ映像作品」の仕上げ作業への参加 ・スキルアップ短編映画の編集から上映						
授業外学習	*デジタル一眼レフや動画撮影のできるデジタルカメラを使って様々な光線下で撮影・検証してみる *メーカー・機材会社などの各ワークショップへの参加 *ドキュメンタリー映画・劇映画の鑑賞分析							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「映像撮影ワークショップ」板谷秀彰・著/玄光社 MC 「新版 映像ライティング」桜井雅章・著/玄光社 MC 「デジタルムービー実践ガイドブック」玄光社 「デジタルシネマカメラ完全攻略」玄光社							
評価方法	○授業への参加態度 90/100 poi ○コミュニケーション能力 70/100 ○知識の理解度 60/100 ○機材運用等の習熟度 80/100 ○仕上げ作業への参加態度 70/100 ○撮影技術等への探究心 60/100							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
録音専門演習					若林 大介、弦巻 裕 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	録音コース。							
授業概要	効果音やフォーリーの造詣を深める。スタジオワークを学び、仕上げ作業の流れをしっかりと学ぶ。プレイバック撮影(音に合わせた撮影)のやり方を学ぶ。PA(パブリックアドレス)、現場での収録、ブームオペレータを学ぶ。サラウンドでの作品制作をするための基礎を学ぶ。音声のみでの作品(音声ドラマ)を作成、シナリオの準備から収録、仕上げを学ぶ。							
到達目標	スタジオワークを学ぶ。フォーリーで狙った音が収録できるように技術習得を目指す。効果音ライブラリーを積極的に使えるようにする。プレイバック実習では、現場での音出しやブームオペレータ及び現場でのミックスを学ぶ。音声のみで他者へ物語を伝える事の難しさを学ぶ。							
授業計画	週数	内容						
	1	効果音、フォーリー/アニメーションの音声制作① フォーリーアーティストによる特別講義を経て、既存のアニメーションに1から音を付けていく演習。						
	2	効果音、フォーリー/アニメーションの音声制作② アニメーションのアフレコ、フォーリー作業						
	3	効果音、フォーリー/アニメーションの音声制作③ アニメーションのフォーリー作業及び仕込み、ミックス作業						
	4	3科合同プレイバック実習①/準備・撮影 撮影部・編集部と合同。 プレイバック撮影(音に合わせた撮影)の方法を学ぶ。						
	5	3科合同プレイバック実習②/撮影～編集 ミックス 撮影部・編集部と合同。 プレイバック撮影(音に合わせた撮影)の方法を学ぶ。						
	6	音声ドラマ制作① 自分たちで準備を重ねてきた企画及び台本を元に10分～20分程度でサラウンド音声ドラマを制作する。 企画に基づいてアフレコや効果音収録を行う。						
	7	音声ドラマ制作② 自分たちで準備を重ねてきた企画及び台本を元に10分～20分程度でサラウンド音声ドラマを制作する。						
	8	音声ドラマ制作③ 自分たちで準備を重ねてきた企画及び台本を元に10分～20分程度でサラウンド音声ドラマを制作する。 仕込み、ミキシングを行い各班発表を行う。						
授業外学習	「映画録音技術」日本映画・テレビ録音協会発行の技術書を熟読する。							
教科書	「映画録音技術」日本映画・テレビ録音協会発行							
主要参考書	—							
評価方法	各週、定期的にミニテストを行う。またアニメ音付け、音声ドラマ制作においてはその作品内容を評価する。プレイバック実習は実習への参加姿勢を評価する。各評価項目の最終成績に占める割合は、ミニテスト 10%、アニメ音付け 30%、プレイバック実習 20%、音声ドラマ制作 40% 音声ドラマ制作における企画・準備も評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
編集専門演習					大永 昌弘 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	編集コース。デジタル基礎の応用、それぞれの役割を体験し、課題を整理しておくこと。							
授業概要	「編集基礎演習」での課題を検証し、さらに高度な技術課題について演習する。							
到達目標	デジタル編集基礎を踏まえて短編作品を作ったり映像作成ソフトの使い方を学ぶ。 他の技術パートとの関連性の深さを知る事で、創作のありかたや編集の重要性を学ぶ。							
授業計画	週数	内容						
	1	完成尺30分程度のドラマ素材を用いて編集をする。(フィルム編集)						
	2	完成尺30分程度のドラマ素材を用いて編集をする。(フィルム編集)						
	3	完成尺30分程度のドラマ素材を用いて編集をする。(フィルム編集)						
	4	技術三科合同実習						
	5	技術三科合同実習						
	6	完成尺30分程度のドラマ素材を用いて編集をする。(デジタル編集)						
	7	完成尺30分程度のドラマ素材を用いて編集をする。(デジタル編集)						
	8	Photoshop/Illustratorの使い方を学ぶ。						
授業外学習	多様なデジタル編集に対応できるよう、編集室及び編集機の空いている時間は使用許可を貰い練習をかさねること。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	受講姿勢・態度(60%)、デジタル編集基礎の理解度(30%)、成果物評価(10%)をみて総合的に評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
インプロビゼーション演習					斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	2	後期	F(その他)	新百合
履修条件	文章系。ガイダンスに参加して、課題のプロットを執筆しておくこと。							
授業概要	この授業は脚本に重きをおいて行う。あらすじを元にインプロビゼーション(即興)で学生自ら演じることによって、ドラマの発生、台詞の発生を主観で体験する。頭で書いた物語が実際に生身で動いてみると感情に無理があったり、展開に無理があったりすることを、その都度直しながら撮影し、完成させる。その完成作品を今度は文字に起こし、それを元に脚本直しをすることで、客観的に展開を文字で考え直す。そのうえで主観と客観の差を知り、脚本を書く上での考え方の基本を学ぶ。さらに出来上がった脚本をプロの俳優に演じてもらい作品を作ることで、自分の書いた物を他者に伝えること、主観で感じた感情を外(観客)に見せるにはどうすればいいのかと、という演出面で方法論を学ぶ。							
到達目標	頭だけではなく、心と身体を使って脚本を書くことで、映画における表現方法を学ぶ。「脚本専門演習Ⅰ〈短編映画制作〉」に向けての現場的役割を習得する。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	提出したプロットを全体及び個人面談で直しを繰り返し、撮影するプロット選び、撮影での役割を決める。						
	2	選ばれたプロットを元にロケハン、衣装決め等を監督に選ばれた者を中心に行う。						
	3	一日ワンシーン、計4日間をかけて撮影をおこなう。(実習①)						
	4	撮った素材を編集でつなぎ、一度編集ラッシュの講評を受けてさらに編集を直していく。						
	5	出来上がった作品の合評を聞き、それを元に各自採録シナリオに起こし、撮り上がった作品において何がたりなかったか、等を考えてシナリオを作る。						
	6	書き上げたシナリオの講評をマンツーマンでおこない。シナリオを直す。それを計3回おこなう。						
	7	書き上げたシナリオの全体合評を行い、次に撮影する脚本を選び、役割を決める。選ばれた脚本を元にロケハン、美術、衣装などの準備をする。キャストに関しては、プロの俳優事務所をお願いして、キャスティングをもらう。						
8	衣装合わせ、リハーサルの後4日間の撮影を行う。(実習②) 編集・MAの後、発表会をおこない、作品解析をする。							
授業外学習	撮影のための準備、シナリオの執筆等。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	実習①における姿勢(30%)、脚本及び脚本直しの成果(50%)、実習②における姿勢、成長度(20%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
演出専門演習〈3分エチュード〉					熊澤 誓人 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	ドラマの本質(ドラマツルギー)、映像表現、モンタージュ論、コンテニューティ(撮影計画)を一通り理解していること。ガイダンスに出席し、授業の狙いを理解した上で、ドラマの本質(ドラマツルギー)、映像表現、モンタージュ論、コンテニューティを考慮した3分間ほどのワンシーン演習用シナリオ(200字詰め原稿用紙8枚以内見当)を執筆、提出すること。(登場人物は3人とすること。)							
授業概要	履修学生が、一人1本、3分間の作品を企画開発・脚本執筆・監督することにより、映画演出の概念(脚本創作・脚本の解釈[テーマの掴み・関係性の確保]・ドラマの本質・主人公の在り方・テーマ性の強調・芝居の付け方・間接表現・説明描写の排除、等々)と、映画リテラシー(映画を批評・分析し、且つ創作出来る能力)を体得する。また、履修学生が8人×3班に分かれ、一人一人が8本の作品を準備、撮影、ポストプロダクションまで色々な役割でスタッフワークすることにより、映画制作のノウハウを復習し、合同制作および卒業制作に備える。チームプレイの大切さを学び、チームに貢献できる性格を育成する。							
到達目標	映画演出の概念(脚本創作・脚本の解釈[テーマの掴み・関係性の確保]・ドラマの本質・主人公の在り方・テーマ性の強調・芝居の付け方・間接表現・説明描写の排除、等々)と、映画リテラシー(映画を批評・分析し、且つ創作出来る能力)を体得する。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	脚本推敲並びに完成、技術特講:デジタル撮影基礎のワークショップ 準備1:スタッフ編成、キャスティング打ち合わせ、衣裳・小道具打ち合わせ、ロケハンなど						
	2	準備2:ロケハン・撮影スケジュール作成、キャスティング、美術打ち合わせなど						
	3	準備3:衣小合わせ、本読み立ち稽古、総合スケジュール完成、オールスタッフ打ち合わせなど						
	4	「撮影A班」「撮影B班」「撮影C班」:リハーサル、撮影計画(コンテニューイティ)の微調整、及び撮影						
	5	「撮影A班」「撮影B班」「撮影C班」:リハーサル、撮影計画(コンテニューイティ)の微調整、及び撮影						
	6	「撮影A班」「撮影B班」「撮影C班」:リハーサル、撮影計画(コンテニューイティ)の微調整、及び撮影						
	7	仕上げ(ポスト・プロダクション)の開始 編集及び編集ラッシュ・セミ・オールラッシュ、効果アフレコ						
	8	仕上げ(ポスト・プロダクション) 編集及びオールラッシュ、作品完成						
	9	仕上げ(ポスト・プロダクション) 編集及びオールラッシュ、作品完成						
10	合評会(作品上映と講評)、作品解析							
授業外学習	1年生から行なった実習の全行程、授業内容を反芻しておくこと。過去の3分間エチュード実習の作品を観て、撮影シミュレーションなどを立ててみる。3年次までに自分がかかわった実習の脚本を分析し、実際に出来上がった映画とを比較し、脚本を立体化するということを反芻しておく。							
教科書	過去の3分エチュードシナリオ及び作品							
主要参考書	『複眼の映像』(橋本忍著)、『「感情」から書く脚本術』(カール・イグレスias著)、『ドラマ脚本の書き方』(森治美著)、『ストーリー工学「物語」を「創る」』(川邊一外著)など							
評価方法	授業姿勢・熱意(80%)、作品評価(20%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
身体表現専門演習					天願 大介 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	身体表現・俳優コース。							
授業概要	俳優としての基本態度を学びながら、演劇作品を作り上演する。							
到達目標	俳優としての基本態度、技能の発見。							
授 業 計 画	週数	内容						
	1	舞台の基本学習 戯曲の読み方						
	2	戯曲を読む①						
	3	戯曲を読む②						
	4	立ち稽古① スケジュールの確定						
	5	立ち稽古②						
	6	立ち稽古③ 小道具集め						
	7	諸準備と稽古① 美術制作 衣装集め 小道具制作						
	8	諸準備と稽古② 美術制作 舞台作り						
	9	通し稽古 照明プラン 音響プラン 上演						
授業外学習	舞台を見ておくこと 肉体訓練を続けること							
教科書	特になし							
主要参考書	講義内で配布							
評価方法	受講態度(補習も含む) 90%、レポート 10%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
ドキュメンタリー専門演習 I					安岡 卓治、島田 隆一 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	10	3	前期	F(その他)	白山
履修条件	ドキュメンタリーコース。							
授業概要	<p>すべての人にドラマがあるように、すべての街にそのドラマの背景がある。自らが暮らす街をどのように見ているだろうか？ 海外や遠隔地に出向かなくても、映画のフィールドは足元にもある。自らが暮らす街を発掘してみよう。題して、『君の住む街』。一言で“街”を描くと言っても、その手法は様々である。風景のみで描く作家もいれば、インタビューのみで描き切る作家もいるだろう。今回は“街”を描く上で1つの対象を選びだし、最適なナラティブ(語り口)を考え出すことから始めたい。インタビューや仕事風景、また取材対象者の日常を切り取り、映画言語を獲得することを目的としている。未知の場所、未知の人々を取材対象とすることによって、実践的に撮影を学習する。さらに、その映像を編集仕上げすることで、自らの課題を洗い出し、合評を通して、何が伝わり、何が伝わらなかったかを厳しく問い返す。</p>							
到達目標	<p>■ドキュメンタリー撮影のワークフローの習得 ■インタビューワークの習得 ■取材・構成・編集ワークの体得</p>							
授業計画	週数	内容						
	1	<p>【企画プレゼンテーション】 演習内容の提示。参考作品の試写。風景論講義～『交差』(監督:大引勇人)に観る風景～班編成。</p>						
	2	<p>【撮影特講】 ①インタビュー撮影演習 ②技術ワークショップ 【企画プレゼンテーション】 ①街を決める ②調査 ③企画書制作 ④企画プレゼンテーション(取材対象候補者についての概説)⑤参考作品『世界の夜明けから夕暮れまで』</p>						
	3	<p>【撮影】 ①インタビュー撮影(1)(ロケ後に撮影内容の検証、文字起し、インタビュープランの再構築) ②インタビュー撮影(2)(前項で確認した課題に基づき、再度インタビュー撮影を行う) ③実景・生活・ワーキングシーンの撮影(1) 映像で物語るためのショットを撮るために ④実景・生活・ワーキングシーンの撮影(2) 映像で物語るためのショットの構成要素</p>						
	4	<p>【編集Ⅰ】 ①撮影内容の解析(1):全カット表作成。インタビュー文字起し ②撮影内容の解析(2):主要な構成要素を検証 ③OK出し:主要な構成要素を支えるカット、手応えのあるカットなどを抽出 ④構成案の策定:OKカットを有効に生かす構成を模索する</p>						
	5	<p>【編集Ⅱ】①構成案の検証:「仮構成案」をもとに主要なカットを実際に確認しながら検証する ②編集演習①:ノンリニア編集システムの基本操作の復習 ③編集演習②:ドキュメンタリー編集におけるノンリニアシステムの使用法 ④編集演習③:ノンリニアシステムにおける音声編集操作とテロップ作成操作</p>						
	6	<p>【編集講評】</p>						
	7	<p>【編集Ⅲ】 ①構成の検証:編集講評で洗い出された構成の問題点について検証する ②再構成:シーンの移動や変更、OK外のカットの洗い出しなど抜本的な再構成を模索する</p>						
	8	<p>【編集Ⅳ】 ①構成の検証:編集講評で洗い出された問題点を検証する ②ディティールの追求:細部の点検と補正 ③本MA:デジタル音響システムによる音の最終仕上げ</p>						
	9	<p>【合評会】 レポート作成</p>						
授業外学習	<p>■文献・ネットによる予備取材 ■企画案策定 ■構成案・編集プランの策定</p>							
教科書	—							
主要参考書	<p>「日本映画大学で実践しているドキュメンタリー映像制作の作法」玄光社、「ドキュメンタリーとは何か—土本典昭・記録映画作家の仕事」、「映画は生きものの仕事である—私論・ドキュメンタリー映画」未来社、「映画の瞬き—映像編集という仕事」フィルムアート社、「映画もまた編集である—ウォルター・マーチとの対話」みすず書房、『薄墨の桜』(羽田澄子)、『JUNK CITY』(クリス・マルケル)、『略称・連続射殺魔』(足立正生)</p>							
評価方法	<p>分担した役割への取り組み(40%)。合評会での主張(20%)。個人課題レポートへの取り組み(20%)。実習に参加する姿勢(20%)</p>							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
技術合同演習(撮影照明コース)					さの てつろう、新家子 美穂 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	撮影照明コース							
授業概要	撮影・照明 技術への理解を深める。 ライティングの理解と的確なフレーム作りの習得。							
到達目標	*映画の撮影・照明の役割を理解し習得した技術を作品に反映できる。他パートと連携しながらの作品制作ができる。 *卒業制作に向けて演出との関わりを深く理解し撮影現場の運営がスムーズにできる *技術と同等に重要な思考・思想があることを理解する							
授 業 計 画	週数	内 容						
	補講	・2年時に学んだ知識の復習						
	1	・2年時に学んだ知識から更に専門的な知識を学ぶ ・デジタル技術の基本と復習						
	2	・デジタル技術の復習と応用 ・デジタルカメラ機材の取り扱い						
	3	・ライティング基礎知識の応用①						
	4	・ライティング基礎知識の応用②						
	5	・人物照明とコントラスト①						
	6	・人物照明とコントラスト②						
	7	・人物の撮り方、フレームの作り方①						
	8	・フレームの授業② *①と②は同じ事を半々の人数で2回です。3密の為。						
9	・特別講義							
授業外学習	*様々な光線下で撮影・検証してみる *メーカー・機材会社などの各ワークショップへの参加 *ドキュメンタリー映画・劇映画の鑑賞分析							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「映像撮影ワークショップ」板谷秀彰・著/玄光社 MC 「新版 映像ライティング」桜井雅章・著/玄光社 MC 「デジタルムービー実践ガイドブック」玄光社 「デジタルシネマカメラ完全攻略」玄光社							
評価方法	○授業への参加態度 90/100 poi ○コミュニケーション能力 70/100 ○知識の理解度 60/100 ○機材運用等の習熟度 80/100 ○仕上げ作業への参加態度 70/100 ○撮影技術等への探究心 60/100							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
技術合同演習(録音コース)					若林 大介、弦巻 裕 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	録音コース。							
授業概要	録音ゼミ、撮影ゼミ、編集ゼミ合同による15分程度の作品制作。 監督はプロの演出家に依頼。技術部としてプロの演出家にどう相對し作品と向き合うかを学ぶ。 また、映画音楽について理解を深め、5.1サラウンドでの映画の音作りを学ぶ。							
到達目標	プロの監督とどう相對するのか、その姿勢や制作態度を学ぶ。 ガンマイクでの収録に於いて、マイクの特性を理解し、映像に応じた音を録るためには、適切な位置にマイクを配置する事が重要である事を理解する。 サラウンドの基礎を理解し、作品に応用する。 電気音響の基礎を理解し、デシベルなどの単位を実践的に使えるようにする。 デジタル録音の概念を理解する。セリフ・効果音・音楽の担当者が協同して作品を完成させる事を実践的に理解する。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	映画音楽 映画音楽の作曲家による授業。 一本の映画がどのような音楽で構成されているかを分析・学習。 現場機材習熟① 現場機材・レコーダー・マイク・仕込み機材の習熟を図る。						
	2	現場機材習熟② 現場機材・レコーダー・マイク・仕込み機材の習熟を図る。 PA機材や様々なマイクなどを使用。 3科合同演習 制作準備						
	3	3科合同演習 制作準備 撮影、編集と合同で監督を招き、録音部として映画に携わる。 スタッフ編成、キャスティング、ロケハン、美術、衣装合わせ、機材チェック、カメラテスト、シンクロテスト、メインロケハン、リハーサル、 撮影スケジュールの決定 録音機およびマイクの取り扱い方 マイクアレンジの基本、映像に即したマイクアレンジの仕方						
	4	3科合同演習 制作準備&ラッシュ リハーサル、撮影スケジュールの決定						
	5	3科合同演習 撮影&ラッシュ 映像に合わせた台詞の整音と音構成 音構成に合わせた音集め						
	6	3科合同演習 仕上げ 編集期間 ラッシュ&アフレコ&音ロケ 映像に合わせた台詞の整音と音構成 音構成に合わせた音集め						
	7	3科合同演習 仕上げ 編集のFIX&オールラッシュ ダビング打合せ&音楽打合せ&フォーリー&音楽&音の仕込み 映像に合わせた効果の収録 音楽の収録や選曲 ならびに収集した音の貼り付けなど						
	8	3科合同演習 仕上げ:音作業 フォーリー&ダビング仕込み 音の完成作業(ダビング)に向けた最終調整						
	9	3科合同演習 仕上げ:音作業 ダビング仕込み&ダビング 音の完成作業(ダビング)に向けた最終調整 発表(上映)と合評&作品総括、技術総括						
授業外学習	課題作品の音楽分析を行う。音楽の曲数、バリエーションの数を調べ、また音楽がそのシーンでどのような意味や目的を持って使われているかを考える。 前期実習で使う録音機 ZOOM F4のマニュアルを読み、録音機の機能と使用方法を理解すると共にマニュアルを読む力を身につける。 プロツールズのマニュアルを読む。完全に理解する必要は無く、どの部分にどのような内容が書かれているかを大雑把に把握する。							
教科書	「映画録音技術」(発行(協)日本映画・テレビ録音協会。金額3300円)							
主要参考書	書籍 はじめての人のための電気の基本がよ〜くわかる本 (発行 秀和システム 1200円+税)							
評価方法	1週目にミニテストを行う プレイバック撮影の理解度 10% 2週目以降は準備段階、撮影段階、仕上げ段階ごとに映画制作への積極的な参加の姿勢。作品と撮影行為の理解力。授業項目の理解度。技術への関心度。共同作業でのコミュニケーション能力などを指導教師が話し合い評価する。 準備段階 30%、撮影段階 30%、仕上げ段階 30%							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
技術合同演習(編集コース)					大永 昌弘 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	編集コース。							
授業概要	撮影照明・録音・編集の技術3コースの学生が、プロの監督の下で短編作品の制作を行う。							
到達目標	2年時に学んだ知識と技術を、現場での制作で具現化することにより、3年後期の「合同制作」に向けた実践的な技術を身につける。編集と、演出・撮影・照明や録音との関係について理解を深めるとともに、チームワークの必要性を理解しコミュニケーション能力の向上を図る。							
授業計画	週数	内容						
	1	技術合同演習(準備)						
	2	技術合同演習(準備)						
	3	技術合同演習(準備～撮影)						
	4	技術合同演習(撮影)						
	5	技術合同演習(撮影～仕上げ) 【編集準備】画・音ばらし～組み～【編集】～編集ラッシュ						
	6	技術合同演習(仕上げ) 【編集】～編集ラッシュ						
	7	技術合同演習(仕上げ) 【編集】～編集ラッシュ～ファイナル・カット(オール・ラッシュ)まで 音楽・効果音打ち合わせ～ 編集データの書き出し/カット表作成/コンフォーム						
	8	技術合同演習(仕上げ) グレーディング						
	9	技術合同演習(仕上げ) ダビング準備 技術合同演習(仕上げ) ダビング 0号試写/チェック						
授業外学習	多様なデジタル編集に対応できるよう、編集室及び編集機の空いている時間は使用許可を貰い練習をかかさねること。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	受講姿勢・態度(60%)、デジタル編集基礎の理解度(30%)、合同演習における成果物評価(10%)をみて総合的に評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
脚本専門演習 I 〈短編映画制作〉					斎藤 久志 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	10	3	前期	F(その他)	新百合
履修条件	春休み中に行われる脚本執筆補講に参加する事。							
授業概要	ペラ60枚程度の脚本を執筆して、30分の短編映画を作る。撮影、録音、編集も含めて、全て自分たちでこなし、ロケ場所、美術、小道具に至るまでの細部を作り上げることで映画制作はあらゆることを具体的に置き換えていかねばならないことを学ぶ。その上で脚本に必要なものは何か、字で伝わることと、画で伝えられることの差異を知り、役者の動き、芝居、編集でのモニタージュを複合的に考えてみる。							
到達目標	色々なパートから脚本を読み一本の映画を作りあげることによって脚本が持つ意味を知り、独り善がりではない、他者に伝わる脚本とは何かを学ぶ。							
授業計画	週数	内容						
	1	各自脚本を執筆して、その脚本から制作する作品の脚本を選定する。						
	2	脚本分析及び脚本直し。 制作準備						
	3	キャスティング、ロケハン。 衣装合わせ、リハーサル。						
	4	撮影。						
	5	撮影。						
	6	撮影。						
	7	編集。						
	8	仕上げ。						
9	完成作品の合評。 完成脚本の分析。							
授業外学習	企画開発。及びプロット作成並びに脚本執筆。撮影のための準備。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	脚本執筆及び直しの成果(50%) 実習における熱意や姿勢(50%)							
教員への連絡方法	授業内でMail、電話番号等を直接、学生に教えます。							

科目名					担当者名			
文芸専門演習 I 〈読解・ライティングWS〉					藤田 直哉 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	10	3	前期	F(その他)	白山
履修条件	文章系・文芸コースの学生。							
授業概要	文芸とは、文章による芸術のことだ。映画では多くの才能が集まり、知恵と技術と時間と体力を使って表現することを、文芸では一人でやらなくてはならない。それは孤独であるが、自由である。自由であるがゆえに、何をどう書いていいかの足場が必要だ。本演習では、日本文学の古典を読解し、体感的に理解しながら、「書く」ことを通じて、文学的なセンスと感覚を身に付けていく。							
到達目標	日本文学の味わいを理解する、自分なりの短編小説を書けるようになる。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	創作、読解 I —— 根本昌夫『小説教室』						
	2	創作、読解 I —— 宇佐美りん『推し、燃ゆ』						
	3	創作、読解 II —— 中村文則『土の中の子ども』						
	4	創作、読解 III —— 鴻池瑠衣『ナイス・エイジ』						
	5	創作、読解 IV —— 綿矢りさ『蹴りたい背中』						
	6	創作、読解 V —— 村上春樹『風の歌を聴け』						
	7	創作、読解 VI —— 阿部重『アメリカの夜』						
	8	創作、読解 VII —— 三島由紀夫『仮面の告白』						
授業外学習	毎週一冊は課題の本を読むこと。それぞれの書きたい方向性に応じて個別の課題図書も課すので必ず読むこと。授業時間外でも執筆をすること。良いものを書くために、授業外時間で良い小説をたくさん読み、世界や社会に対する興味関心を磨いてほしい。							
教科書	—							
主要参考書	高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』							
評価方法	授業態度(30%)、積極性(40%)、課題の内容(30%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
合同制作(ドラマ) (演出コース)					熊澤 誓人 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	10	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	演出コース。ドラマの本質(ドラマツルギー)、映像表現、モンタージュ論、コンテニューティ(撮影計画)を一通り理解していること。ガイダンスに出席し、授業の狙いを理解した上で、ドラマの本質(ドラマツルギー)、映像表現、モンタージュ論、コンテニューティを考慮した15分間ほどの短編映画シナリオ(200字詰め原稿用紙30枚以内見当)を執筆、提出すること。							
授業概要	卒業制作に向けた短編映画制作。各専門コースに分かれて学んできた学生が、一本の台本の元集まり各部の主張の中で一つの作品を作り上げるにより、コミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。撮影はデジタル。仕上げはノンリニア編集、完成は5.1サラウンドDCP(デジタルシネマパッケージ)。							
到達目標	演出コースの学生は、映画制作の要として企画、脚本執筆、準備、撮影、演出、制作、仕上げに至るまで作品のテーマ、意図を理解し、それに沿って作品が完成するまで各パートを主導出来るようになる。 他のコースとのチームプレイが出来るようになる。							
授業計画	週数	内容						
	1	脚本選定および脚本直し・制作準備・キャストイング・ロケハンなど						
	2	制作準備 キャストイング、ロケハンなど						
	3	制作準備 スタッフ編成・合流、キャストイング、ロケハンなど						
	4	メインロケハン・美術打ち合わせ・衣小合わせ						
	5	リハーサル、撮影スケジュールの決定、この週の後半より撮影開始						
	6	撮影&ニュー・ラッシュ						
	7	この週半ばで撮影終了&ニュー・ラッシュ。仕上げ準備:仕上げスケジュール作成、基本的に編集部・録音部と共に作品制作にあたる。編集構成打ち合わせ、						
	8	編集・編集部や録音部と打ち合わせを重ね、作品を作り上げる。セミオール						
	9	オールラッシュ、音構成及び音楽打ち合わせ、効果音打ち合わせ、音楽打ち合わせ						
	10	フォーリー・アフレコ						
	11	ダビング(MA)準備						
	12	ダビング(MA)準備						
	13	ダビング(MA)・デジタル出力・0号試写						
14	作品発表会・合評・振り返り							
授業外学習	1年生から行なった実習の全行程、授業内容を反芻しておくこと。過去の合同制作実習の作品を観て、撮影シミュレーションなどを立ててみる。3年次までに自分が関わった実習の脚本を分析し、実際に出来上がった映画とを比較し、脚本を立体化するという事を反芻しておく。							
教科書	過去に自分が携わった実習作品の脚本と完成作品							
主要参考書	—							
評価方法	映画制作への積極的な参加の姿勢(熱意や出席など)、作品と各パートの役割の理解力、授業内容の理解度、技術への関心、共同作業でのコミュニケーション能力などから総合的に評価する。 授業姿勢・熱意(80%)、作品評価(20%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
合同制作〈身体表現Ⅱ〉(身体表現・俳優コース)					中原 俊 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	10	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	身体表現・俳優コース。							
授業概要	①身体基礎訓練 ②「合同制作」への参加 ③テキスト購読 ④日本芸能研究							
到達目標	①映像の中で俳優がどのように貢献できるかを知る ②芸能への理解を深める							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	講義・導入授業(自分を知る)／身体基礎訓練①						
	2	身体基礎訓練②						
	3	合同制作①(シナリオ解析・セット作り)						
	4	合同制作②(シナリオ解析・セット作り)						
	5	合同制作③(キャラクター作り)						
	6	合同制作④(出演とスタッフワーク)						
	7	合同制作⑤(出演とスタッフワーク)						
	8	合同制作⑥(次に向かって)						
	9	日本芸能① < 講談 >						
	10	日本芸能① < 講談 >						
	11	舞台制作 < 裏方の仕事 >						
	12	日本芸能② < 未定 >						
	13	日本芸能② < 未定 >						
14	作品発表会・合評会・振り返り授業							
授業外学習	①課題の練習 ②衣小集め・メイク ③テキストのレジュメ作り・表現方法を考える							
教科書	映像資料・授業内の配布テキスト							
主要参考書	『映画の演技』マイケル・ケイン著 劇書房							
評価方法	合同制作の主体的参加(60%) 身体基礎(15%) 日本芸能(20%) 舞台(5%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
ドキュメンタリー専門演習Ⅱ					安岡 卓治、島田 隆一 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	ドキュメンタリーコース。							
授業概要	ドキュメンタリーのみならず、企画は、作品の概要を伝えるものとして映画制作を準備する上で大きな役割を担っている。台湾の映画監督ホウ・シャオシェンは、「映画は映画以外のものによって作られる」という。この授業では、様々な企画の在り方を講義し、学生自身が立案した企画書を検証しながら、その独自性、先見性、実現性などを探っていく。企画書に表れた様々な取材対象者や出来事へのアプローチ方法、主題の広がりについて論議を深めながら、作品の可能性を追求する。それぞれの企画のディテールから逆照射される作り手自身の在り処を見出すことも大きなねらいである。卒業制作を前提として、ドキュメンタリー制作の過程とスタッフの在り方や役割、主題と手法の在り方を知る。							
到達目標	■卒業制作作品の企画立案							
授業計画	週数	内容						
	1	■企画ワークショップ「企画案のプレゼンテーションと検証①」 ■技術ワークショップ ■作品研究/ゲスト講師講義						
	2	■企画ワークショップ「企画案のプレゼンテーションと検証②」 ■作品研究/ゲスト講師講義						
	3	■講義「ドキュメンタリーの多様性」①個人に内在する主題とデジタルの新たな手法 ②社会を見つめる視点 ③現実から描き出されるもの ④心象描写 ■作品研究/ゲスト講師講義						
	4	■講義「企画論」①主題と構成要素 ②登場人物とアクション ③作品のフォルム ④作品規模と制作規模 ■作品研究/研究発表						
	5	■企画ワークショップ ①各企画の進行報告と合評②意図をつむぐ ■作品研究/研究発表						
	6	■企画ワークショップ ①各企画の進行報告と合評②実証的情報収集 現実を凝視せよ、すべてを疑え ■作品研究/研究発表						
	7	■企画ワークショップ ①各企画の進行報告と合評②登場人物の検証 ■作品研究/研究発表						
	8	■技術ワークショップ ①基礎技術の復習 ②各作品企画に合わせた撮影編集課題への取り組み						
	9	■4年卒業制作合評会						
	10	■企画ワークショップ 企画の検証 ■作品研究/研究発表						
	11	■企画ワークショップ 企画の検証 ■作品研究/研究発表						
	12	■企画ワークショップ 卒制企画班編成						
13	■企画ワークショップ 卒制企画班別指導							
授業外学習	■取材・調査・企画練成 ■作品づくりを前提にした技術研修							
教科書	—							
主要参考書	『ドキュメンタリー・ストーリーテリング—『クリエイティブ・ノンフィクション』の作り方』(フィルムアート社)、『ドキュメンタリーとは何か—土本典昭・記録映画作家の仕事』(現代書館)、『映画は生きものの仕事である—私論・ドキュメンタリー映画』(未来社)、『映画の瞬き—映像編集という仕事』(フィルムアート社)、『映画もまた編集である—ウォルター・マーチとの対話』(みすず書房)							
評価方法	取材調査レポート課題企画書への取り組み(40%)、編成班での担当領域への取り組み(40%)、授業に参加する姿勢(20%)。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
合同制作(ドラマ) (撮影照明コース)					さの てつろう、新家子 美穂 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	10	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	撮影照明コース。「技術合同演習」を履修していること。							
授業概要	脚本があり演出があり演技があり、映画を創作する行程で「背景の選択」「画面構成」「光のコントロール」を計画想像し、どう作品に反映させるか！映画制作を通じて学んでいく。 多くのスタッフ・他パートと関わり作品制作をおこなうことにより、コミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。							
到達目標	*映画制作の多様性を深く理解すること *技術の前に思考と創造があること *撮影・照明技術が作品にとってどのように重要であるかを深く理解すること							
授業計画	週数	内容						
	1	・脚本に基づく撮影の考え方 解説と実践① ・実習ワークフロー講義						
	2	・合同制作の趣旨説明と脚本の配布 ・脚本に基づく撮影の考え方 解説と実践② ・セット美術打合せへの参加						
	3	・演出、録音、編集と合流して、合同制作の準備						
	4	～準備						
	5	～準備・撮影						
	6	～撮影						
	7	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作、企画決定						
	8	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～準備						
	9	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～準備						
	10	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～準備						
	11	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～撮影						
	12	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～撮影						
	13	・合同制作、仕上げ作業への参加 ・CM制作 ～撮影						
14	作品発表会・合評・振り返り							
授業外学習	*関わるシナリオと同系統の小説の解説 *映画作品鑑賞・演劇鑑賞 *様々な光線下における撮影と検証							
教科書	教員作成によるテキスト / 適宜指示							
主要参考書	「映画の文法」ダニエル・アリホン著 / 紀伊国屋書店 「映画の文法/日本映画のショット分析」今泉容子著 / 彩流社 「カメラ アシスタント マニュアル」翻訳 西田和憲 / 日本映画撮影監督協会 「撮影・VFX/CG アナログ基礎講座」古賀信明著 / スペシャルエフエックススタジオ							
評価方法	○授業への参加態度 90/100 poi ○コミュニケーション能力 70/100 ○知識の理解度 60/100 ○機材運用等の習熟度 80/100 ○仕上げ作業への参加態度 70/100 ○撮影技術等への探究心 60/100							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
合同制作(ドラマ) (録音コース)					若林 大介、弦巻 裕 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	10	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	録音コース。							
授業概要	卒業制作に向けた短編映像制作。 各専門コースに分かれて学んできた学生が、一本の台本の元集まり各部の主張の中で一つの作品を作り上げることにより、コミュニケーション能力と多角的視点の習得を目指す。撮影はデジタル。仕上げはノンリニア編集、完成は5.1サラウンドDCP(デジタルシネマパッケージ)。 1年半専門課程で学んだことを主体的に発揮し、作品作りに臨む。 録音コースはガンマイクに加え仕込み用のワイヤレスマイクを使用。多チャンネルでの録音と仕上げでのその処理方法を学ぶ。							
到達目標	マイクの特性を理解した上で、映像に応じた音を録るためには、適切な位置にマイクを配置する事が重要である事を理解する。 適切な信号レベルで録音する必要がある事を理解し、実践面でも適切なレベルで歪みのない録音を出来るようにする。 ワイヤレスマイクを使用したマルチトラック録音を行い、仕上げでの選択肢を増やす事を学ぶ。 セリフ・効果音・音楽の担当者が協同して作品を完成させる事を実践的に理解する。 学生の力主体で1本の作品を完成させる。 録音部として映画作りに関わり、各パートと協同して自分たちの作品を完成させる。							
授業計画	週数	内容						
	1	マルチトラック録音/ワイヤレスマイク/ENG録音 ワイヤレスマイクの基礎。電磁波と電波の基礎と電波法の理解。 多チャンネルでの録音方法とその注意点など。 ドキュメンタリーやテレビ収録などで見られる撮影隊が行う録音方法であるENG収録について学ぶ。						
	2	ワイヤレス基礎 ENGスタイル収録 動画制作① ワイヤレスマイクの基礎 電波の基礎 ENGスタイルでの動画収録・編集・動画を制作する						
	3	ワイヤレス基礎 ENGスタイル収録 動画制作② ENGスタイルでの動画収録・編集・動画を制作する 音のMixを行う。 動画アップロード&共有する。						
	4	合同制作 制作準備 スタッフ編成および演出部に合流、準備スケジュールの作成、キャスティング、ロケハン(ロケーションハンティング)、衣装合わせ、美術・小道具、メインロケハン、リハーサル、撮影スケジュールの決定						
	5	合同制作 制作準備&撮影&ラッシュ 合同実習に向け、機材のセッティングの確認および未学習の機材を学ぶ。 マイクオペレーションの基礎の確認						
	6	合同制作 現場:撮影&ラッシュ						
	7	合同制作 仕上げ:編集期間 ラッシュ、音素材送り、編集ラッシュ、整音作業、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ サラウンドのセッティング及び音作り						
	8	合同制作 仕上げ:編集期間 ラッシュ、音素材送り、編集ラッシュ、整音作業、アフレコ、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ サラウンドのセッティング及び音作り						
	9	合同制作 仕上げ:編集のFIX オールラッシュ、ダビング打合せ、音の素材集め、音設計・音楽打ち合わせ、フォーリー、音の仕込み						
	10	合同制作 仕上げ:音作業 整音作業、音の素材集め、フォーリー、音の仕込み、ダビング仕込み						
	11	合同制作 仕上げ:音作業 整音作業、音の素材集め、フォーリー、音の仕込み、ダビング仕込み						
	12	合同制作 仕上げ:ダビング仕込み、ダビング						
	13	合同制作 デジタル出力・0号試写						
14	作品発表会・合評・総括							
授業外学習	JPPA『映像音響処理技術者資格認定試験問題集』を使い、自身の音響技術の理解度を確認する。 後期実習で用いるRoland R88とSONY WRR-861,WRT-822のマニュアルを熟読し、機材の使い方を身につけると共にマニュアルを読む力を身につける							
教科書	—							
主要参考書	書籍 サウンドとオーディオ技術の基礎知識 (リットーミュージック 1600円+税) JPPA『映像音響処理技術者資格認定試験問題集』							
評価方法	補講～1週目ワイヤレス・マルチトラック 10%、2～4週目の準備期間 20%、5週～6週目の撮影期間 30%、7週～12週までの仕上げ期間40%。以上4つの段階毎に映画制作への積極的な参加の姿勢、作品と各パートの役割の理解力、授業内容の理解度、技術への関心、共同作業でのコミュニケーション能力などから総合的に評価する							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
合同制作(ドラマ) (編集コース)					大永 昌弘 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	10	3	後期	F(その他)	新百合
履修条件	編集コース。							
授業概要	各専門コースに分かれて学んできた3年生(演出/撮影照明/録音/編集コース)による合同実習。脚本をもとに各班に別れて撮影し、編集を行いDCP上映に向けて作品を仕上げる。							
到達目標	(各専門コースが合同演習することによって)コミュニケーション能力と、編集思考・技術を習得することを目指す。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	映像加工・タイトル作成を学ぶ(Photoshop/After Effects使用)						
	2	映像加工・タイトル作成を学ぶ(Photoshop/After Effects使用)						
	3	外部講師を招き編集技法を学ぶ						
	4	プレスコアリング撮影素材を編集する						
	5	01) 編集準備を開始する 02) 音付け及び編集作業 編集が固まるまで編集ラッシュを繰り返し、精査する 03) オールラッシュ 04) 音楽および音響効果打ち合わせ 05) 音声・映像データの書き出し						
	6							
	7							
	8							
	9							
	10	06) 撮影照明・編集コース合同でグレーディングを学ぶ 07) カット表の作成 08) コンフォーム	A) 予告編作成の講義 B) 予告編の作成					
	11	09) グレーディング	C) 予告編の作成					
	12	10) ダビング 11) オーサリング	D) 予告編の作成					
	13	12) 作品発表会 ・合評	E) 予告編の発表会					
14								
授業外学習	デジタル編集習得のため、編集室及び編集機の空いている時間は使用許可を貰い練習をかさねること。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	受講姿勢・態度(60%)、デジタル編集基礎の理解度(30%)、合同制作における成果物評価(10%)をみて総合的に評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
脚本専門演習Ⅱ〈脚色〉					荒井 晴彦 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	白山
履修条件	脚本コース。							
授業概要	原作(小説など)を元に長編シナリオを執筆する。小説とシナリオは同じ物語でもいかに違うかを知り、映画表現とは何かを学ぶ。自分の外に物語を置く事によって、知らない世界を調査等によって知り、他者(世界)を認識させる。コンストラクション(構成)ダイアローグ(台詞)ト書き等、さらに専門的技術を習得させると同時に長編を書く持続力と体力をやしなう。							
到達目標	脚色を書き上げることによって、シナリオの構造、ト書き等の技術を習得する。							
授業計画	週数	内容						
	1	書いて来た箱書きを元に各自、その原作を選んだ理由を発表させ、原作のテーマを見つけさせる。(場合によっては、原作の変更も示唆する)						
	2	原作をそのまま脚本形式に起こさせ(ベタ起こし)、小説とシナリオの表現の違いを認識させる。						
	3	既成の原作物の映画を原作～脚本～完成した映画の順でたどって、解析する。①長編小説の場合。						
	4	既成の原作物の映画を原作～脚本～完成した映画の順でたどって、解析する。②短編小説の場合。						
	5	ベタ起こしを元に箱書きを書き、映画としての構成を考える。						
	6	それぞれが、どういう映画にするかを考えて、プロットにする。						
	7	プロットを元に調べなければならないことや、取材すべきことを指導する。						
	8	本や、取材で得たことを元にさらにプロットを練る。						
	9	プロットを元に箱書きを作る。						
	10	脚本執筆に入る。						
	11	既存の原作物の映画を観て、脚本～原作と逆にたどって、解析する。						
	12	既存の原作物の映画を観て、脚本～原作と逆にたどって、解析する。						
13	書き上げた初稿を箱書きに戻し、検証する。検証を元に脚本を直す。マンツーマンで脚本の直しを指導する。合評。							
授業外学習	プロット及びシナリオの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	指導教員がその都度指示をします。							
評価方法	取組姿勢及び執筆物の成果を総合的に評価。							
教員への連絡方法	授業内で周知							

科目名					担当者名			
文芸専門演習Ⅱ(批評)					大澤 信亮 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	8	3	後期	F(その他)	白山
履修条件	—							
授業概要	この講義では、様々なジャンルの批評文を読み、書く。批評とは、自らの思考や感覚それ自体を、言葉によって作品化する試みである。そのため、批評の本質は、その自由さにあると言える。ここでは「映画批評」、「社会批評」、「文芸批評」の著名な作品を取りあげ、それらが対象についていかに思考し、その思考を作品化しているかを学ぶ。受講者は毎週1冊ないし1本以上の批評文を読み、それについての書評・論評を提出した上で、各回の授業に臨む。最終課題として8000字の批評文の提出を求める。テーマは受講者と講師の相談によって決める。この講義は4年次の「卒業制作」で批評を選択する者の準備にもなっている。							
到達目標	様々なジャンルの批評文を読む力・書く力を身につける。							
授 業 計 画	週数	内 容						
	1	映画批評Ⅰ:佐藤忠男『小津安二郎の芸術』作家論の方法						
	2	映画批評Ⅱ:蓮實重彦『監督 小津安二郎』表象分析の方法						
	3	映画批評Ⅲ:合宿「小津安二郎記念 蓼科高原映画祭」古典的名作の現代的意義						
	4	社会批評Ⅰ:杉田俊介『非モテの品格』実存的批評発表						
	5	社会批評Ⅱ:東浩紀『動物化するポストモダン』ゲームを中心とする現代社会批評						
	6	社会批評Ⅲ:大塚英志『物語消費論』民俗学的手法による消費社会批評						
	7	文芸批評Ⅰ:山城むつみ『小林批評のクリティカル・ポイント』規範的な文芸批評						
	8	文芸批評Ⅱ:柄谷行人『意識と自然』哲学としての批評						
	9	文芸批評Ⅲ:小林秀雄『モーツァルト』芸術としての批評						
	10	最終課題準備(構成・参考文献の整理)						
	11	最終課題草稿						
	12	最終課題完成(8000字)						
13	発表・講評・ディスカッション							
授業外学習	9月下旬に合宿を行う(蓼科高原映画祭)。							
教科書	教場で指示する。							
主要参考書	とくになし。							
評価方法	最終課題(30%)、各回の課題レポート(60%)、授業貢献度(10%)							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
卒業制作〈ドラマ〉（演出コース）					緒方明 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	新百合
履修条件	演出コース。卒制候補脚本を期限までに提出すること。							
授業概要	<p>創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフイング、キャスティング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐える作品作りを目指す。</p> <p>また、映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰も経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどめるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作品として成立させるだけでなく、一般の鑑賞に耐えうるレベルの作品を制作する。 ・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。 							
授業計画	内 容							
	<ol style="list-style-type: none"> (1) 3月上旬…演出コース脚本提出→創作系講師により一次選考 (2) 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票 (3) 4月下旬…撮影作品決定、班編成、脚本直し開始 (4) 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャスティングなど (5) 5月下旬…スケジュール試案、学校に提出 (6) 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認 (7) 7月上旬…撮影クランクIN(危険撮影は講師立ち合い)、ラッシュチェック (8) 7月下旬…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ (9) 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ (10) 9月中旬…オールラッシュ、整音開始 (11) 9月下旬…グレーディング (12) 10月上旬…ダビング(MA) (13) 10月下旬…0号試写、完成 (14) 11月下旬…合評会 (15) 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成 (16) 12月中旬…作品の展開とパブリシティ (17) 1月下旬…劇場公開準備 (18) 卒制作品劇場公開 							
授業外学習	■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか							
教科書	「映像作家サバイバル入門 自分で作る／広める／回収するために」松江哲明著							
主要参考書	「日本映画の国際ビジネス」キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネ旬報							
評価方法	制作期間及び宣伝・配給・上映授業への姿勢・積極性<50%>。作品やチームへの貢献度<25%>。映画制作の習熟度<25%>。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
卒業制作〈公演〉					天願 大介、中原 俊 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	新百合
履修条件	身体表現・俳優コース。「身体表現専門演習」「合同制作」を履修していること。							
授業概要	映像演技の向上を目指し、3年演出専門演習(3分エチュード)と3年脚本専門演習 I (短編映画制作)への参加を予定(演出コースの状況に応じて変更あり)。その後に演出家のWSを経て、台本制作、稽古、演出、宣伝など舞台制作を総合的に行い、卒業公演を上演する。							
到達目標	演出の助けになる俳優の完遂 / 一般公開できる卒業公演							
授業計画	内 容							
	(1) オーディションの受け方 (2) 映像演技基礎訓練 (3) 3年演出専門演習(3分エチュード)への参加 (4) 3年脚本専門演習 I (短編映画制作)への参加 (5) 演技WS① (6) 演技WS② (7) 卒業公演に向けた演目の選定 スタッフの選定 (8) 台本づくり① (9) 台本づくり② (10) 稽古① (11) 稽古② (12) 稽古③ (13) 稽古④ 諸準備 (14) 稽古⑤ 諸準備 (15) 卒業公演							
授業外学習	映画、演劇、芸能を中心に素養を深める。							
教科書	作品によって指定する。							
主要参考書	適宜、通達、もしくは配布する。							
評価方法	受講態度(自分の役割の責任をどこまで果たしたか)。すべて出席すること。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名				
卒業制作<ドキュメンタリー>					安岡 卓治、島田 隆一 ほか				
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎	
2018～	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	白山	
履修条件	ドキュメンタリーコース。「ドキュメンタリー専門演習Ⅰ～Ⅱ」を修了していること。								
授業概要	<p>ドキュメンタリーに限らず、映画、ひいては表現活動すべてに底通する源泉は、一個一個の個人の中にある問題意識や美意識である。伝えたいという心、見せたいという心、それが源にある。学生ひとりひとりに固有の作品があるべきだ。これまでのドキュメンタリー制作を軸とした専門演習で、各学生はそれぞれの企画を練り上げてきた。これらを映画作品として作り上げることが本講座のプロセスである。学生各々の企画提案を学生講師で協議しながら、企画主旨を共有できるスタッフによって制作班を編成し、それぞれの企画の実現に取り組む。本講座の履修期間内に完成することが困難な企画や、具体的な取材対象者、団体等の協力を得ることが困難な企画は制作対象から外れる場合がある。取材、撮影、編集・・・制作の過程で数々の困難や失敗を経験しながら、映画を知り、人間を知る。</p> <p>映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰も経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどけるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒制としてドキュメンタリー映画の制作を体験しながら、それぞれの役割を全うすること。 ・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。 								
授業計画	内 容								
	(1) ～3月上旬…企画書協議＋班編成 (2) ～4月上旬…班別協議＋班別指導 (3) ～4月上旬…撮影設計・スケジュール策定・取材調査 (4) 4月上旬～7月上旬…撮影 (5) 4月上旬～7月上旬…撮影後随時ラッシュチェック (6) 4月上旬～7月上旬…映像デジタルイズ・編集データ整理・文字起こし (7) 7月上旬…構成案策定 (8) 7月下旬…第一次編集・音声調整 (9) 8月上旬…編集チェック・再構成 (10) 9月中旬…第二次編集 (11) 9月下旬…編集チェック・再構成・追加撮影・資料撮影 他 (12) 9月中旬…最終編集 (13) 9月下旬…ゼミ内講評 (14) 10月上旬…編集直し・MA (15) 11月下旬…合評会 (16) 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成 (17) 12月中旬…作品の展開とパブリシティ (18) 1月下旬…劇場公開準備 (19) 卒制作品劇場公開								
	授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ■取材・調査・企画練成 ■撮影・録音・編集等の技術練成 ■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか 							
	教科書								
	主要参考書	『ドキュメンタリー・ストーリーテリング―「クリエイティブ・ノンフィクション」の作り方』(フィルムアート社)、『ドキュメンタリーとは何か―土本典昭・記録映画作家の仕事』、『映画は生きものの仕事である―私論・ドキュメンタリー映画』(未来社)、『映画の瞬き―映像編集という仕事』(フィルムアート社)、『映画もまた編集である―ウォルター・マーチとの対話』(みすず書房)、『日本映画の国際ビジネス』(キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」(キネマ旬報)							
	評価方法	卒制作品制作への取り組み(60%)、合評会での主張(20%)、上映授業に参加する姿勢(20%)。							
	教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名															
卒業制作(ドラマ) (撮影照明コース)					さの てつろう、新家子 美穂 ほか															
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎												
2018～	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	新百合												
履修条件	撮影照明コース																			
授業概要	<p>創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフイング、キャスティング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐える作品作りを目指す。</p> <p>映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰も経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどめるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。</p>																			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作品として成立させるだけでなく、一般にも公開できるレベルの作品を制作する。 ・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。 																			
授業計画	内 容																			
	<ol style="list-style-type: none"> (1) 3月上旬…演出コース脚本提出→創作系講師により一次選考 (2) 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票 (3) 4月下旬…撮影作品決定、班編成、脚本直し開始 (4) 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャスティングなど (5) 5月下旬…スケジュール試案、学校に提出 (6) 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認 (7) 7月上旬…撮影クランクIN(危険撮影は講師立ち合い)、ラッシュチェック (8) 7月下旬…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ (9) 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ (10) 9月中旬…オールラッシュ、整音開始 (11) 9月下旬…グレーディング (12) 10月上旬…ダビング(MA) (13) 10月下旬…0号試写、完成 (14) 11月下旬…合評会 (15) 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成 (16) 12月中旬…作品の展開とパブリシティ (17) 1月下旬…劇場公開準備 (18) 卒制作品劇場公開 																			
授業外学習	■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか																			
教科書	—																			
主要参考書	「日本映画の国際ビジネス」キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネマ旬報																			
評価方法	<table border="0"> <tr> <td>○授業への参加態度</td> <td>90/100 poi</td> <td>○コミュニケーション能力</td> <td>70/100</td> <td>○知識の理解度</td> <td>60/100</td> </tr> <tr> <td>○機材運用等の習熟度</td> <td>80/100</td> <td>○仕上げ作業への参加態度</td> <td>70/100</td> <td>○撮影技術等への探究心</td> <td>60/100</td> </tr> </table>								○授業への参加態度	90/100 poi	○コミュニケーション能力	70/100	○知識の理解度	60/100	○機材運用等の習熟度	80/100	○仕上げ作業への参加態度	70/100	○撮影技術等への探究心	60/100
○授業への参加態度	90/100 poi	○コミュニケーション能力	70/100	○知識の理解度	60/100															
○機材運用等の習熟度	80/100	○仕上げ作業への参加態度	70/100	○撮影技術等への探究心	60/100															
教員への連絡方法	メール																			

科目名					担当者名			
卒業制作(ドラマ) (録音コース)					若林 大介、弦巻 裕 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	新百合
履修条件	録音コース。							
授業概要	<p>【前期】 創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフイング、キャスティング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐える作品作りを目指す。</p> <p>【後期】 映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰も経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどめるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作品として成立させるだけでなく、一般にも公開できるレベルの作品を制作する。 ・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。 							
授業計画	内 容							
	<ol style="list-style-type: none"> (1) 3月上旬…演出コース脚本提出→創作系講師により一次選考 (2) 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票 (3) 4月下旬…撮影作品決定、班編成、脚本直し開始 (4) 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャスティングなど (5) 5月下旬…スケジュール試案、学校に提出 (6) 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認 (7) 7月上旬…撮影クランクIN(危険撮影は講師立ち合い)、ラッシュチェック (8) 7月下旬…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ (9) 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ (10) 9月中旬…オールラッシュ、整音開始 (11) 9月下旬…グレーディング (12) 10月上旬…ダビング(MA) (13) 10月下旬…0号試写、完成 (14) 11月下旬…合評会 (15) 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成 (16) 12月中旬…作品の展開とパブリシティ (17) 1月下旬…劇場公開準備 (18) 卒制作品劇場公開 							
授業外学習	■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか							
教科書	「映像作家サバイバル入門 自分で作る／広める／回収するために」松江哲明著							
主要参考書	「日本映画の国際ビジネス」キネ旬ムック、「映画・映像産業ビジネス白書」キネ旬月報							
評価方法	①準備、撮影、仕上げ、上映の各期間での取り組み方と積極性 ②作品とチームに対する貢献度 ③撮影、仕上げにおける技術的到達度							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
卒業制作(ドラマ) (編集コース)					大永 昌弘 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	新百合
履修条件	編集コース。							
授業概要	<p>創作系コースに進んだ学生が4年間の集大成として、企画、脚本、スタッフイング、キャスティング、ロケハン、リハーサル、撮影、仕上げなど、すべて学生主体で自主的に体験し、映画製作を体得する。専門コースごとに修得した技術を用い鑑賞に耐える作品作りを目指す。</p> <p>また映画は、観客と出会って初めて映画となる。卒業制作に込めた様々な思いが、果たして観客にどのように伝わるのだろうか？ひとりよがりの思い込みは誰しも経験する。他者の眼に触れたとき、作品の真価が明らかになる。「卒業制作」で完成させた自らの作品をどのように観客にとどけるのか、そのプロセスを体験的に学習しながら、映画の広がりについて学ぶ。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作品として成立させるだけでなく、一般にも公開できるレベルの作品を制作する。 ・卒業制作として完成させた作品をより多くの観客に提示し、評価を獲得する。 							
授業計画	内 容							
	<ol style="list-style-type: none"> (1) 3月上旬…演出コース脚本提出→創作系講師により一次選考 (2) 4月上旬…一次選考通過者によるプレゼンテーション→参加学生の脚本精読、投票 (3) 4月下旬…撮影作品決定、班編成、脚本直し開始 (4) 5月上旬…各班における準備開始、ロケハン、美術準備、キャスティングなど (5) 5月下旬…スケジュール試案、学校に提出 (6) 6月中旬…ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定、危険撮影の確認 (7) 7月上旬…撮影クランクIN(危険撮影は講師立ち合い)、ラッシュチェック (8) 7月下旬…撮影クランクUP→美術バラシ。関係各所へのあいさつ (9) 8月上旬…編集開始、編集ラッシュ、音ロケ、アフレコ (10) 9月中旬…オールラッシュ、整音開始 (11) 9月下旬…グレーディング (12) 10月上旬…ダビング(MA) (13) 10月下旬…0号試写、完成 (14) 11月下旬…合評会 (15) 12月上旬…映画祭出品及び上映用資料作成 (16) 12月中旬…作品の展開とパブリシティ (17) 1月下旬…劇場公開準備 (18) 卒制作品劇場公開 							
授業外学習	■プレスリリース作成 ■SNS展開 ■チラシ・ポスター・チケットの配布 ■予告編制作 ほか							
教科書	松江哲明『映像作家サバイバル入門 自分で作る／広める／回収するために』(フィルムアート社、2011)							
主要参考書	キネマ旬報映画総合研究所『日本映画の国際ビジネス(キネ旬ムック)』(キネマ旬報社、2009) キネマ旬報映画総合研究所『映画・映像産業ビジネス白書』(キネマ旬報社、2012)							
評価方法	受講姿勢・態度(80%)、成果物評価(20%)をみて総合的に評価する。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
卒業制作〈シナリオ〉					斎藤 久志、荒井 晴彦			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	白山
履修条件	脚本コース。							
授業概要	脚本コースに進んだ人は、外に出せる250枚のシナリオを持って卒業することを目指します。ここまで学んできたシナリオ技術と、人としての成長を、劇場用映画の長さにあわせて、一般映画と肩を並べられるレベルまで到達できるまで個別指導をおこないます。							
到達目標	250枚のオリジナル脚本の完成。							
授業計画	内 容							
	<p>以下のようなスケジュールで進行する。</p> <p>① 4月： 企画開発。</p> <p>② 5月～6月： プロット作り。</p> <p>③ 7月～8月下旬： シナリオ執筆。</p> <p>④ 9月上旬： 合宿によるシナリオ直し。</p> <p>⑤ 9月下旬： シナリオの提出</p> <p>○ 場合によってはワンシーンもしくはワンシークエンス撮影をして、それを観て、シナリオの検証をおこなう。</p> <p>これらの過程を経て、250枚のオリジナルシナリオを完成させ、9月末〆切のシナリオ作家協会主催の「新人シナリオコンクール」への応募を目指す。</p> <p>10月からは、120枚のTVドラマのシナリオ作りにとりかかり、11月末〆切の「テレビ朝日21世紀新人シナリオ大賞」の応募を目指す。</p> <p>参考のTVドラマを観せて、テレビドラマ研究をやった後に、執筆にとりかかる。</p>							
授業外学習	プロット及びシナリオの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	それぞれの書くシナリオの題材にあった映画、シナリオ、書籍などを、教員がその都度提示します。							
評価方法	執筆物の成果。							
教員への連絡方法	授業内で周知							

科目名					担当者名			
卒業制作<文芸>					大澤 信亮、藤田 直哉			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	専門	選択必修	演習	12	4	通年	F(その他)	白山
履修条件	文芸コース。							
授業概要	文芸コースの最終成果物として、小説(40000字)か評論(20000字)のいずれかを選択し、一年間を通して完成させる。受講者は、大澤・藤田のいずれかを主査、他方を副査とし、それぞれの指導を受けつつ、原則として自由に執筆を行うことになる。ただし、完成までには下記のプロセスを経ることが必須となり、そのつど求める課題の提出および連絡や報告の姿勢も成績評価の与件となる(最終成果物としてどれほど優れた作品を提出しても、下記のプロセスを守らなかった場合、不合格になる可能性がある)。							
到達目標	40000字(原稿用紙100枚)の小説、あるいは、20000字(原稿用紙50枚)の評論の完成。							
授業計画	内 容							
	<p>卒業制作作品提出までの間は、大澤・藤田いずれかをそれぞれ主査・副査とし、以下のプロセスで作品完成まで進めていく。前期中に、中間発表会・講評会を実施する(全員参加必須)。「卒制中間発表会①②」では、全員が経過を報告し、教員からのアドバイスを受ける。②は合宿として実施する。8月以降は、毎月一度草稿の提出を課す。具体的な日程については確定次第連絡する。</p> <p>① 4月： 卒制ガイダンス、指導開始</p> <p>② 6月上旬： 卒業制作計画書(テーマ・プロット・構成案の提出)</p> <p>③ 7月上旬： 卒制中間発表会①4000字程度の作品の断片の提出</p> <p>④ 8月下旬： 卒制中間発表会②【卒論合宿】(①の4000字の断片の書き直し・シノプシス・構成の提出)</p> <p>⑤ 9月末： 草稿①提出(全体の3分の1程度の分量)</p> <p>⑥ 10月末： 草稿②提出(全体の3分の2程度の分量)</p> <p>⑦ 11月末： 初稿提出(規定分量、小説40000字、評論20000字)</p> <p>⑧ 12月中旬： 卒業制作の提出</p> <p>⑨ 翌年1月下旬： 提出作品の講評</p> <p>⑩ 翌年2月： 卒業文集の編集</p>							
授業外学習	8月の合宿。							
教科書	とくになし。							
主要参考書	とくになし。							
評価方法	最終提出作品・中間提出課題・参加態度の総合によって決める。							
教員への連絡方法	メール							

科目名					担当者名			
卒業シナリオ I (再履修)					荒井 晴彦、斎藤 久志			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	8	4	通年	F(その他)	白山
履修条件	脚本コース(脚本演出コース)。							
授業概要	脚本コースに進んだ人は、外に出せる250枚のシナリオを持って卒業することを目指します。ここまで学んできたシナリオ技術と、人としての成長を、劇場用映画の長さにごちこんで、一般映画と肩を並べられるレベルまで到達できるまで個別指導をおこないます。							
到達目標	250枚のオリジナル脚本の完成。							
授業計画	内 容							
	<p>以下のようなスケジュールで進行する。</p> <p>① 4月: 企画開発。</p> <p>② 5月～6月: プロット作り。</p> <p>③ 7月～8月下旬: シナリオ執筆。</p> <p>④ 9月上旬: 合宿によるシナリオ直し。</p> <p>⑤ 9月下旬: シナリオの提出</p> <p>○ 場合によってはワンシーンもしくはワンシーケンス撮影をして、それを観て、シナリオの検証をおこなう。</p> <p>これらの過程を経て、250枚のオリジナルシナリオを完成させ、9月末〆切のシナリオ作家協会主催の「新人シナリオコンクール」への応募を目指す。</p> <p>10月からは、120枚のTVドラマのシナリオ作りにとりかかり、11月末〆切の「テレビ朝日21世紀新人シナリオ大賞」の応募を目指す。</p> <p>参考のTVドラマを観せて、テレビドラマ研究をやった後に、執筆にとりかかる。</p>							
授業外学習	プロット及びシナリオの執筆。							
教科書	—							
主要参考書	それぞれの書くシナリオの題材にあった映画、シナリオ、書籍などを、教員がその都度提示します。							
評価方法	執筆物の成果。							
教員への連絡方法	授業内で周知							

科目名					担当者名			
卒業論文Ⅱ(再履修)					伊津野 知多、石坂 健治、大友りお、田辺秋守			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
～2017	専門	選択必修	演習	4	4	通年	F(その他)	白山
履修条件	映画・映像文化コース							
授業概要	卒業論文の提出、主査・副査との三者面談形式による「卒業論文口述試験」を受けること、「卒業論文集」に掲載する最終原稿を提出すること、「卒業論文集」の校正作業に参加すること、卒業研究発表会で発表することが必須である。							
到達目標	①論理的な思考法、文章表現やプレゼンテーションの技術など、これまで学んできたことを応用、実践できるようになる。 ②自ら目標を設定し、スケジュールを立てて実行する自己管理能力を身につけることができる。							
授業計画	内 容							
	<p>以下のようなスケジュールで進行する。具体的な日程はその都度大学メールにて連絡する。</p> <p>① 12月中旬： 卒業論文の提出</p> <p>② 2022年1月上旬： 卒業論文口述試験(主査・副査との三者面談形式)</p> <p>③ 2022年1月下旬： 「卒業論文集」掲載用の最終原稿の提出 (メール提出)</p> <p>④ 2022年2月： 「卒業論文集」の校正作業</p> <p>⑤ 2022年2月： 卒業研究発表会</p>							
授業外学習	教員は随時アドバイスや指導をするが、卒業論文の基本は授業外の自主的な学習である。各自主体的に取り組んでほしい。							
教科書	—							
主要参考書	—							
評価方法	卒業論文の内容と口述試験の成績によって評価する(学修成果の評価)。 「卒業論文集」掲載用の最終原稿の提出と校正作業への参加、卒業研究発表会での発表は必須だが、内容を成績評価の対象にはしない。							
教員への連絡方法	主査・副査に直接問い合わせること。							

科目名					担当者名			
映画祭プロジェクト					石坂 健治 ほか			
入学年度	科目区分	科目分類	授業形態	単位数	配当年次	学期	講義型	校舎
2018～	資格	選択	自由	2	4	前期	F(その他)	白山・外部
履修条件	「上映企画WS」に合格した者							
授業概要	3年次の「上映企画WS」を経て特集上映会の内容が固まったところから、実際に外部の会場を使って一般に公開する映画イベントを開催するところまでが本講の範囲である。(曜日、教室などが流動的になる期間あり。授業時に告知します。)							
到達目標	①映画を観客に届けることを考える。②映画館というリアルな空間で映画を上映することを考える。							
授業計画	日数	内容						
	1	映画祭の準備①——配給会社との出品交渉、ゲストとの出演交渉など						
	2	映画祭の準備②——宣材物やSNSを使った広報宣伝活動など						
	3	映画祭の準備③——上映会の進行台本の作成、各自の業務の割り振りなど						
	4	映画祭(1日目)						
	5	映画祭(2日目)						
	6	映画祭(3日目)						
	7	上映素材の返却、会計の残務処理、イベントの総括など						
授業外学習	なし							
教科書	なし							
主要参考書	なし							
評価方法	イベント終了後のレポート50%+授業への取り組み50%で総合的に判断する。							
教員への連絡方法	メール オフィスアワー(別途告知)を活用せよ。							

科目別索引

あ	アニメーション・特撮文化論	26	脚本基礎演習	87	
い	異文化コミュニケーション	59	脚本専門演習Ⅰ〈短編映画制作〉	109	
	インターンシップ	71	脚本専門演習Ⅱ〈脚色〉	117	
	インプロビゼーション演習	102	脚本WS	81	
え	映画祭プロジェクト	129	キャリア・サポート	69	
	映画史概論〔前期〕	12	け	芸能概論	35
	映画史概論〔後期〕	14	こ	合同制作〈身体表現Ⅱ〉(身体表現・俳優コース)	112
	映画史基礎(1年生)	17		合同制作〈ドラマ〉(演出コース)	111
	映画史基礎(2年生)	18		合同制作〈ドラマ〉(撮影照明コース)	114
	映画制作基礎演習	88		合同制作〈ドラマ〉(編集コース)	116
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅰ	47		合同制作〈ドラマ〉(録音コース)	115
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅱ〈国際情勢〉	49		国際合同制作〈日韓合同映画制作〉	64
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅲ〈ジェンダーとセクシュアリティ〉	54		心の健康	48
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅳ〈ネイションとエスニシティ〉	56		こども映画教育演習	70
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅴ〈現代思想〉	57	さ	撮影照明基礎演習	94
	映画で学ぶ歴史と社会Ⅵ	58		撮影照明専門演習	99
	映画と演劇	39		雑誌制作	97
	映画と音楽	42		サブ・カルチャー論	21
	映画と文学	34	し	社会学	51
	映画と法	55		写真論	36
	映画美術演習Ⅰ	79		上映企画WS	86
	映画美術演習Ⅱ	80		身体表現専門演習	104
	映画プロデュースWS	78	す	スタートアップ演習	9
	映画流通論Ⅰ	50	そ	卒業シナリオⅠ(脚本コース)	127
	映画流通論Ⅱ	52		卒業制作〈公演〉(身体表現・俳優コース)	120
	英語Ⅰ	60		卒業制作〈シナリオ〉(脚本コース)	125
	英語Ⅱ	67		卒業制作〈ドキュメンタリー〉	121
	映像と美術	46		卒業制作〈ドラマ〉(演出コース)	119
	英米文学	43		卒業制作〈ドラマ〉(撮影照明コース)	122
	演劇史〈物語の原型を探る〉	44		卒業制作〈ドラマ〉(編集コース)	124
	演劇WS	72		卒業制作〈ドラマ〉(録音コース)	123
	演出基礎演習Ⅰ〈ドキュメンタリー〉	93		卒業制作〈文芸〉(文芸コース)	126
	演出基礎演習Ⅱ〈ワンシーン〉	98		卒業論文Ⅱ(映画・映像文化コース)	128
	演出専門演習〈3分エチュード〉	103	ち	中国語	62
	演出論Ⅰ	75		長編シナリオ演習Ⅰ	89
	演出論Ⅱ	84		長編シナリオ演習Ⅱ	90
か	韓国語	68		長編シナリオ演習Ⅱ(再履修)	92
き	技術合同演習(撮影照明コース)	106		長編シナリオ制作(再履修)	91
	技術合同演習(編集コース)	108	て	テーマ研究Ⅰ〈アジア映画入門〉	20
	技術合同演習(録音コース)	107			

テーマ研究Ⅱ〈アジアのフィルム・ノワール〉	23	録音専門演習	100
テーマ研究Ⅲ〈ホラー映画論〉(3年)	25	録音WS	76
テーマ研究Ⅲ〈ホラー映画論〉(4年)	31		
テーマ研究Ⅳ〈ヨーロッパ映画論〉(3年)	27		
テーマ研究Ⅳ〈ヨーロッパ映画論〉(4年)	30		
テーマ研究Ⅴ〈シャレード概論〉	28		
デジタル映像技術概論	53		
デジタル動画WS	74		
哲学	45		
と 動画配信WS	77		
特殊撮影・VFX 基礎	83		
特殊撮影・VFX WS	85		
ドキュメンタリー映画史	16		
ドキュメンタリー専門演習Ⅰ	105		
ドキュメンタリー専門演習Ⅱ	113		
ドキュメンタリーWS	73		
に 日本映画史Ⅰ〔前期〕	11		
日本映画史Ⅰ〔後期〕	13		
日本映画史Ⅱ	15		
日本語Ⅰ	61		
日本語Ⅱ(Aクラス)	65		
日本語Ⅱ(Bクラス)	66		
日本文化論	29		
人間総合研究	10		
ひ 美術史Ⅰ〈日本美術史〉	38		
美術史Ⅱ〈西洋美術史〉	41		
表象文化論Ⅰ	19		
表象文化論Ⅱ	24		
ふ ファッション文化史	37		
フィルム・アーカイヴ	22		
文学	40		
文芸映画論	33		
文芸専門演習Ⅰ〈読解・ライティングWS〉	110		
文芸専門演習Ⅱ〈批評〉	118		
文章作法	63		
へ 編集基礎演習	96		
編集専門演習	101		
編集WS	82		
も 物語論	32		
ろ 録音基礎演習	95		

授業担当教員

あ 荒井晴彦（特任教授、脚本家、映画監督）

長編シナリオ演習Ⅰ・Ⅱ、脚本WS、脚本専門演習Ⅱ、卒業制作、卒業シナリオⅠ

アンニ（特任教授、日中映画研究）

日本語Ⅰ、テーマ研究Ⅱ

い 石坂健治（教授、映画祭ディレクター）

スタートアップ演習、日本映画史Ⅰ、映画史基礎、ドキュメンタリー映画史、芸能概論、テーマ研究Ⅰ、映画流通論Ⅰ・Ⅱ、演劇史、映画と法、上映企画WS、映画祭プロジェクト

伊津野知多（准教授、映画理論）

スタートアップ演習、日本映画史Ⅰ、映画史概論、映画史基礎、表象文化論Ⅰ・Ⅱ、テーマ研究Ⅲ、インターンシップ、卒業論文Ⅱ

稲垣尚夫（客員教授、美術監督）

映画美術演習Ⅰ・Ⅱ

今井友樹（兼任講師、記録映画監督）

映画で学ぶ歴史と社会Ⅵ

岩瀬政雄（客員教授、音楽プロデューサー）

映画と音楽

岩槻歩（兼任講師、フィルム・アーキヴィスト、雑誌編集）

フィルム・アーカイヴ

お 大澤信亮（准教授、批評家）

スタートアップ演習、文芸映画論、映画で学ぶ歴史と社会Ⅴ、雑誌制作、文芸専門演習Ⅱ、卒業制作

大友りお（教授、文学）

スタートアップ演習、映画で学ぶ歴史と社会Ⅲ、英米文学、日本語Ⅰ、英語Ⅱ、文章作法、卒業論文Ⅱ

大永昌弘（専任講師、映画編集）

編集WS、編集基礎演習、編集専門演習、技術合同演習、合同制作、卒業制作

緒方明（教授、映画監督）

デジタル映像技術概論、キャリア・サポート、演出論Ⅰ、特殊撮影・VFX基礎、特殊撮影・VFXWS、演出基礎演習Ⅱ、卒業制作

小川稔（兼任講師、美術批評、公立美術館長）

美術史Ⅰ

尾上克郎（特任教授、特撮監督・VFXスーパーバイザー）

特殊撮影・VFX基礎、特殊撮影・VFXWS

く 熊岡路矢（特任教授、国際協力、NPO法人顧問）

映画で学ぶ歴史と社会Ⅱ

熊澤誓人（准教授、映画監督）

こども映画教育演習、演出論Ⅱ、演出専門演習、合同制作

さ 斎藤久志（准教授、映画監督、脚本家）

脚本基礎演習、長編シナリオ演習Ⅰ・Ⅱ・制作、脚本WS、インプロビゼーション演習、脚本専門演習Ⅰ、卒業制作、卒業シナリオⅠ

佐川美智子（兼任講師、西洋美術史、版画史）

美術史Ⅱ

さのてつろう（教授、撮影監督）

デジタル動画WS、動画配信WS、撮影照明基礎演習、撮影照明専門演習、技術合同演習、合同制作、卒業制作

し 島田隆一（専任講師、映画監督、プロデューサー）

ドキュメンタリーWS、動画配信WS、演出基礎演習Ⅰ、ドキュメンタリー専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業制作

新家子美穂（専任講師、撮影）

撮影照明基礎演習、撮影照明専門演習、技術合同演習、合同制作、卒業制作

せ 関川夏央（特任教授、作家）

文学、映画と文学、映画で学ぶ歴史と社会Ⅰ

た 高橋世織（特任教授、文芸評論家）

日本文化論、芸能概論、写真論

田辺秋守（教授、映画批評）

スタートアップ演習、映画史基礎、芸能概論、哲学、テーマ研究Ⅳ、物語論、卒業論文Ⅱ

つ 弦巻裕（特任教授、録音）

録音WS、録音基礎演習、録音専門演習、技術合同演習、合同制作、卒業制作

て 天願大介（教授、映画監督、脚本家）

スタートアップ演習、芸能概論、映画と演劇、国際合同制作、演劇WS、身体表現専門演習、卒業制作

と 富山省吾（本学園理事長、映画プロデューサー）

スタートアップ演習、映画流通論Ⅰ、映画プロデューサーWS

な 中原俊（教授、映画監督）

日本映画史Ⅱ、映画美術演習Ⅰ・Ⅱ、合同制作、卒業制作

- は** ハン・トンヒョン（准教授、社会学）
スタートアップ演習、人間総合研究、映画で学ぶ歴史
と社会Ⅳ、社会学、ファッション文化史、韓国語
伴恵理子（兼任講師、公認心理師）
心の健康
- ふ** 藤田直哉（准教授、文芸評論家）
スタートアップ演習、サブ・カルチャー論、アニメー
ション・特撮文化論、映像と美術、動画配信WS、雑
誌制作、文芸専門演習Ⅰ、卒業制作
- ほ** 細野辰興（教授、映画監督）
スタートアップ演習、人間総合研究、日本映画史Ⅱ、
テーマ研究Ⅴ、映画制作基礎演習
- み** ミッシェル・ファン・ボクホースト
英語Ⅰ
- も** 守内映子（准教授、日本語教育）
異文化コミュニケーション、文章作法、日本語Ⅰ・Ⅱ
- や** 安岡卓治（教授、映画プロデューサー）
スタートアップ演習、ドキュメンタリーWS、演出基
礎演習Ⅰ、ドキュメンタリー専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業制
作
山口紀子（兼任講師、日本語教育）
日本語Ⅰ
- り** 劉書明（兼任講師、日本古典文学）
中国語
- わ** 若林大介（専任講師、録音）
デジタル動画WS、録音WS、動画配信WS、録音基礎
演習、録音専門演習、技術合同演習、合同制作、卒業
制作

実務経験のある教員等による授業科目【2021年度】

科目区分	授業科目	年次	単位	授業担当教員	実務家教員	専門分野
教養	テーマ研究V	3・4	2	細野辰興	細野辰興	映画監督
教養	フィルム・アーカイヴ	2	2	岩槻歩	岩槻歩*	フィルム・アーキヴィスト、雑誌編集
教養	映画と音楽	3・4	2	岩瀬政雄	岩瀬政雄*	音楽プロデューサー
教養	映画流通論 I	2	2	石坂健治、富山省吾	石坂健治	東京国際映画祭ディレクター
					富山省吾*	映画プロデューサー、日本アカデミー賞事務局顧問
教養	映画で学ぶ歴史と社会VI	4	2	今井友樹	今井友樹*	記録映画監督
教養	キャリア・サポート	3	2	緒方明 ほか	緒方明	映画監督
専門基礎	映画プロデュースWS	2	2	富山省吾	富山省吾*	映画プロデューサー、日本アカデミー賞事務局顧問
専門基礎	演劇WS	1	2	天願大介	天願大介	映画監督、脚本家
専門基礎	録音WS	2	2	弦巻裕、若林大介 ほか	弦巻裕	録音技師
					若林大介	録音技師
専門基礎	脚本WS	2	2	斎藤久志 ほか	斎藤久志	映画監督
					荒井晴彦*	脚本家・映画監督
専門基礎	映画美術演習 I	2	2	中原俊、稲垣尚夫 ほか	中原俊	映画監督
					稲垣尚夫*	美術デザイナー
専門基礎	映画美術演習 II	2	2	中原俊、稲垣尚夫 ほか	中原俊	映画監督
					稲垣尚夫*	美術デザイナー
専門基礎	演出論 II	3	2	熊澤誓人 ほか	熊澤誓人	映画監督
					サトウトシキ*	映画監督
専門基礎	特殊撮影・VFX 基礎	3	2	尾上克郎、緒方明 ほか	尾上克郎*	特撮監督・VFXスーパーバイザー
					緒方明	映画監督
専門基礎	特殊撮影・VFX WS	3	2	尾上克郎、緒方明 ほか	尾上克郎*	特撮監督・VFXスーパーバイザー
					緒方明	映画監督
専門基礎	上映企画WS	3	2	石坂健治	石坂健治	東京国際映画祭ディレクター
合計	16科目	—	32	—	17名	

・「実務家教員」欄の*印は兼任講師、特任教員または招聘講師を表す。